

小阪合遺跡

—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—
〈昭和60年度 第6次調査報告書〉

1989年

(財)八尾市文化財調査研究会



(財)八尾市文化財調査研究会報告 18 正誤表

頁・行	誤	正
6	WHO	O
13・14	D VI-J 1 D VI-J 10 D V-J 10	D VII-j 1 D VII-j 1 D V-j 10
23・24	F VI-J G VI-C	F VII-j G VII-C
35頁13行	畿内第(6) 様式	畿内第V 様式
52頁26行	SK 1	SK1
67頁15行	遺構が	遺構を

小 阪 合 遺 跡

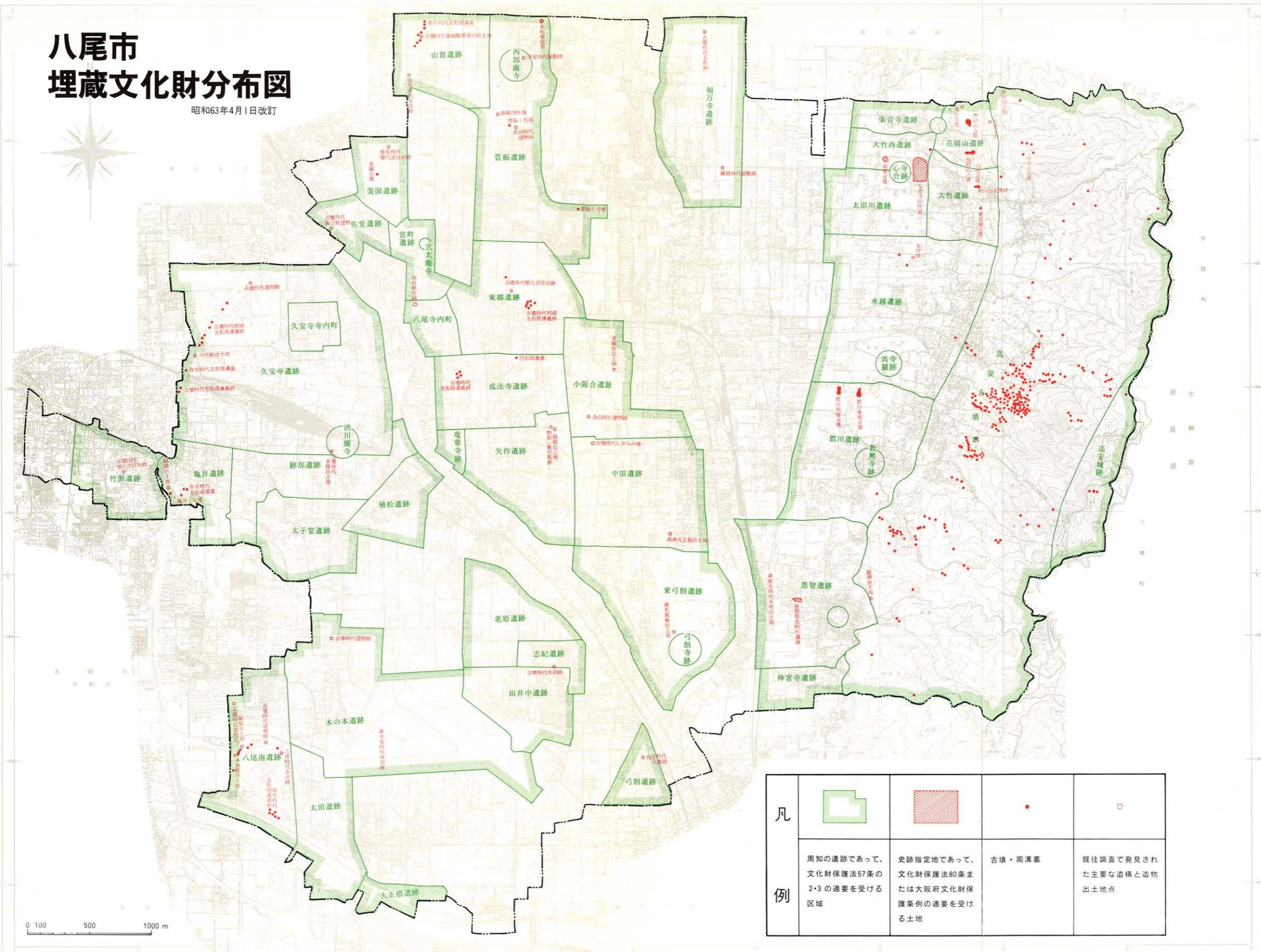
—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—
〈昭和60年度 第6次調査報告書〉

1989年

(財)八尾市文化財調査研究会

八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



序 文

八尾市は、河内平野の中央部よりやや南寄りに位置し、西に生駒山脈の景観をみる温暖で肥沃な土壤を有する地域であり、早くから人々が生活の場として住みはじめたところです。それらの先人が残した大切な遺構・遺物が多く存在しております。

今回の報告は、小阪合遺跡範囲内で昭和57年度より実施してきました八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業の区画街路・公共施設等の建設工事に伴う発掘調査で、昭和60年度に実施した第6次調査の結果報告を刊行したものです。

当遺跡は八尾市の中心部にあたり、古くは旧大和川の幾多の洪水等により沖積された河内平野上に位置します。当遺跡内は、近年の発掘調査によって弥生時代～中世に至る遺構・遺物が多量に検出しています。

ここに改めて、事業者をはじめとし関係各位の文化財保護の立場から充分ご理解賜わり、ご協力いただきましたことを、ここに深甚なる感謝を申上げます。

今後、この書が広く文化財保護にご活用いただければ、この上もない幸せに存じます。共に、当調査研究会に対して尚一層のご指導とご協力を賜りますようにお願い申上げます。

なお、本書作成にあたって、御協力・御指導をいただいた関係各位に感謝の意を表します。

平成元年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 福島 孝

例　　言

1、本書は、八尾市都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う昭和60年度第6次調査の報告である。

1、本書で報告する発掘調査は、八尾市教育委員会の指示のもとで財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市都市整備部南小阪合土地区画整理事務所の委託を受けて実施したものである。

1、本書に要した費用はすべて八尾市区画整理事務所が負担した。

1、本調査は、昭和60年8月1日～12月25日の期間で実施した発掘調査である。なお、出土遺物の整理作業及び報文作成は、昭和63年1月6日～2月28日までである。

1、本調査の参加諸氏は、笛井伸彦・西森忠志・徳谷貢正・高井裕之・岡田清一・八元聰志・森本啓二郎・岩本多貴子・徳谷久美子・村田英子・村田圭子・徳谷（旧姓杉本）尚子・乾（旧姓木曾）直美・山中智美・中西由起子・中村百合・横山真鶴・中西隆子・横山妙子であり、内業整理は上記に加えて、岡田聖一・並河聰也・若竹慶弘・利倉秀樹・森本浩一・松村富子・田中明美・市森千恵子・田島和恵である。

1、本書の執筆は高萩が担当したが、出土遺物観察表は村田（英）・岩本が作成した。

1、遺物実測図は徳谷（尚）・徳谷（久）・高井・村田（圭）、遺物写真撮影は高萩、トレスは岩本が行った。

1、遺構実測図の方位はすべて真北を示している。

1、遺構は下記の略号で表わした。

井戸=S E 土坑=S K 小穴=S P 溝=S D 自然河川=河川

1、遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。

弥生式土器・土師器・瓦器・瓦一白、須恵器・磁器・陶器—黒、石製品・木製品—斜線

1、本書掲載の地図は国土地理院発行の1/2500、八尾市役所発行の1/2500、区画整理事業発行の1/1000を使用した。

本文目次

八尾市埋蔵文化財分布図

序文

例言

第1章 はじめに	1
第2章 調査の概要	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の地区割	5
第3節 調査区の概要	7
第3章 調査の結果	10
第1節 第1調査区	10
I 基本層序	10
II 検出遺構・出土遺物	10
III 遺構に伴わない出土遺物	12
第2節 第2調査区	17
I 基本層序	17
II 検出遺構・出土遺物	18
第3節 第3調査区	22
I 基本層序	22
II 検出遺構・出土遺物	22
第4節 第4調査区	29
I 基本層序	29
II 検出遺構・出土遺物	30
III 遺構に伴わない出土遺物	47
第5節 第5調査区	48
I 基本層序	48
II 検出遺構・出土遺物	48
第6節 第6調査区	51
I 基本層序	51
II 検出遺構・出土遺物	51

III 遺構に伴わない出土遺物	51
第7節 第7調査区	52
I 基本層序	52
II 検出遺構・出土遺物	52
第4章 出土遺物観察表	55
第5章まとめ	67

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図	2
第2図 調査地地区割模式図	6
第3図 遺構配置図 1	8
第4図 遺構配置図 2	9
〈第1調査区〉	
第5図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	10
第6図 第1調査面遺構平面図	13.14
第7図 第2調査面遺構平面図	15.16
第8図 遺構に伴わない出土遺物実測図	17
〈第2調査区〉	
第9図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	18
第10図 S E 1 平断面図	18
第11図 遺構平面図	19.20
〈第3調査区〉	
第12図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	22
第13図 遺構平面図	23.24
第14図 河川1出土遺物実測図 1	25
第15図 河川1出土遺物実測図 2	26
第16図 河川1出土遺物実測図 3	27
第17図 河川1出土遺物実測図 4	28
〈第4調査区〉	
第18図 基本層序柱状図 ($S = 1/40$)	29

第19図 第1調査面北部遺構平面図	31.32
第20図 第1調査面南部遺構平面図	33.34
第21図 S K 9 検出遺物平断面図	35
第22図 S K 9 出土遺物実測図	36
第23図 S D 8 出土遺物実測図	38
第24図 S D 10 検出遺物平断面図	39
第25図 S D 10 出土遺物実測図	40
第26図 第2調査面北部遺構平面図	43.44
第27図 第2調査面南部遺構平面図	45.46
第28図 遺構に伴わない出土遺物実測図	47
〈第5調査区〉	
第29図 基本層序柱状図 (S = 1/40)	48
第30図 第5・第6調査面遺構平面図	49.50
〈第6調査区〉	
第31図 基本層序柱状図 (S = 1/40)	51
第32図 遺構に伴わない出土遺物実測図	51
〈第7調査区〉	
第33図 基本層序柱状図 (S = 1/40)	52
第34図 遺構平面図	53.54

表 目 次

第1表 既往調査一覧表	3.4
第2表 調査区一覧表	5
〈第1調査区〉	
第3表 第2調査面溝 (S D) 一覧表	11.12
〈第4調査区〉	
第4表 第2調査面溝 (S D) 一覧表	41.42
〈第5調査区〉	
第5表 溝 (S D) 一覧表	29

図版目次

- 図版 一 第1調査区 第1調査面全景（南から）
第1調査面北部（南から）
- 図版 二 第1調査区 D V—d・e区 S K 1・S D 1～S D 7（南から）
D V—f 10区 S D 21～S D 24（西から）
- 図版 三 第1調査区 第2調査面全景（南から）
第2調査面北部（北から）
- 図版 四 第1調査区（上） 第2調査面南部（南から）
第2調査区（下） 調査面全景（南から）
- 図版 五 第2調査区 F VI—e 5区 S E 1（南から）
E VI—e・f 3区 S D 1（東から）
- 図版 六 第2調査区 E VI—g 4区 S D 2・S D 3（東から）
F VI—d 5区 S D 6・S D 7（東から）
- 図版 七 第3調査区 調査区全景（南から）
F VI—i 6区河川1内検出弥生式土器（南から）
- 図版 八 第3調査区（上） G VI—c 8区河川1内検出曲物（南から）
第4調査区（下） 第1調査面北部（南から）
- 図版 九 第4調査区 第1調査面南部（南から）
F VI—a 10区 S K 2（東から）
- 図版 一〇 第4調査区 F VI—d 10区 S K 3・S D 3（南から）
F VII—c 1区 S K 4（南から）
- 図版 一一 第4調査区 G VII—d 3区 S K 8（西から）
G VII—f 4区 S K 9 検出遺物（東から）
- 図版 一二 第4調査区 G VII—f 4区 S K 9・S K 10完掘（南から）
F VII—c 1区 S D 4（南から）
- 図版 一三 第4調査区 G VII—b 3区 S D 8（東から）
G VII—c 3区 S D 10検出遺物（西から）
- 図版 一四 第4調査区 G VII—d 3区 S D 11・S D 12（西から）
第2調査面北部（北から）
- 図版 一五 第4調査区 第2調査面中央部（南から）
第2調査面南部（南から）

- 図版 一六 第4調査区（上） G VII—a・b 2区 S D 46～S D 48（東から）
第5調査区（下） 調査区全景（西から）
- 図版 一七 第6調査区（上） 調査区全景（西から）
第7調査区（下） 調査区全景（南から）
- 図版 一八 第7調査区 A VI—d 3区畦畔（西から）
A VI—e 3区 S D 2（西から）
- 図版 一九 出土遺物 第3調査区河川 1
- 図版 二〇 出土遺物 第3調査区河川 1
- 図版 二一 出土遺物 第3調査区河川 1
- 図版 二二 出土遺物 第4調査区 S K 9
- 図版 二三 出土遺物 第4調査区 S K 9 11・13～15
S D 8 18・19・21・24
- 図版 二四 出土遺物 第4調査区 S D 10 26～29・32・33
遺構に伴わない出土遺物 34・39・43・44

第1章 はじめに

今回の調査は、昭和57年度から継続事業として実施している八尾市都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡で実施した第6次調査にあたる。

当遺跡は、八尾市の中央部にあたる小阪合町・南小阪合町・青山町・若草町・山本町南8丁目一帯に広がる弥生時代中期から江戸時代に至る複合遺跡である。

当遺跡の地形は、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置し、当遺跡範囲内には南東から北西に縦断する楠根川がある。

この沖積地上には多くの遺跡があり、当遺跡の近接では、西に成法寺遺跡、南西に矢作遺跡、南に東弓削遺跡・中田遺跡、北に東郷遺跡・萱振遺跡が存在している。

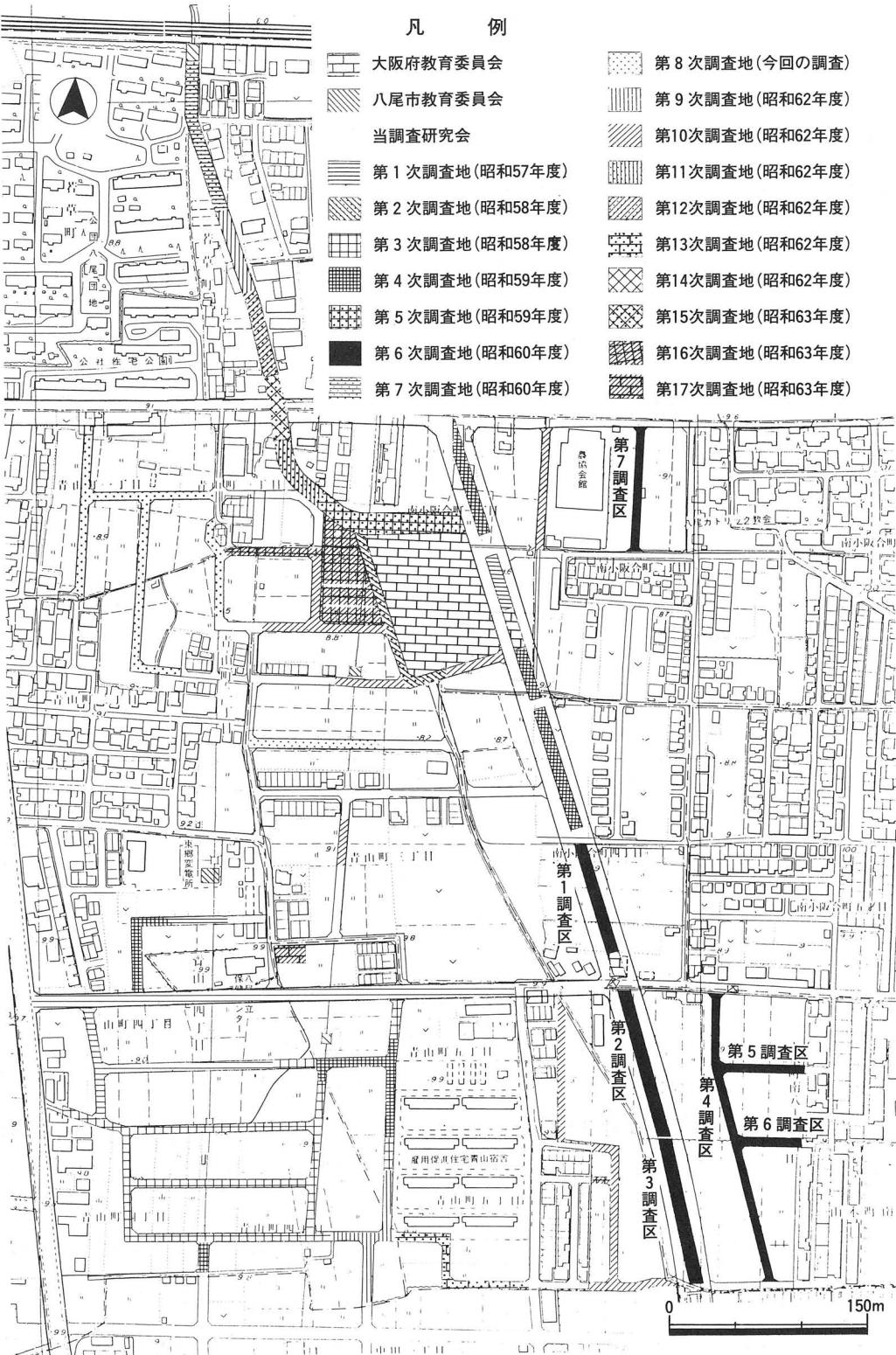
当遺跡の発見の契機は、昭和30年に若草町で実施された大阪府住宅供給公社山本団地の建設工事に際して、古墳時代の土器が出土したことによる。しかし、その後、八尾市教育委員会が当遺跡内で数回の試掘調査を実施したが、その実態は不明であった。

昭和56年度、当遺跡内の南小阪合地区で区画整理事業が施工され、八尾市教育委員会は遺跡の実態を把握する目的で、その計画予定内の調査を実施することを決定した。そして、昭和57年度から当調査研究会及び大阪府教育委員会・八尾市教育委員会が区画整理事業及び関連事業等に伴い発掘調査をそれぞれ実施している。現在（昭和63年度）までには当遺跡内で24件の発掘調査が実施されている。その内訳は大阪府教育委員会が5回、八尾市教育委員会2回、当調査研究会が17回（第1～17次調査）の発掘調査である（第1表）。調査の結果、弥生時代中期～江戸時代に至る遺構・遺物が検出されている。特に古墳時代前期（庄内式期～布留式期）に比定される遺構・遺物が当遺跡内に広く分布していることが明らかになった。

今回の調査地は南小阪合町2丁目・4丁目・山本町南8丁目内に所在する区画整理事業の区画街路と幹線街路の計画予定地内である。調査区は計7箇所を設定した。これらの調査区は、当調査研究会が実施した調査区内で最も南東部に位置する調査区（6箇所）と、北東部に位置する調査区（1箇所）である。発掘調査は、既往調査と同様の経緯を踏まえて当調査研究会が実施することになり、区画整理事業事務所・八尾市教育委員会・当調査研究会の三者間で調査に関わる契約を結び、現地調査に着手した。調査期間は昭和60年8月1日～12月25日までである。

内業整理については、昭和62年度内業業務として、発掘調査と同様の経緯を踏まえて区画整理事業と八尾市教育委員会と当調査研究会の三者間で契約を結び、昭和63年1月6日から2月28日までの期間で昭和60年度の発掘調査の内業整理を実施した。報告書は昭和63年度に予算を計上し、刊行した。

凡　例



第1図 調査地位置図

第1表 小阪合遺跡の既往調査一覧表

番号	調査地	調査主体	調査原因	調査期間	調査面積	主な検出遺構・出土遺物	文献
1	青山町4丁目・南小阪合町1丁目内	当調査研究会(第1次調査)	区面整理事業	昭和57年11月8日～昭和58年3月25日	約1900m ²	弥生時代後期～土坑・小穴。古墳時代前期～井戸・溝。多量の一括土器出土。古墳時代中期～土坑・小穴。奈良時代～建物・井戸等。	当調査研究報告10
2	青山町3丁目内	当調査研究会(第2次調査)	櫛根川切換え工事	昭和58年6月21日～同年7月14日	約390m ²	鎌倉時代～土坑・小穴。江戸時代～自然河川。	当調査研究報告11
3	青山町4丁目・5丁目内	当調査研究会(第3次調査)	区面整理事業	昭和58年10月27日～昭和59年2月29日	約1544m ²	弥生時代後期～土坑・小穴。古墳時代前期～方形周溝墓・溝。庄内式古相～布留式古相の土器を多量に出土。奈良時代～井戸。	当調査研究報告11
4	南小阪合町1丁目内	大阪府教育委員会(第1次調査)	小阪合ポンプ場建設	昭和58年9月1日～昭和59年3月25日	約5000m ²	古墳時代前期～溝・自然河川。平安～鎌倉時代～溝・自然河川。	当調査研究報告11
5	青山町4丁目・南小阪合町1丁目・4丁目内	当調査研究会(第4次調査)	区面整理事業	昭和59年6月15日～同年11月15日	約1940m ²	古墳時代前期～井戸・土坑・小穴。庄内式新相～布留式新相の土器が多量に出土。古墳時代中期～埴輪棺・溝。初期須恵器の出土。鎌倉時代～井戸・土坑・溝等。	当調査研究報告7・当調査研究報告15
6	南小阪合町1丁目内	大阪府教育委員会	柏原・八尾幹線下水管渠築造工事	昭和59年11月1日～12月28日	約200m ²	鎌倉時代～水田。	
7	青山町4丁目内	八尾市教育委員会	機関西電力鉄塔工事	昭和59年9月1日～11月12日	約55m ²	古墳時代中期～土坑・小穴・溝。	八尾市文化調査報告11
8	南小阪合町1丁目内	当調査研究会(第5次調査)	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和60年1月25日～同年3月20日	約636m ²	古墳時代前期～溝。平安時代後期～井戸・小穴・溝。鎌倉時代～溝。	当調査研究報告8
9	南小阪合町4丁目内・山本町南8丁目内	当調査研究会(第6次調査)	区画整理事業	昭和60年7月15日～同年12月28日	約2742m ²	弥生時代後期～古墳時代前期～土坑・溝。鎌倉時代～水田・溝。室町時代～自然河川。	当調査研究報告9 今回の報告
10	南小阪合町1丁目内	大阪府教育委員会	柏原・八尾幹線下水管渠築造工事	昭和61年1月6日～同年3月25日	約200m ²	古墳時代～溝。鎌倉時代～溝。	
11	小阪合町1丁目内	八尾市教育委員会	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和61年2月7日～2月8日	約20m ²	中世～自然河川。	八尾市文化調査報告12
12	小阪合1丁目・2丁目内	当調査研究会(第7次調査)	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和61年4月5日～同年8月8日	約732m ²	室町時代～自然河川。	当調査研究報告14
13	青山町1丁目・2丁目内	当調査研究会(第8次調査)	区画整理事業	昭和61年8月25日～同年12月10日	約998m ²	古墳時代中期～小穴・溝。奈良時代～土坑・溝。鎌倉時代～室町時代～井戸・土坑・小穴・溝。	当調査研究報告14
14	小阪合町1丁目・2丁目内	当調査研究会(第9次調査)	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和62年4月7日～同年7月31日	約480m ²	室町時代～自然河川。	当調査研究報告16
15	南小阪合町1丁目・青山町3丁目・5丁目内	当調査研究会(第10次調査)	区面整理事業	昭和62年8月1日～同年10月31日	約1023m ²	弥生時代後期～土坑・溝。古墳時代前期～土坑・溝・土器集積・自然河川。平安時代末期～井戸・土坑・小穴・溝。	当調査研究報告16
16	南小阪合町1丁目内	当調査研究会(第11次調査)	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和62年8月21日～同年9月5日	約276m ²	室町時代～自然河川。近世～自然河川。	当調査研究報告16
17	小阪合町2丁目内	当調査研究会(第12次調査)	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和62年10月12日～昭和63年1月18日	約400m ²	室町時代～自然河川。	当調査研究報告16
18	青山町5丁目内	当調査研究会(第13次調査)	区面整理事業	昭和62年11月9日～同年12月28日	約260m ²	弥生時代後期～溝。古墳時代中期～土坑・小穴・溝。平安時代～土坑・鎌倉時代～溝。	当調査研究報告16
19	青山町1丁目内	大阪府教育委員会	府道平野中高安線拡張工事	昭和62年10月1日～同年12月26日	約400m ²	弥生時代後期～土坑・鎌倉時代～溝。古墳時代～溝。	昭和63年度報誌載予定
20	南小阪合町4丁目内	当調査研究会(第14次調査)	特殊入孔築造工事	昭和63年1月16日～同年1月18日	約30m ²	遺構・遺物なし。	昭和63年度報誌載予定
21	小阪合町2丁目	当調査研究会(第15次調査)	小阪合ポンプ場放流渠築造工事	昭和63年2月25日～同年10月30日	約360m ²	室町時代～自然河川。	昭和63年度報誌載予定
22	南小阪合町2丁目・3丁目・5丁目・山本町南	当調査研究会(第16次調査)	区面整理事業	昭和63年7月5日～同年8月24日	約500m ²	弥生時代後期～土坑・溝。古墳時代中期～自然河川。古墳時代中期～土坑・溝。	昭和63年度報誌載予定
23	青山町5丁目	当調査研究会(第17次調査)	共同住宅建設	昭和63年11月1日～同年11月2日	約32m ²	古墳時代前期～鎌倉時代～土器片出土。	昭和63年度報誌載予定
24	南小阪合町1丁目	大阪府教育委員会	平野中高安線府道拡張工事	昭和63年9月1日～同年12月26日	約500m ²	古墳時代中期～土坑・溝。平安～鎌倉時代～土坑・溝。	昭和63年度報誌載予定

第2章 調査の概要

第1節 調査の方法

今回の調査は、幹線街路の予定地内では幅6mのトレンチ（第1調査区～第3調査区）、区画街路の予定地内では幅2mのトレンチ（第4調査区～第7調査区）を設定して実施した（第2表）。掘削に際しては、調査区に近接する既往調査の結果をもとに、現地表下30～50cmまでの土層を機械で掘削し、これより以下の土層については人力による掘削を実施した。なお、第2調査区・第3調査区では1～1.5mの盛土があり、調査面の深度が深くなる為、安全面を考えてトレンチの上幅を広く設定した。

第2節 調査の地区割

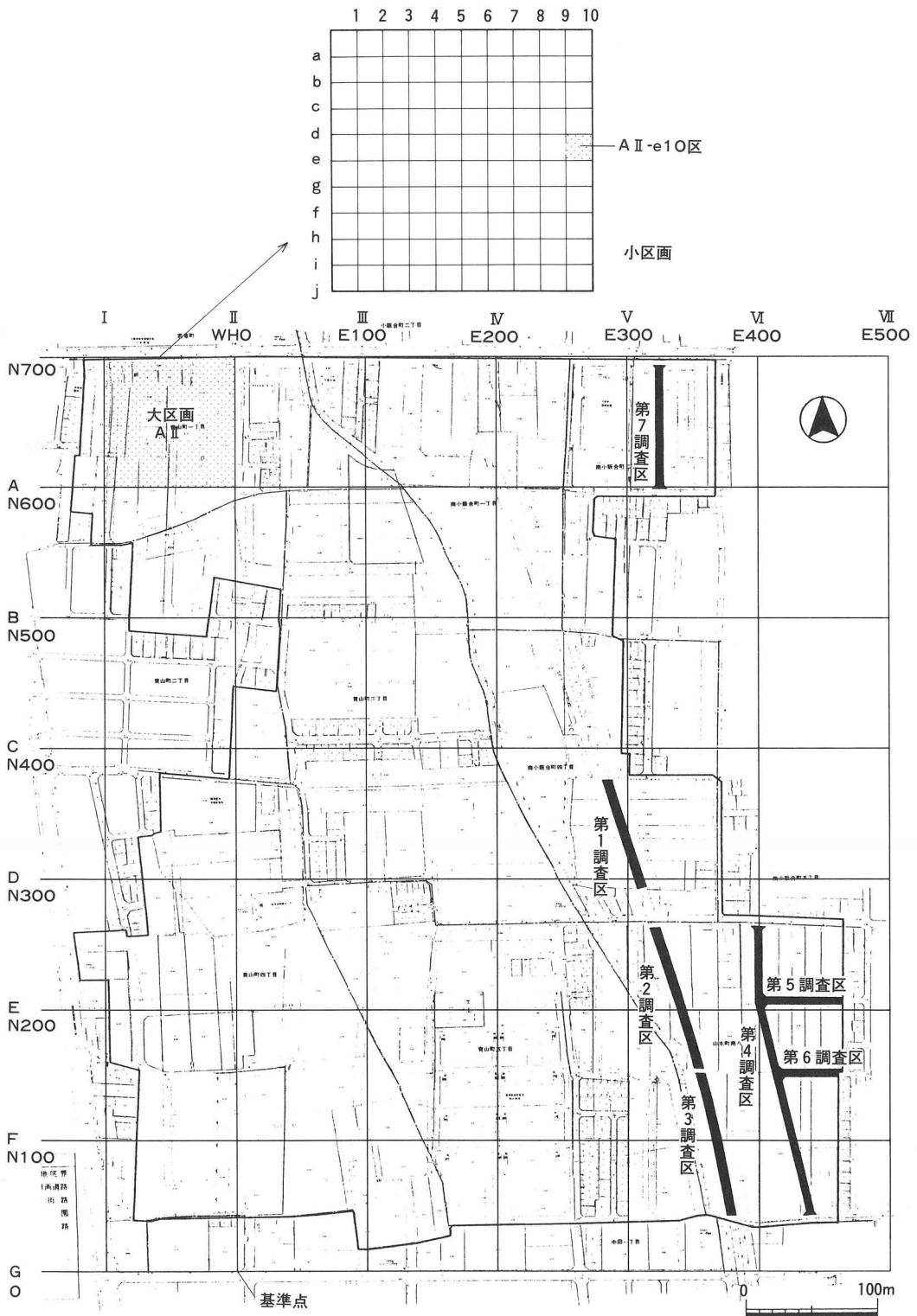
地区割の主軸は、既往調査（第1～4次調査）と同様のものを使用した。

地区名については、当区域内に設定した100m四方を一区画とした大地区（当区域内の北西角から東西線が北からA～G、南北線が西からI～IVと呼称した）、さらにこの大地区を10m四方に小区画して小地区（北西角から東西線が北からa～j、南北線が西から1～10）を設定した。地区の表示は、大地区と小地区をあわせ（第2図）、各調査区に付称した。なお、当区域内で区割した区割線は、昭和47～49年度曙川北区土地区画整理事業に伴う発掘調査で使用された地区割プラン図のD—Iラインの交点を基準点としている。遺構図等では地区名と基準点（0）からの方向（北はN、東はE、西はWと略称）と距離（値=m）を表示した。

第2表 調査区一覧表

* 単位：m

調査区	地 区	規 模	計 画 道 路 番 号
第1調査区	D—I・VI区	62×6	幹線道路東大阪中央線（中央部）
第2調査区	E・F—I区	96×6	幹線道路東大阪中央線（南部）
第3調査区	F・G—I区	110×6	幹線道路東大阪中央線（南部）
第4調査区	E～G—I・II区	210×2	区画街路47号線
第5調査区	E—I区	48×2	区画街路48号線
第6調査区	F—I区	40×2	区画街路49号線
第7調査区	A—I区	90×2	区画街路39号線



第2図 調査地地区割模式図

第3節 調査区の概要

今回の調査区は、当区画整理事業区域内の北東部に位置する第7調査区を除き、第1調査区～第6調査区は南東部に集中している。

以下、今回の調査で検出した遺構・遺物について各調査ごとに概説する。

第1調査区

調査区は当区画整理事業区域内の中央より東部に位置する南北方向に長い調査区（62m×6m）である。この調査区では現地表下（旧耕土下）約80cmで鎌倉時代に比定される水田を検出した。そして、水田の土層を取除くと下面から農耕に関連する東西方向に伸びる小溝を検出した。

第2調査区

第1調査区の南部約40mに設定した南北方向に長いトレンチ（96m×6m）である。この調査区では現地表下約80cmで古墳時代中期～鎌倉時代に比定される井戸・土坑・溝を検出した。遺物はほとんど出土していない。

第3調査区

第2調査区の南部に設定した南北方向に長い調査区（110m×6m）である。この調査区では現地表下約80cmで室町時代に比定される河川が調査区全域で検出した。河川の規模は不明である。

第4調査区

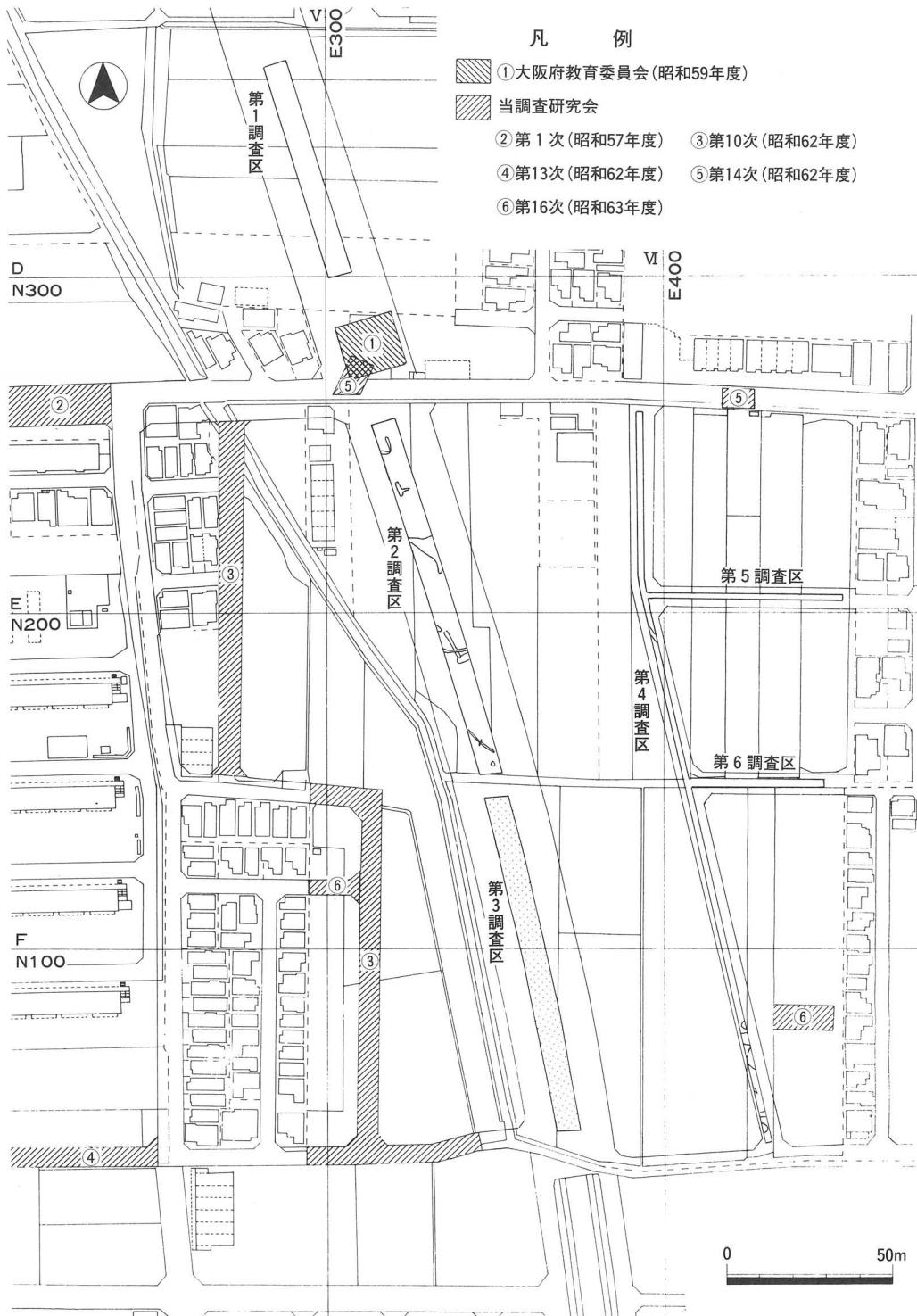
第2調査区・第3調査区の東部に設定した南北に長い調査区（210m×2m）で、第5調査区に接する所が若干屈曲しており、平面形状は「く」形を呈している。調査では現地表下約30cmで鎌倉時代に比定される溝と、これより約20cm下で古墳時代前期に比定される土器を含む遺構が検出されている。

第5調査区

第4調査区の屈曲部から東部に設定した東西方向に長い調査区（48m×2m）である。この調査区では現地表下約60cmで検出した鎌倉時代に比定される農耕に関連する南北方向の小溝を検出している。

第6調査区

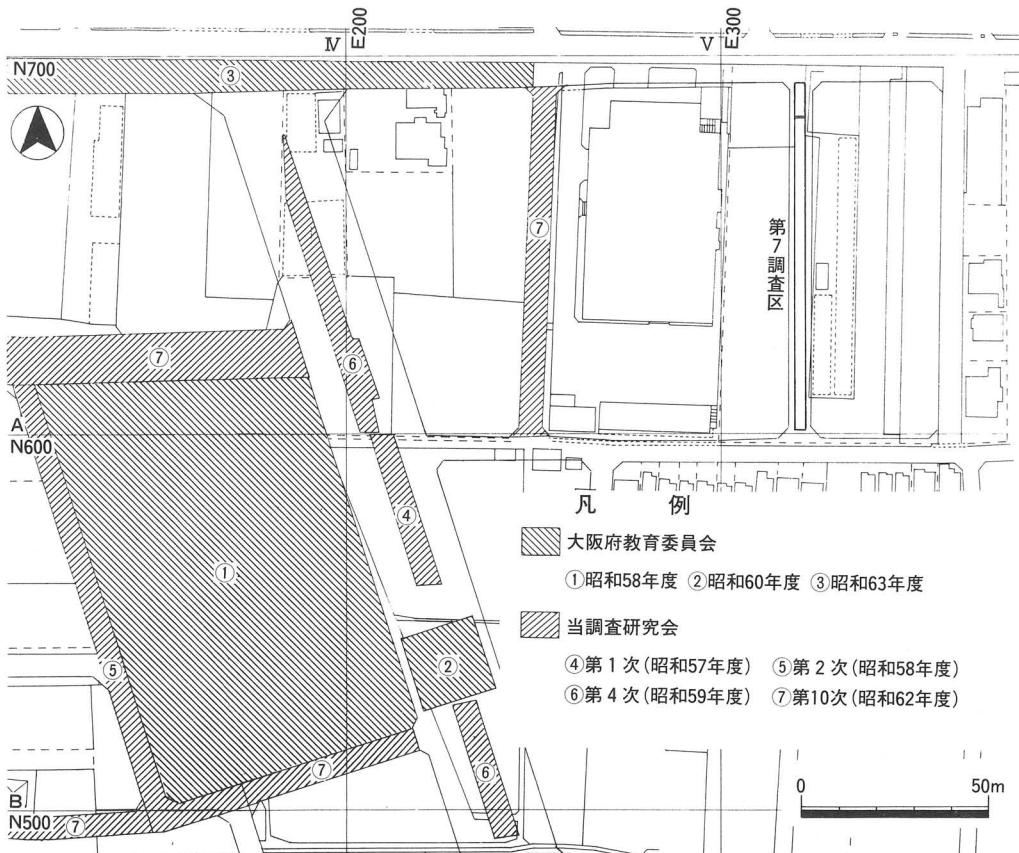
第4調査区の中央部から東部に設定した東西方向に長い調査区（40m×2m）である。この調査区では現地表下約70cmで鎌倉時代に比定される溝を調査区全域で検出した。この溝は条里区割の坪境の溝と考えられる。上部には現在の農業用水路がほぼ同じ位置にある。



第3図 遺構配置図1

第7調査区

この調査区は区画整理事業区域内の北東部に位置し、第1調査区から北部約260mの地点に設定した南北に長い調査区（90m×2m）である。この調査区では現地表下約70cmで鎌倉時代に比定される水田を検出した。水田には東西方向の畦畔1条と、土坑・溝・足跡がみられる。



第4図 遺構配置図2

第3章 調査の結果

第1節 第1調査区

当調査区は当区域内の東部に設定した南北方向に長い調査区（62m × 6m）で、今回の調査地の中心部に位置する。また、既往調査では、昭和59年度第4次調査で実施した第12調査区の南部にあたる。調査面積は約372m²を測る。

I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる8層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高8.7mを測る。

第1層耕土：層厚25~30cm。調査前まで耕されていた土層である。南部の一部には約1mの盛土がある。

第2層緑灰色粘砂：層厚20cm。耕土の床土である。

第3層褐灰色粗砂混細砂：層厚10cm。南部に行くに従い土層が厚く堆積している。

第4層黒褐色粗砂混細砂：層厚10cm。酸化鉄を多量に含み、砂が堅くしまった状態になっている。

第5層明緑灰色細砂：層厚20cm。弥生時代～鎌倉

時代に至る土器の小片がごく少量出土している。

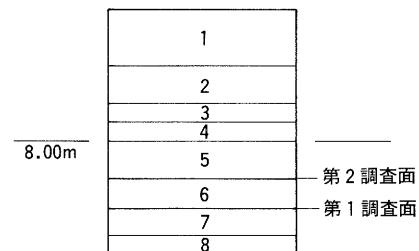
第6層青灰色粘土：層厚15cm。この上面で鎌倉時代に比定される水田面を検出した（第2調査面）。標高は7.8mを測る。

第7層暗緑灰色粘土：層厚15cm。この上面で水田に関連する遺構（溝など）を検出した（第1調査面）。標高は7.5~7.6mを測る。

第8層明緑灰色細砂混粘土：層厚10cm以上。

II 検出遺構・出土遺物

当調査区では第6層と第7層の上面を調査対象面とした。その結果、第1調査面では鎌倉時代に比定される土坑1基（SK1）・溝28条（SD1~SD28）を検出した。第2調査面では第1調査面と同時期の水田面を検出した。以下、検出した遺構について概説する。



第5図 基本層序柱状図 (S=1/40)

第1調査面

土坑（SK）

SK 1

D V-e 9 区で検出した土坑で、SD 5～SD 7 と切り合う。規模は検出部で、最大幅 4 m、最小幅 77 cm、深さ 9 cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、水田土層と同一土層の青灰色粘土である。遺物は出土していない。

溝（SD）

SD 1～SD 28

当調査区の全域で28条を検出した。方向は東西方向のもの27条（SD 2～SD 28）、南東～北西方向のもの1条（SD 1）で、北部に集中している。この溝は第2調査面で検出した水田土層を削除した面で検出した。堆積土は第2調査面で検出した水田耕作土（第6層）と同一土層であり、農耕に関連する鋤溝等が考えられる。遺物は出土していない。個々の溝については第3表に一括して掲載した。

第3表 第1調査面溝（SD）1覧表

* 単位：cm

遺構番号	地区	方向	幅	深さ	断面形	堆積土
SD 1	D V-e 9	南東～北西	25	6	逆台形	青灰色粘土
SD 2	D V-d 9	東～西	35	11	逆台形	青灰色粘土
SD 3	D V-d 9	東～西	27	7	半円形	青灰色粘土
SD 4	D V-d 9	東～西	33～42	7	半円形	青灰色粘土
SD 5	D V-e 9	東～西	46～53	16	逆台形	青灰色粘土
SD 6	D V-e 9	東～西	38	10	逆台形	青灰色粘土
SD 7	D V-e 9	東～西	24	8	逆台形	青灰色粘土
SD 8	D V-e 9	東～西	46～51	12	半円形	青灰色粘土
SD 9	D V-e 9	東～西	35	8	半円形	青灰色粘土
SD 10	D V-e 9	東～西	30～39	14	U字形	青灰色粘土
SD 11	D V-e 9	東～西	27	3	半円形	青灰色粘土
SD 12	D V-e 9	東～西	37～45	14	半円形	青灰色粘土
SD 13	D V-f 9 ～f 10	東～西	45～55	11～14	U字形	青灰色粘土
SD 14	D V-f 9 ～f 10	東～西	35～47	7～10	U字形	青灰色粘土
SD 15	D V-f 9 ～f 10	東～西	60～92	20～23	逆台形	青灰色粘土
SD 16	D V-f 9	東～西	27～36	11	逆台形	青灰色粘土
SD 17	D V-f 9 ～f 10	東～西	27～34	18		青灰色粘土
SD 18	D V-f 9 ～f 10	東～西	33～44	11～19	U字形	青灰色粘土

遺構番号	地区	方 向	幅	深 さ	断面形	堆 積 土
S D 19	D V - f 9 ~ f 10	東一西	40	13~19	U字形	青灰色粘土
S D 20	D V - g 9 ~ g 10	東一西	37	11	逆台形	青灰色粘土
S D 21	D V - g 9	東一西	32~38	16~23	U字形	青灰色粘土
S D 22	D V - g 9	東一西	33~41	19~28	U字形	青灰色粘土
S D 23	D V - g 10	東一西	42~50	22~25	逆台形	青灰色粘土
S D 24	D V - g 10	東一西	40	25	逆台形	青灰色粘土
S D 25	D V - h 10	東一西	34	16	半円形	青灰色粘土
S D 26	D V - h 10	東一西	40	7	半円形	青灰色粘土
S D 27	D VI - i 10	東一西	34~42	9	逆台形	青灰色粘土
S D 28	D V - i 10 ~ VI - i 1	東一西	36	10	逆台形	青灰色粘土

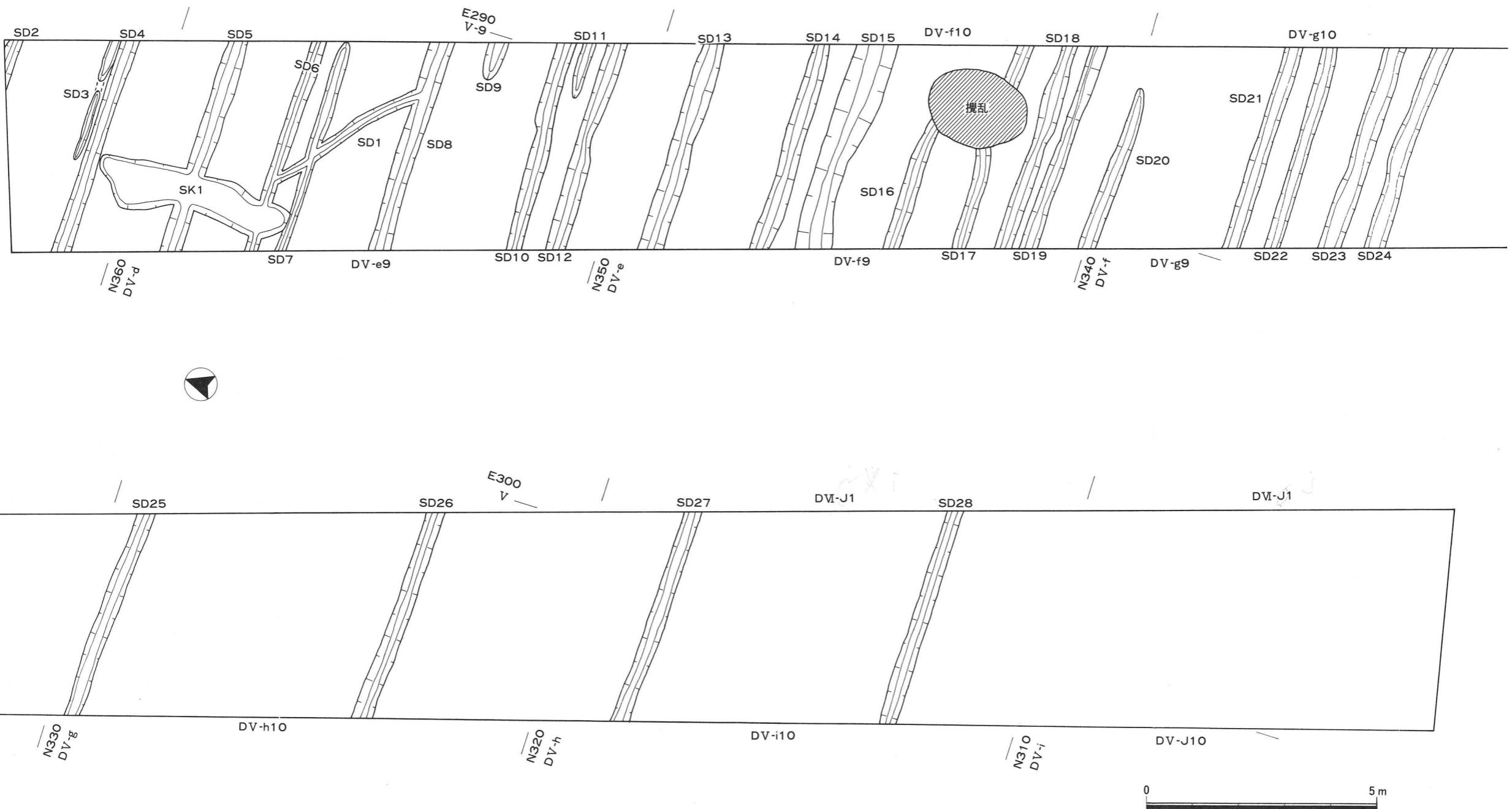
第2調査面

水田

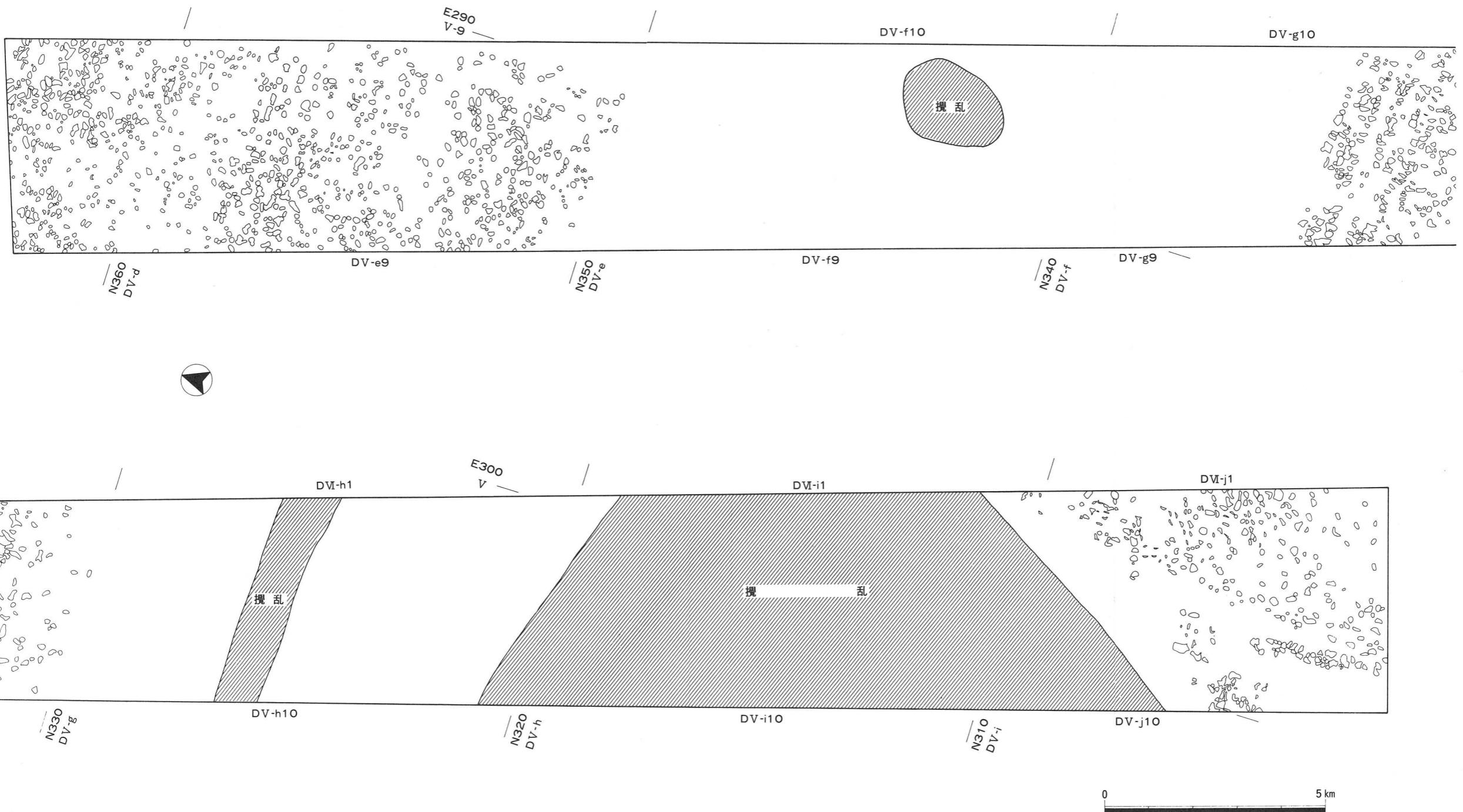
第6層上面（標高 8.7 ~ 8.8 m）で検出した。水田面は攪乱されている一部を除いては調査区の全域で確認した。水田面には畦畔・足跡が残存していた。畦畔は当調査区の中央部の西部で1条を検出した。方向は南東一北西方向を示し、南東部は攪乱され、北西部は調査区外に至る。規模は検出部で、検出長1.4 m、上幅25cm、下幅52cm、高さ15~25cmを測る。足跡は調査区の全域で確認できた。特に北部では密集した状態で検出した。平面の形状には円形のもの、橢円形のもの、不定形のもの、そして、人の足形を呈するのものがみられる。規模は幅5~25cm、深さ3~8cmを測る。調査区の中央には南東一北西方向に足跡状の窪みが密集しており、溝状（検出長10m、幅50cm）に窪んでいた。

III 遺構に伴わない出土遺物

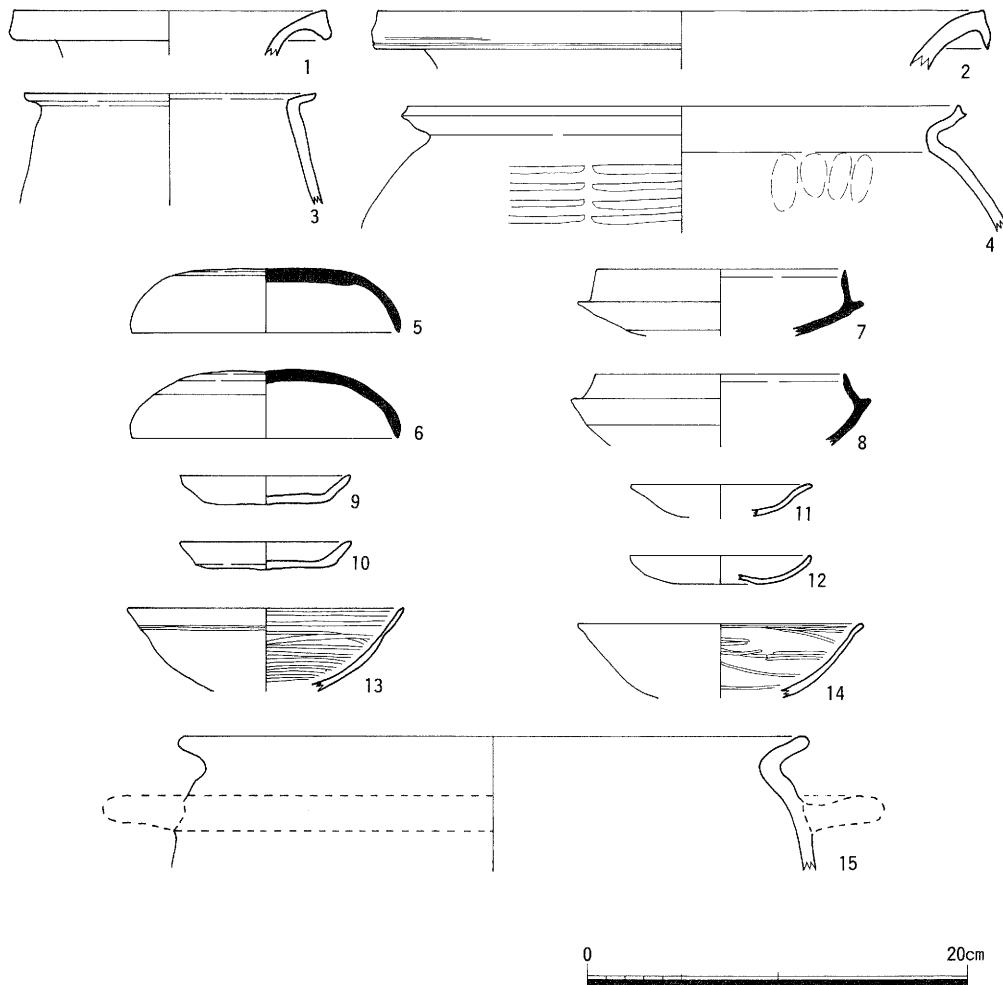
第1調査面で検出した水田面を覆うように堆積していた第4層内から弥生時代中期～鎌倉時代に至る遺物が出土している。出土量はコンテナ箱にして約1/2箱分である。図示できたものは畿内第Ⅲ様式に比定される壺（1・2）、畿内第Ⅳ様式に比定される甕（3）、畿内第Ⅴ様式に比定される甕（4）、古墳時代後期に比定される須恵器の杯蓋（5・6）・杯身（7・8）、鎌倉時代に比定される土師質の小皿（9~12）・瓦器の椀（13・14）、羽釜（15）である（第8図）。



第6図 第1調査面構造平面図



第7図 第2調査面遺構平面図



第8図 遺構に伴わない出土遺物実測図

第2節 第2調査区

当調査区は第1調査区の南部へ約30mに設定した南北方向に長い調査区(長さ105m×6m)である。調査面積は約630m²を測る。

I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる7層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高9.8mを測る。

第1層耕土：層厚30cm。調査前まで、耕されていた土層である。

第2層赤褐色粘砂：層厚10~15cm。耕土の床土である。

第3層褐色粘質土：層厚20~30cm。

第4層にぶい黄褐色粘砂：層厚15~20cm。酸化鉄

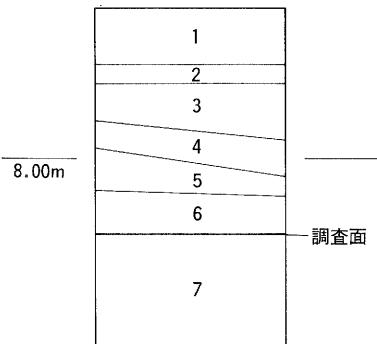
を含む。

第5層明黄褐色粘砂：層厚10~25cm。古墳時代~

鎌倉時代に比定される土器の小片がごく少
量含まれている。

第6層オリーブ灰色粘質シルト：層厚20~25cm。

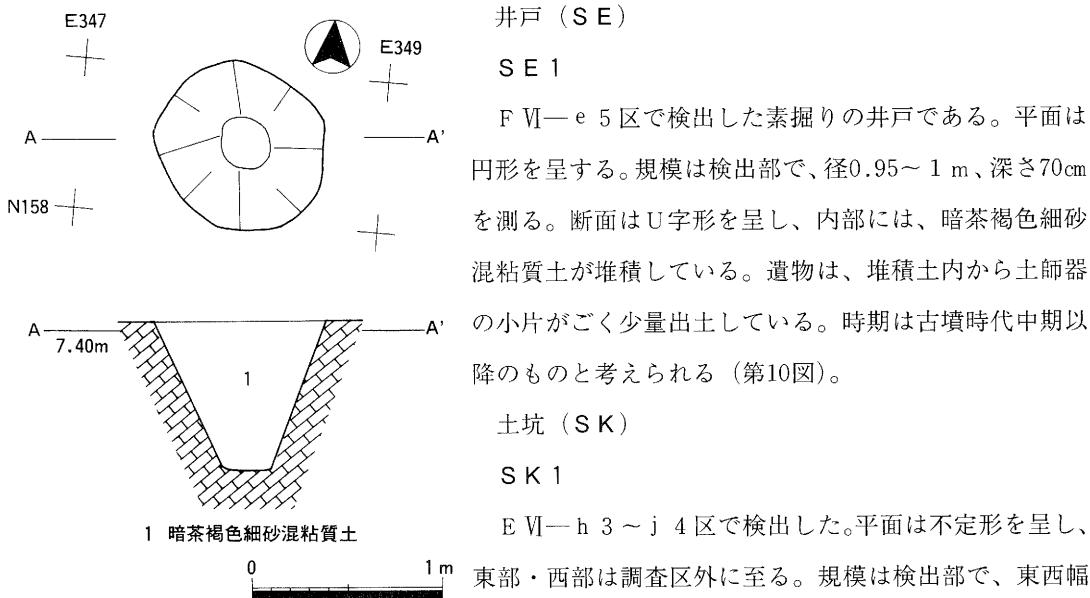
第7層暗灰褐色粘質シルト：層厚60cm以上。この
上面で、古墳時代中期に比定される遺構を
検出した。この上面は標高7.6mを測り、
調査面とした。



第9図 基本層序柱状図(S=1/40)

II 検出遺構・出土遺物

当調査区では第7層上面を調査面とした。その結果、古墳時代中期に比定される井戸1基(S E 1)・土坑3基(S K 1~S K 3)・溝7条(S D 1~S D 7)を検出した。S D 7は第6層上面からの切り込みである。以下、検出した遺構について概説する。



第10図 SE1平面面図

井戸 (S E)

S E 1

F VI-e 5区で検出した素掘りの井戸である。平面は円形を呈する。規模は検出部で、径0.95~1m、深さ70cmを測る。断面はU字形を呈し、内部には、暗茶褐色細砂混粘質土が堆積している。遺物は、堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。時期は古墳時代中期以降のものと考えられる(第10図)。

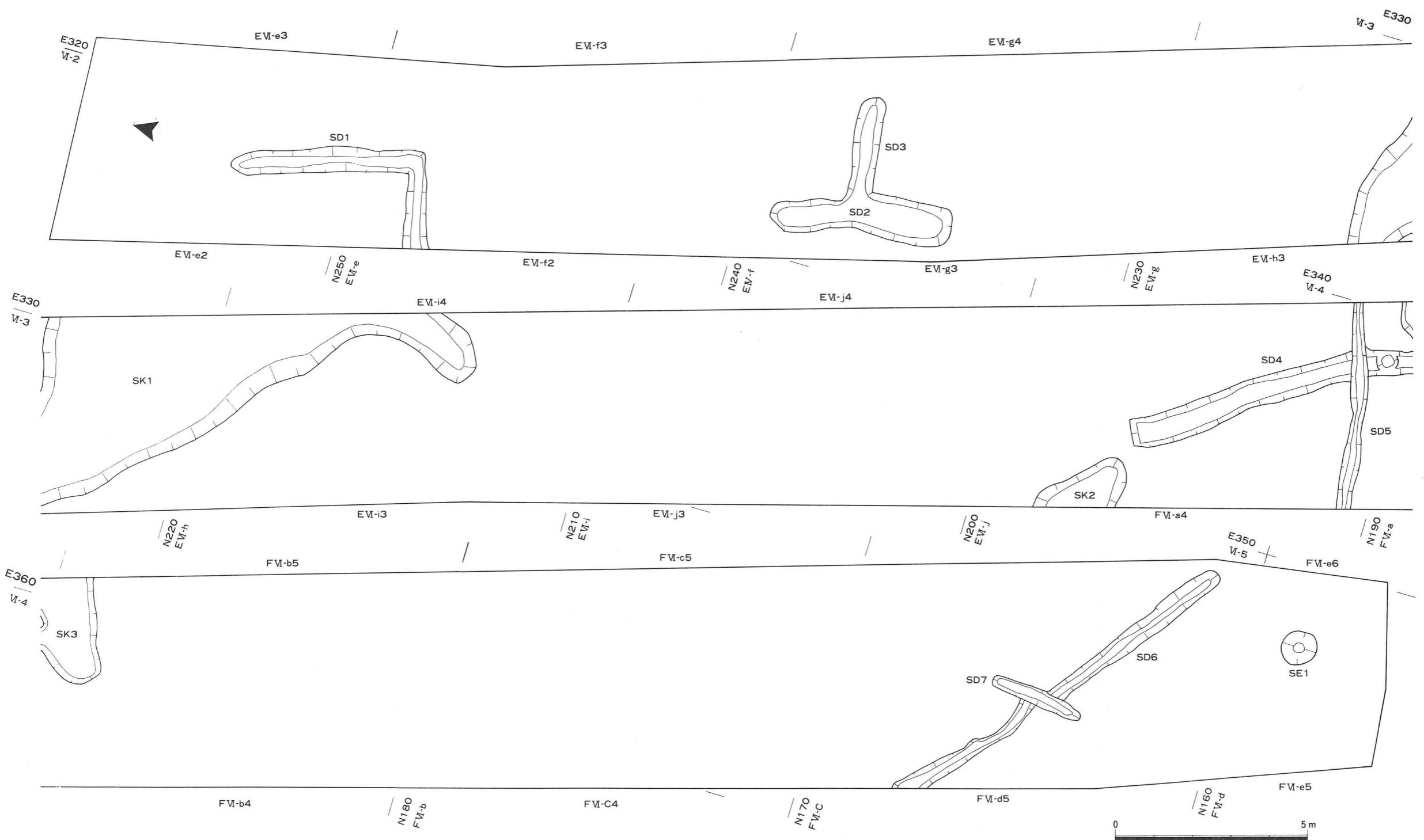
土坑 (S K)

S K 1

E VI-h 3~j 4区で検出した。平面は不定形を呈し、東部・西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西幅6m、南北幅11m、深さ15~25cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には、オリーブ灰色粘質シルトが堆積している。遺物は、堆積土内から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器の小片がごく少量出土している。

S K 2

F VI-b 4・b 5区で検出した。平面は不定形を呈する。西部は調査区外に至る。規模は検



第11図 遺構平面図

出部で、東西幅1.3 m、南北幅2.1 m、深さ6 cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土はオリーブ灰色粘質シルトで、遺物は出土していない。

S K 3

F VI—b 4・b 5区で検出した。平面は不定形を呈する。北部はS D 4が合流し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西幅2.8 m、南北幅1.9 m、深さ6 cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は灰青褐色粘質土で、遺物は出土していない。

溝 (S D)

S D 1

E VI—e 2・f 2区で検出した。平面の形状はL字形で、西壁から東へ3 m伸びた後屈曲し、北へ5 m伸びる。規模は検出部で、幅50～62cm、深さ8 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

S D 2

E VI—g 3区で検出した。方向は南北方向を示し、中央の東側はS D 3が合流している。規模は検出部で、検出長4.6 m、幅0.7～1.1 cm、深さ8 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

S D 3

E VI—g 3区で検出した。方向は東西方向を示し、西部はS D 2に合流する。規模は検出部で、検出長2.5 m、幅70cm、深さ7 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

S D 4

F VI—a 4・b 5区で検出した。方向は南東一北西を示し、南部はS D 5に切られ、S K 2に合流する。規模は検出部で、検出長9.4 m、幅65～85cm、深さ7 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

S D 5

F VI—a 4区で検出した溝で、第6層上面からの切り込んでいる。方向は東西方向を示し、S D 4を切り、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅36～46cm、深さ4～8 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は青灰色粗砂混粘質土で、遺物は出土していない。

S D 6

F VI—d 5区で検出した。方向は南東一北西方向を示し、中央部でS D 7に切られ、北西部は調査区外に至る。規模は検出部で、検出長9.8 m、幅43～55cm、深さ9～13cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗緑灰色シルト混粘土で、遺物は出土していない。

S D 7

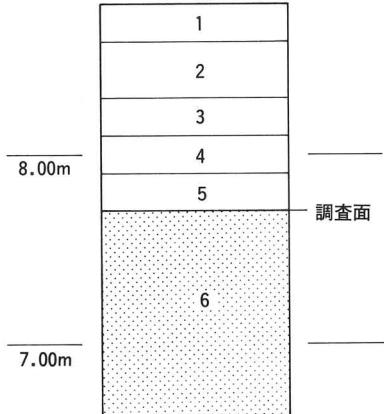
F VI—d 5 区で検出した。方向は南北方向を示し、S D 6 を切っている。規模は検出部で、検出長2.5 m、幅42cm、深さ19cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は淡灰褐色細砂である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土している。

第3節 第3調査区

第2調査区の南部約10mに設定した南北方向に長い調査区（長さ約97m×6m）である。調査面積は約582m²を測る。

I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる5層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高9.8mを測る。



第12図 基本層序柱状図(S=1/40)

第1層耕土：層厚20cm。調査前まで耕されていた土層である。

第2層淡灰褐色粘土：層厚25～30cm。耕土の床土である。

第3層灰褐色粘土：層厚20～25cm。

第4層褐灰色粘土：層厚20～30cm。

第5層灰褐色細砂混粘土：層厚20～30cm。

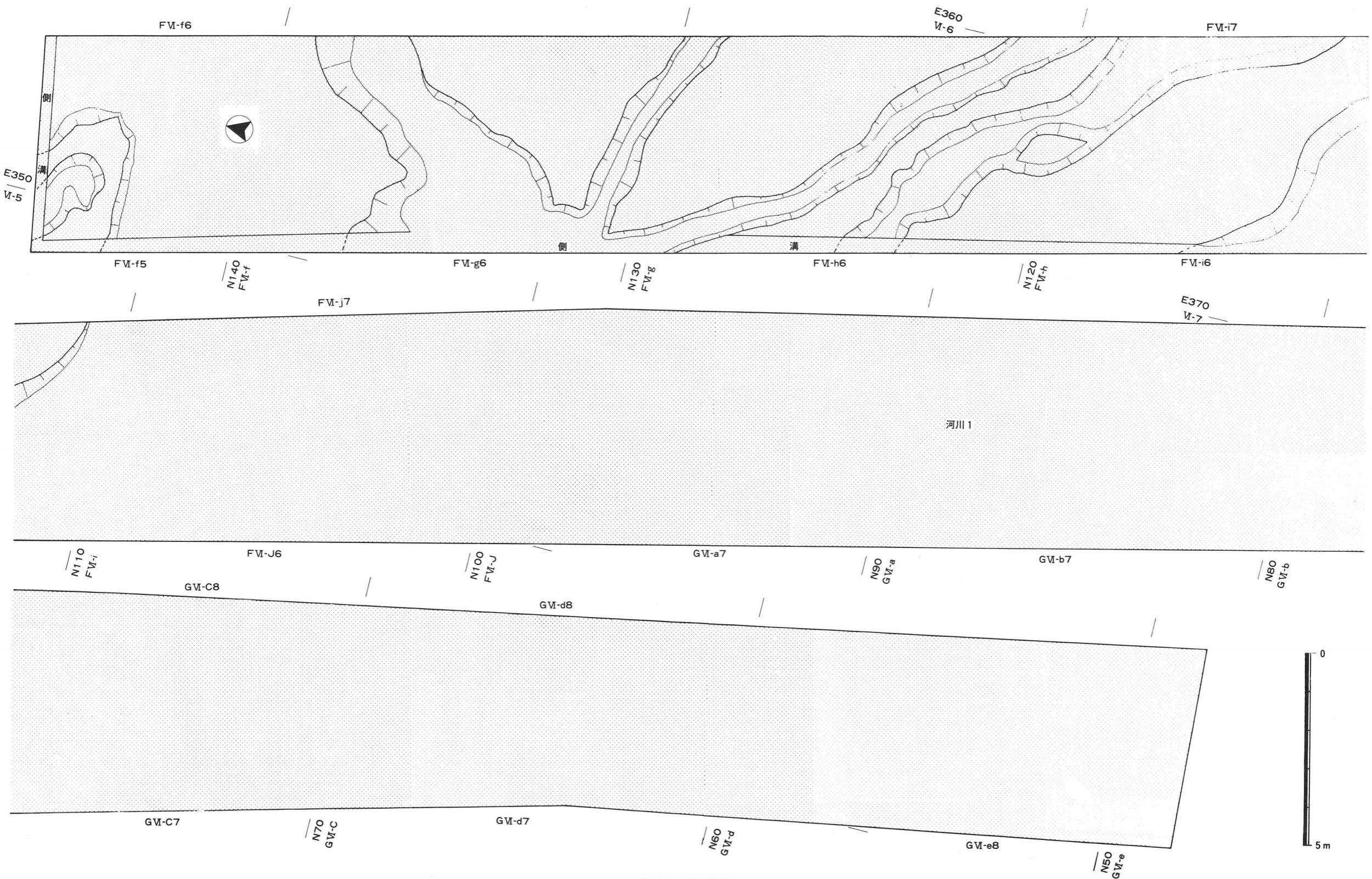
第6層から以下の土層は砂層と粘土の互層で、砂層を基調として堆積している自然河川の堆積土である。第6層上面は標高8.2mを測る。

II 検出遺構・出土遺物

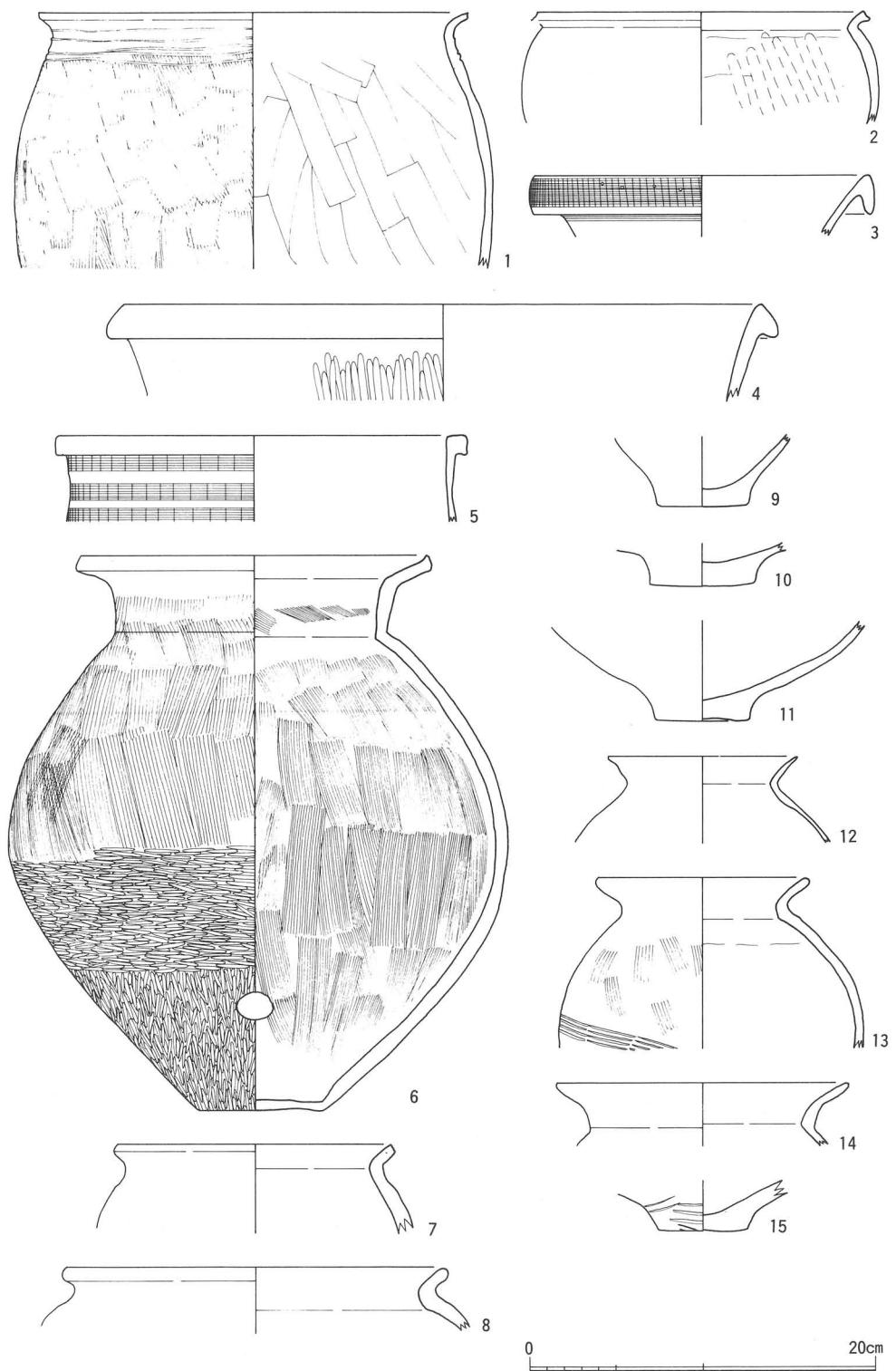
第6層上面を調査面とした。その結果、第6層以下の土層は室町時代に比定される自然河川の堆積土であった。以下、この自然河川（河川1）について述べる。

河川1

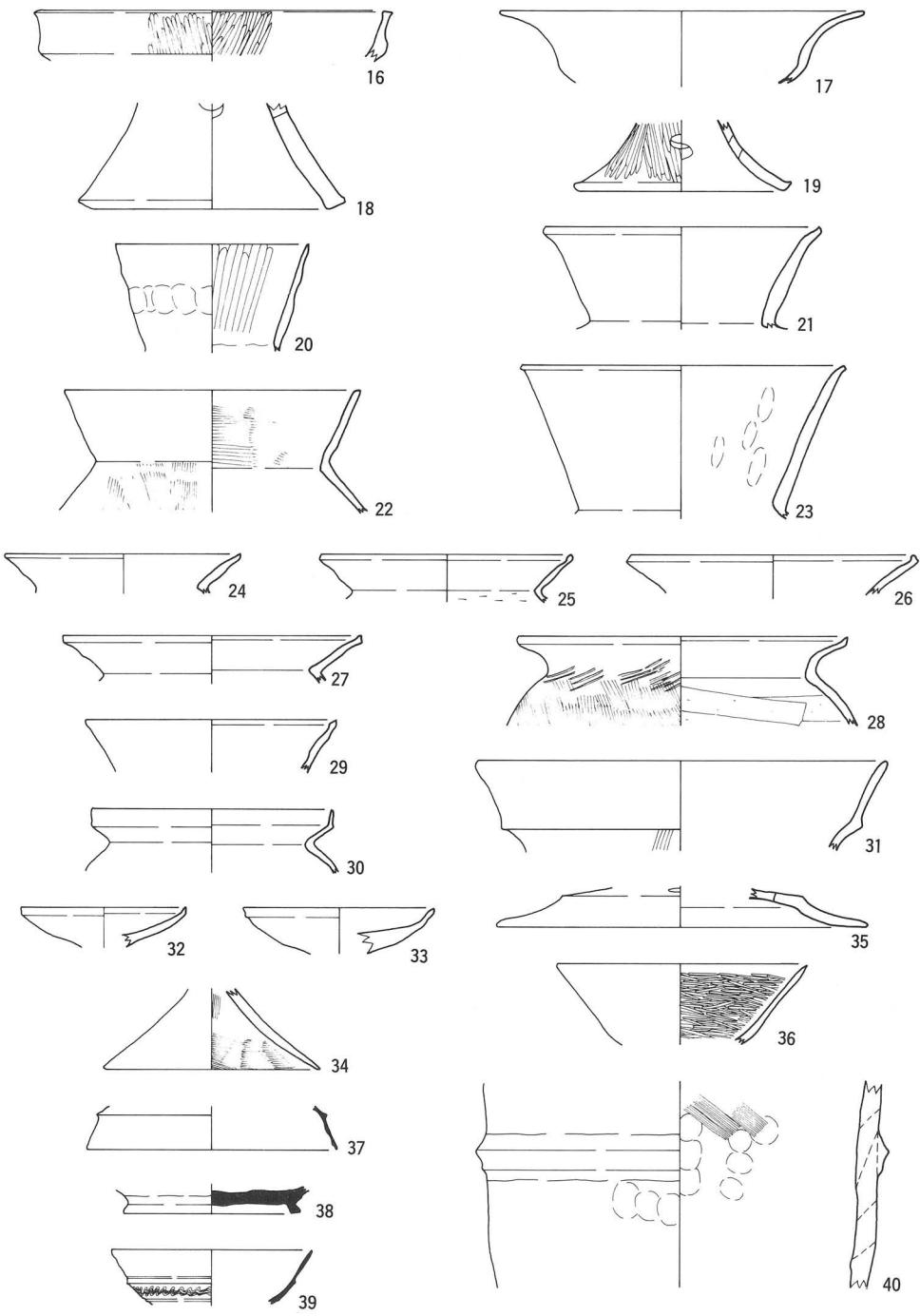
当調査区の全域で検出した自然河川で、方向・川幅などは不明である。河川底は調査区内で最も深い所（南西部）が約2.5mを測る。北部の浅瀬には水流でえぐられたと思われる溝状の凹みが数条みられる。この自然河川は北部の第2調査区では検出していないことから、調査区の西側で流れている楠根川の方向に流れているようである。また、この調査区から北西部約600mで実施した昭和61年度第7次調査地（楠根川の河川底直下の調査）では同時期の河川が検出されている。この間、楠根川両側の付近の調査では現在、この河川が検出されてないことから、この河川は楠根川とほぼ同じ流路であることが明らかである。この河川の堆積土は、上



第13図 遺構平面図

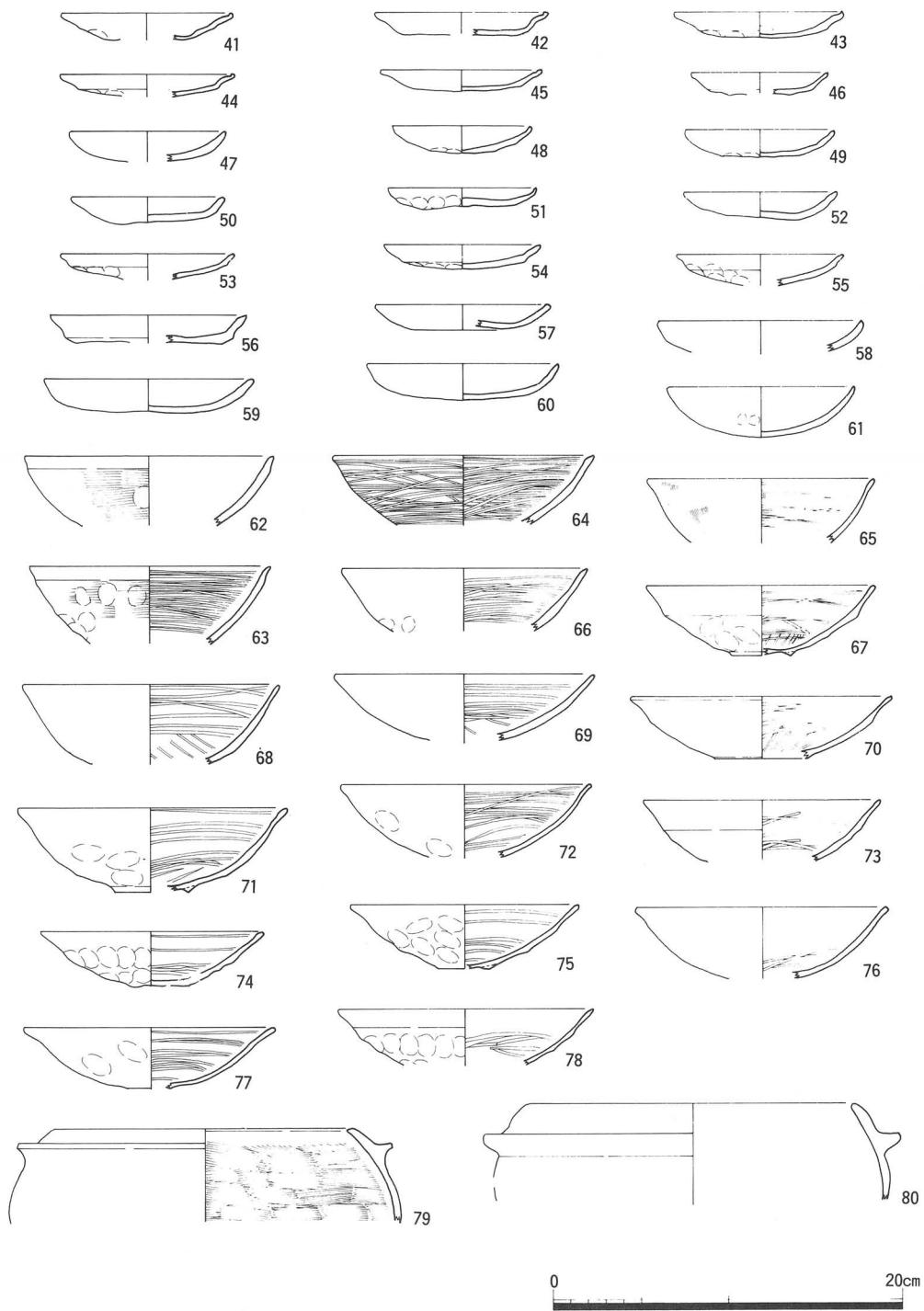


第14図 河川1出土遺物実測図1

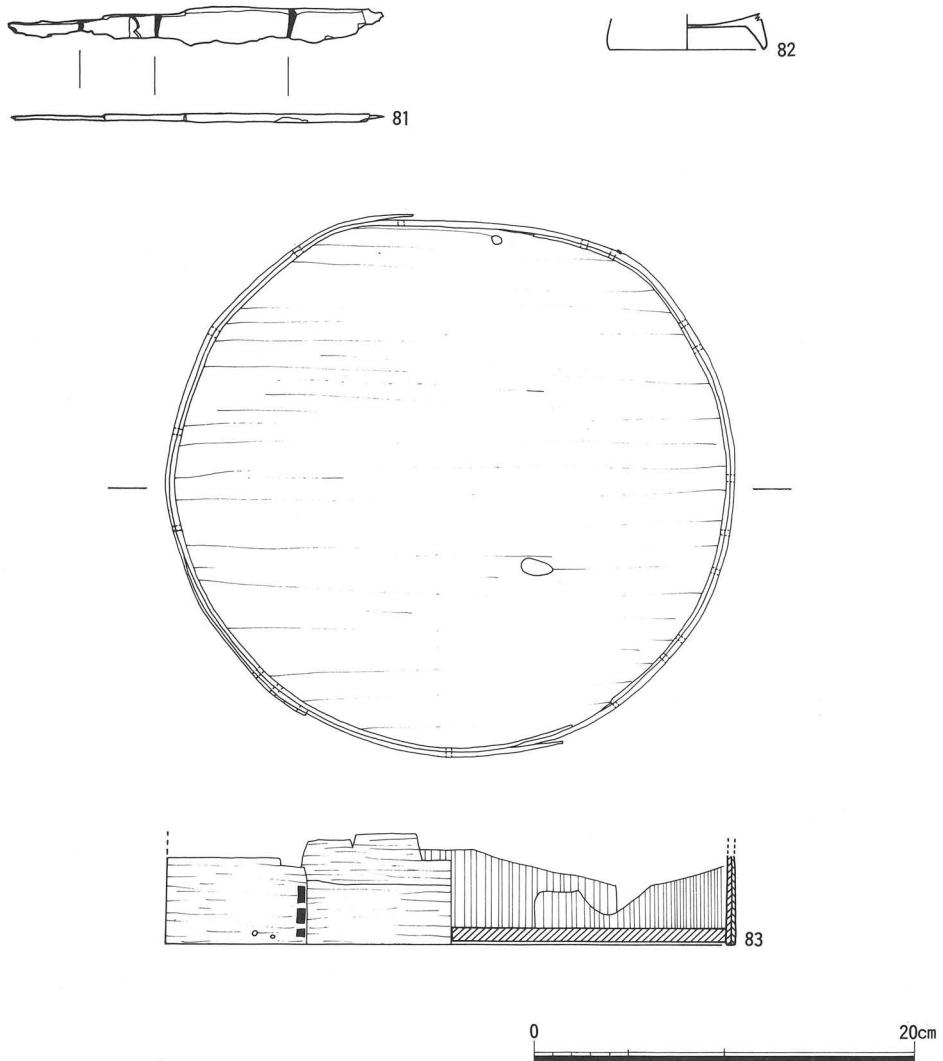


0 20cm

第15図 河川1出土遺物実測図2



第16図 河川1 出土遺物実測図 3



第17図 河川1出土遺物実測図4

方から灰褐色砂混粘土・黄褐色細砂～粗砂・オリーブ灰色細砂・青灰色粗砂混粘土・青緑灰色粘土・暗灰色細砂混粘土・暗灰色粘質細砂・灰白色細砂・濃黃褐色細砂・オリーブ灰色微砂・灰白色粗砂混細砂・黄褐色粗砂・暗緑灰色シルト混粘土・明赤褐色砂・暗灰色粘土・暗灰色粗砂で、砂層を基調とした土層が砂と粘土の互層で構成されている。

遺物は、河川内に堆積している砂層内からの出土がほとんどである。出土量はコンテナ箱にして約4箱分を数える。遺物は弥生時代前期から室町時代に至る土器・瓦・鉄製品・木製品・石類である。土器には弥生式土器・土師器・須恵器・瓦器がある。以下、図示できたものについて記す。弥生時代前期～後期に比定される土器には畿内第Ⅰ様式の甕(1)、畿内第Ⅱ様式の壺(2)、畿内第Ⅲ様式の壺(3・4)・甕(5)、畿内第Ⅳ様式の壺(6)・甕(7・8)、

畿内第V様式の壺（9～13）・甕（14・15）・高杯（16～19）がある。古墳時代に比定される遺物には前期の壺（20～23）・庄内式甕（24～28）・布留式甕（29）・吉備系甕（30）・山陰系甕（31）・器台（32～35）・高杯（36）、中期に比定される杯蓋（37）・高杯（39）、後期に比定される杯身（38）、円筒埴輪（40）がある（第14図・第15図）。平安時代後期に比定される土器には土師器の小皿（41～45）がある。鎌倉時代に比定される遺物には土師器の小皿（46～61）・瓦器の椀（62～78）、瓦質の羽釜（79・80）がある（第16図）。その他には鉄製の刀子（81）と木製の椀（82）・曲物（83）がある（第17図）。刀子は検出長20cm、刀幅2cm、最大の厚み3mmを測る。漆器椀は高台部のみの残存である。高台の断面形はU字形を呈する。外面には黒漆、内面には赤漆が施されている。曲物は径30cmを測り、底板（厚み5mm）がある。曲物の深さは5.8cmを測るが、上部が腐敗している。曲物は2重で、桜の皮で固定し、曲物と底板は木釘（最大径約4mm、長さ約2cm）を打付けて固定している。

第4節 第4調査区

第2・3調査区の東部約50mに設定した南北に長い調査区（210m×2m）で、第5調査区の合流する地点で屈曲し、「く」字形を呈している。調査面積は約420m²を測る。

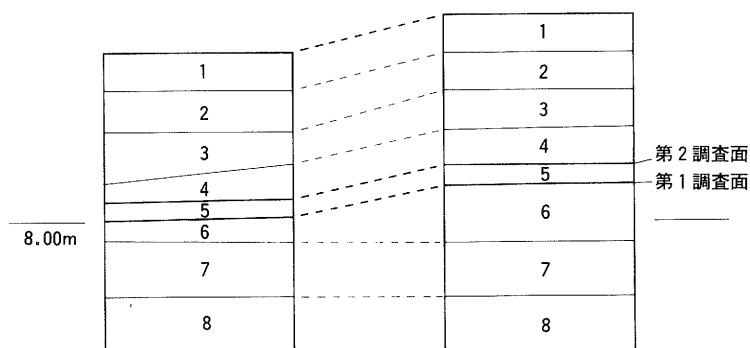
I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる5層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高8.9～9.1mを測る。

第1層耕土：層厚15～20cm。耕土面は約20cmの高低差があり、南部が高く、北部が低い。

第2層床土：層厚10cm。緑灰色～暗赤褐色粘質土で、北部が低く、酸化鉄分が多くなる。

第3層明褐色～にぶい赤褐色粘質土：層厚20～30cm。古墳時代～近世に至る土器の小片がごく少量含まれている。



第18図 基本層序柱状図(S=1/40)

第4層明黄褐色～褐灰色粘質土：層厚20～30cm。古墳時代～鎌倉時代に至る土器の小片が少量含まれている。

第5層明褐色粘土：層厚10～15cm。この上面で鎌倉時代に比定される遺構（溝）を検出した。

この層内には弥生時代後期～古墳時代前期に比定される土器片が少量含まれている。

第6層黒緑灰色砂粘土：層厚10～30cm。この上面で古墳時代前期に比定される遺構を検出した。標高は7.9～8.2mを測り、南部が高い。

第7層黒青灰色粘質土：層厚30cm。北部に行くに従い、粘質土からシルトになる。

第8層暗青灰色粘質土：層厚30cm以上。

II 検出遺構・出土遺物

第5層と第6層の上面の2面を調査面とした。その結果、第1調査面では、古墳時代前期に比定される土坑7基・小穴3個・溝11条を検出した。第2調査面では、鎌倉時代に比定される溝46条を検出した。以下、各調査面の各遺構について概説する。

第1調査面

土坑（SK）

SK1

E VI-j 10区で検出した。平面は検出部で半円形を呈し、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西60cm以上、南北84cm、深さ53cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は暗茶褐色粘質シルトである。遺物は堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。

SK2

F VI-a 10区で検出した。平面は検出部で半楕円形を呈する。規模は東西1.3m、南北70cm、深さ10cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は暗茶褐色粘質シルトである。遺物は堆積土内から土師器の小片がごく少量出土している。

SK3

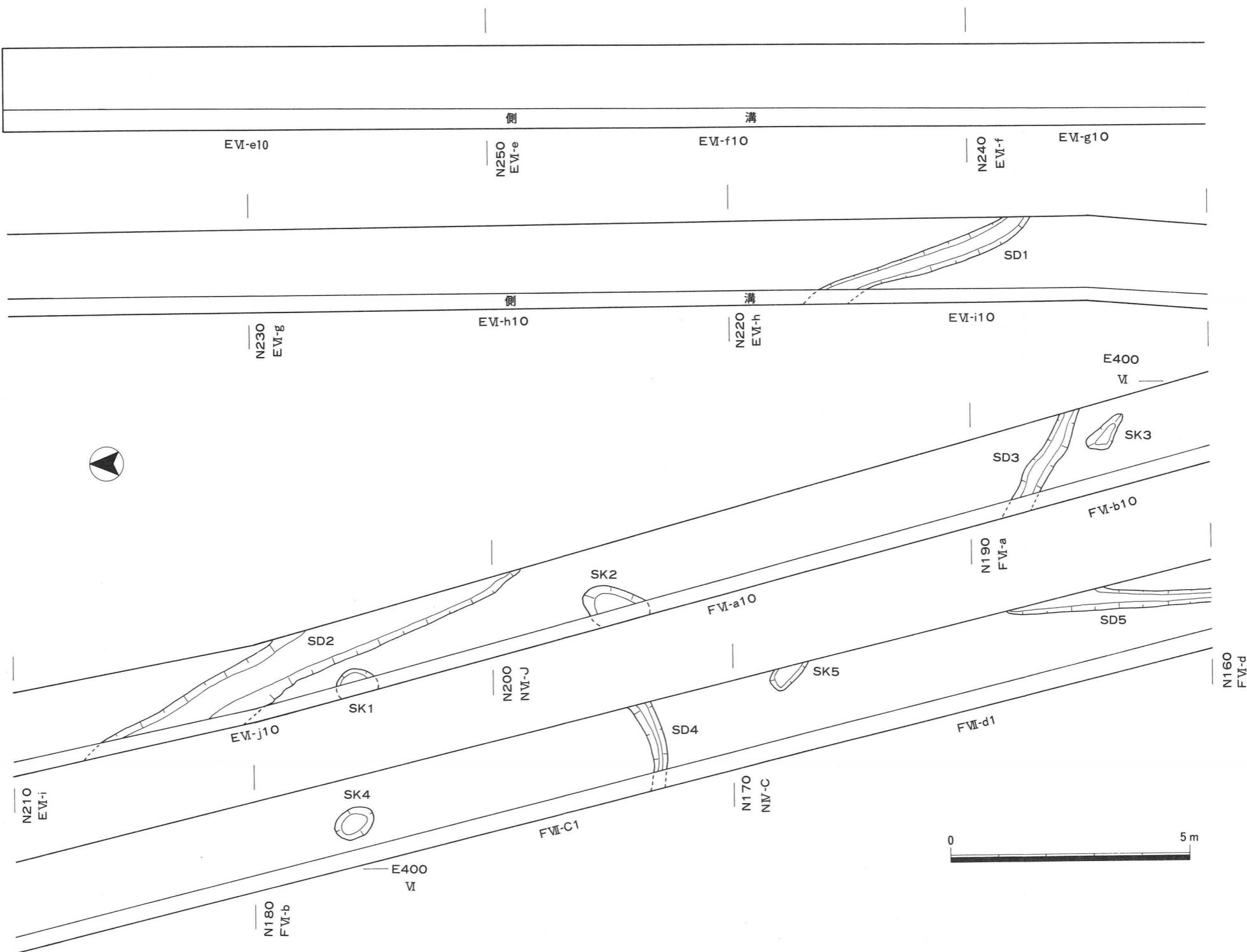
F VI-b 10区で検出した。平面は不定形を呈する。規模は最大幅97cm、最小幅40cm、深さ7cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

SK4

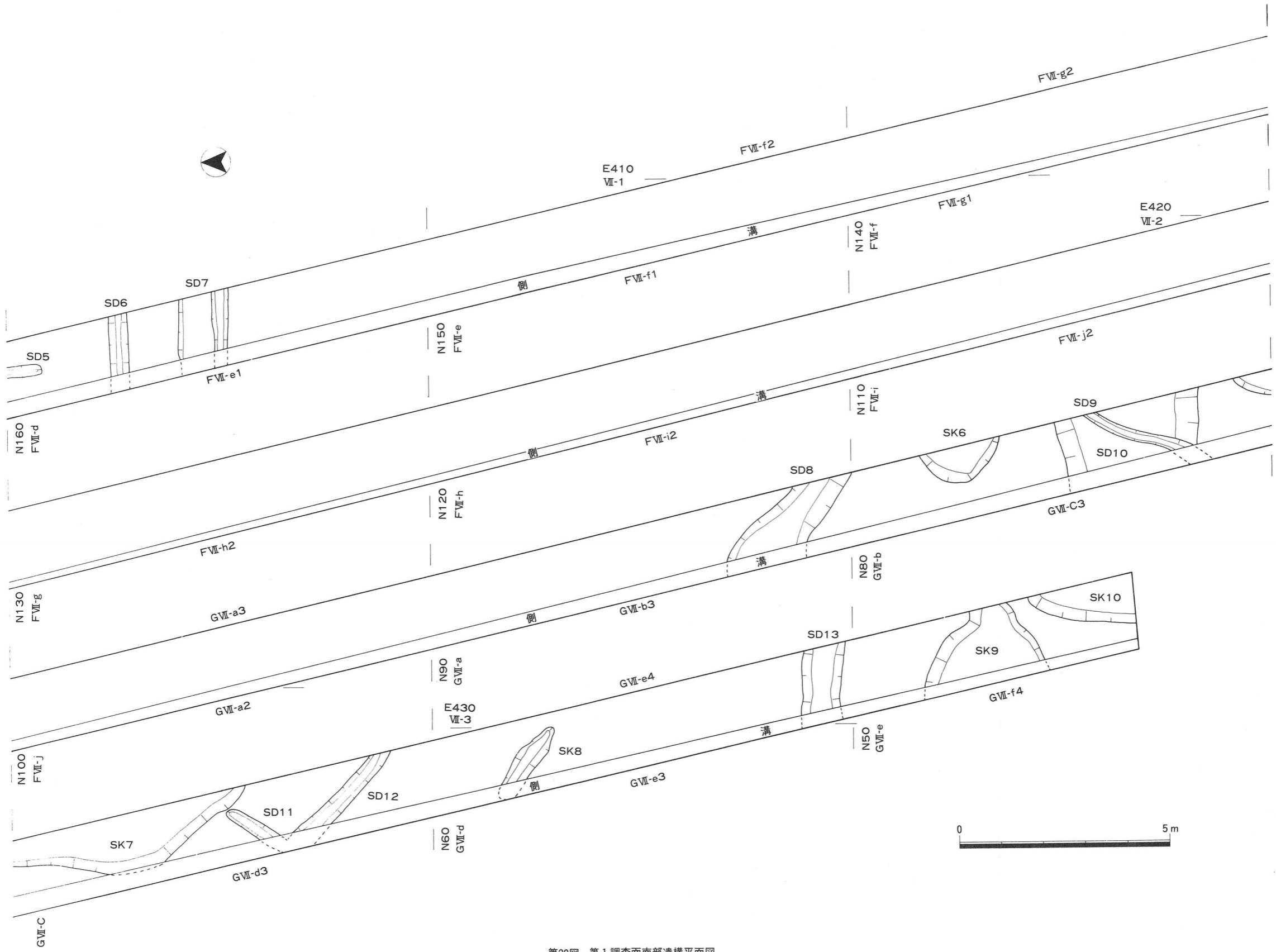
F VII-c 1区で検出した。平面は楕円形を呈し、東西径90cm、南北径65cm、深さ9cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

SK5

F VII-d 1区で検出した。平面は検出部で半楕円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、最大幅72cm、最小幅46cm、深さ6cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。



第19図 第1調査面北部遺構平面図



第20図 第1調査面南部遺構平面図

SK 6

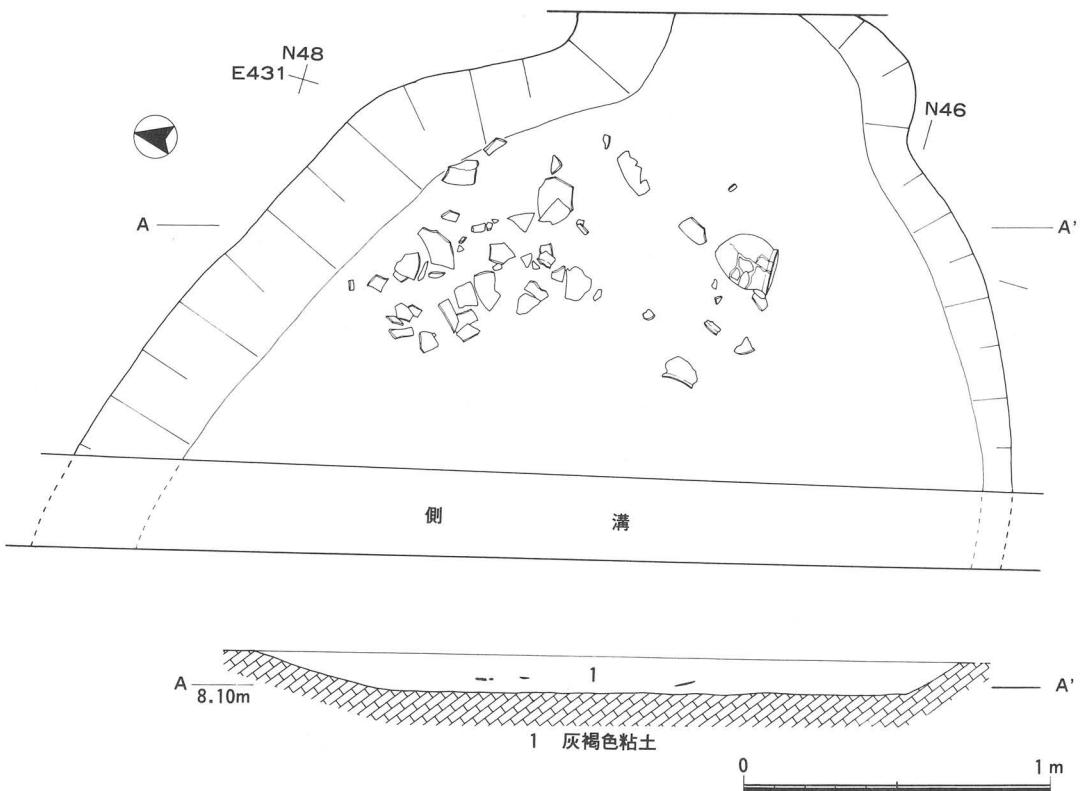
G VII—c 3 区で検出した。平面は検出部で半円形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は東西1 m、南北2 m、深さ13cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は暗茶褐色細砂混粘質土である。遺物は出土していない。

SK 7

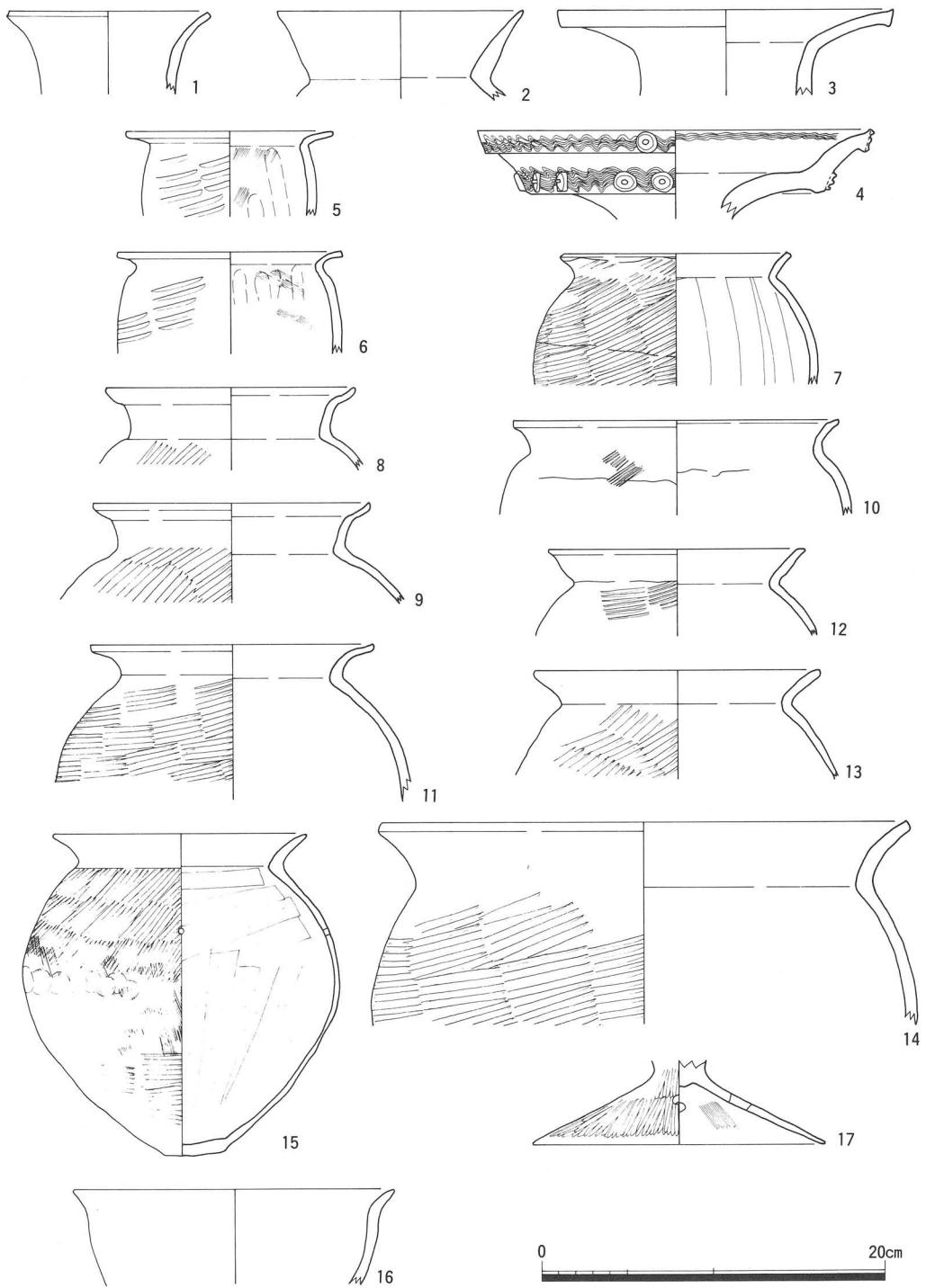
G VII—c 3・d 3 で検出した。平面は検出部で三角形を呈し、東部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.2 m以上、南北6.2 m、深さ13cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色細砂混粘質土である。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式古相）に比定される庄内式などの小破片が少量出土している。

SK 8

G VII—e 3 区で検出した。平面は南東—北西方向に長い楕円形を呈し、西北部は調査区外に至る。規模は最大幅2.2 m、最小幅80cm、深さ 6 cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は暗灰青色粘質シルトである。遺物は、内部から弥生時代後期（畿内第(6)様式）の壺・古墳時代前期の庄内式などの破片が少量出土している。



第21図 SK9検出遺物平断面図



第22図 SK9出土遺物実測図

S K 9

G VII—f 4 区で検出した。東西はともに調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は東西1.1 m、南北2.5 m、深さ9 cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色粘質土である。遺物は、内部から古墳時代前期（庄内式古相）に比定される土師器の壺（1～4）・第V様式系甕（5～14）・庄内式甕（15）・鉢（16）・高杯（17）などの破片が少量出土している（第22図）。

S K 10

G VII—f 4 区で検出した。南部・東部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は東西1.1 m、南北2.5 m、深さ11cmを測る。断面は浅い半円形を呈し、内部には暗灰青色粘質シルトが堆積している。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片が少量出土している。

溝（S D）

S D 1

E VI—i 10区で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅36～52cm、深さ14cmを測る。堆積土は灰褐色粘質土で、遺物は出土していない。

S D 2

E VI—j 10区で検出した。方向はS D 1と同じ南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅96cm、深さ13cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶褐色細砂混粘質土である。遺物は、内部から古墳時代中期に比定される土師器の小片が少量出土した。

S D 3

F VI—b 10区で検出した。方向は南東—北西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅47cm、深さ6 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質土シルトで、遺物は出土していない。

S D 4

F VII—c 1区で検出した。方向はほぼ東西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅30～45cm、深さ5 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質土シルトである。遺物は出土していない。

S D 5

F VII—d 1・e 1区で検出した。方向は南北方向を示し、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅25～44cm、深さ10～15cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は茶褐色粘土で、遺物は出土していない。

SD 6

F VII—e 1 区で検出した。方向は東西方向を示し、東西ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅43cm、深さ11cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は茶褐色粘土で、遺物は出土していない。

SD 7

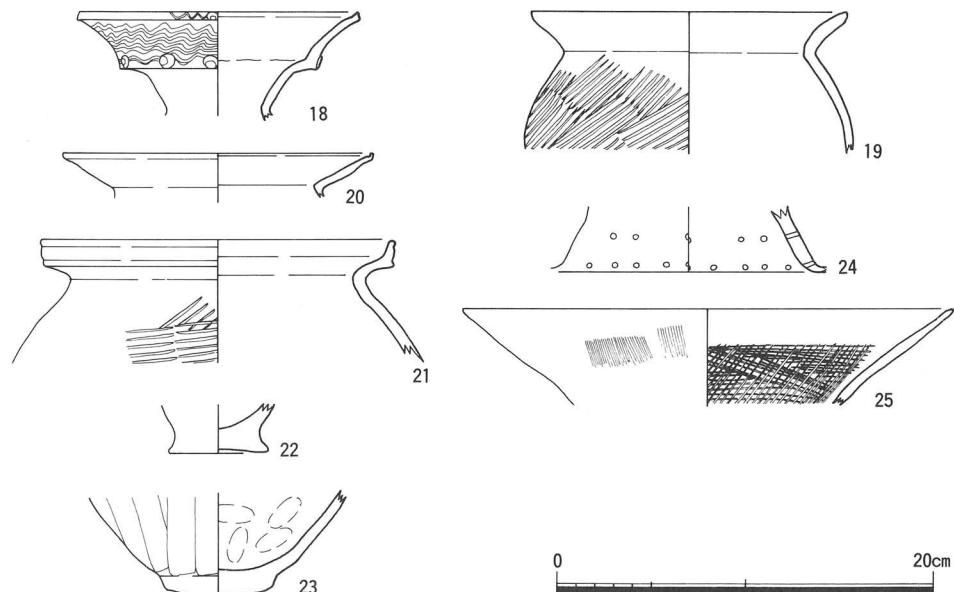
F VII—e 1 区で検出した。方向は東西方向を示し、東西ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.2 m、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は茶褐色粘土で、遺物は出土していない。

SD 8

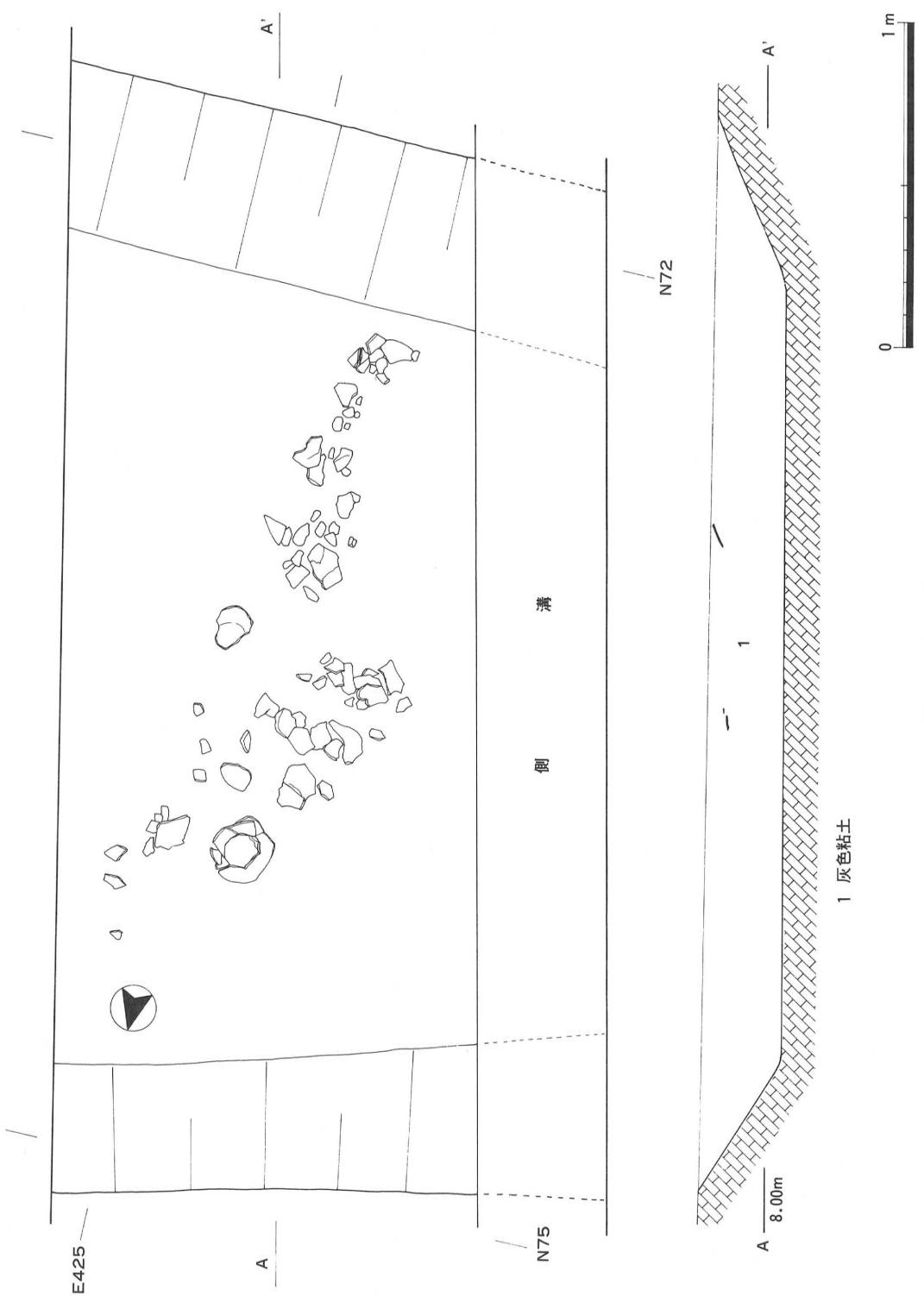
G VII—b 3 区で検出した。方向は南東—北西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.7 m、深さ50cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は黒青灰色粘質シルトで、遺物は、内部から古墳時代前期に比定される壺（18・23）・第V様式系甕（19）・庄内式甕（20）・吉備系甕（21）・鉢（22）・器台（24）・高杯（25）などの破片が少量出土している（第23図）。

SD 9

G VII—C 3 区で検出した。方向は南西—北東方向を示し、やや湾曲を描きながら東西ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅28cm、深さ 9 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は黒青灰色粘土で、遺物は出土していない。



第23図 SD8出土遺物実測図



第24図 SD10検出遺物平断面図

S D 10

G VII—c 3区で検出した。方向は東西方向を示し、東西ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅3.2 m、深さ85cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰色粘土が堆積している。遺物は、古墳時代前期（庄内式古相）に比定される土器の破片が少量出土している。器種には甕（26・27）・庄内式甕（28～32）・製塩土器（33）がある（第25図）。

S D 11

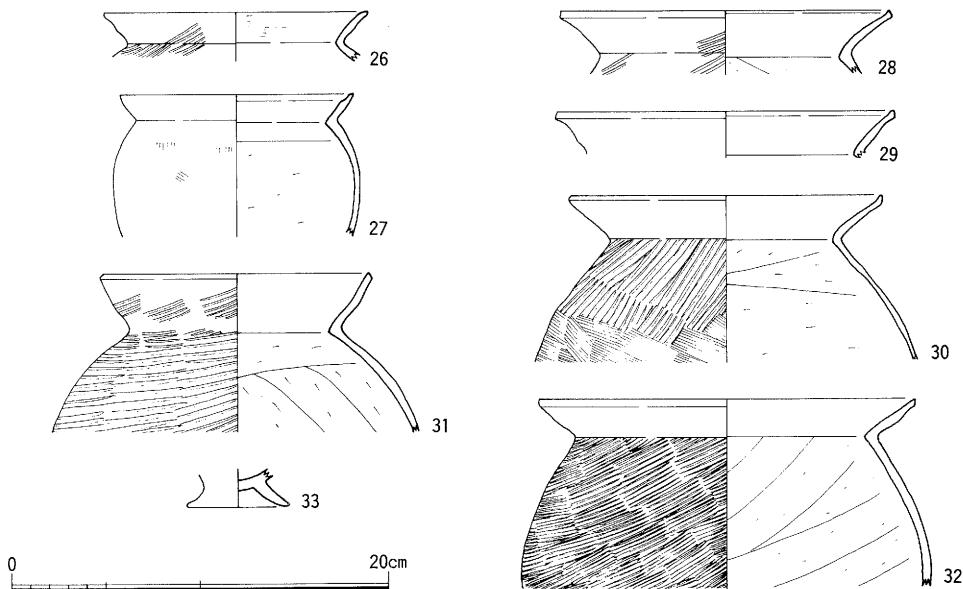
G VII—d 3区で検出した。方向は南西—北東方向を示し、南部はS D 12と合流する。規模は検出部で、幅33cm、深さ9 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色粘土で、遺物は出土していない。

S D 12

G VII—d 3区で検出した。方向は南東—北西方向を示す。北部はS D 11と合流し、南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅60cm、深さ8 cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部にはS D 11と同一土層が堆積している。遺物は出土していない。

S D 13

G VII—e 4区で検出した。方向は東西方向を示し、東西ともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅1 m、深さ5 cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰青色粘質土で、遺物は出土していない。



第25図 SD10出土遺物実測図

第2調査面

溝 (SD)

SD14~SD58

当調査区の全域で45条を検出した。方向は東西方向のもの10条 (SD21~SD24・SD30~SD35)、南北方向のもの34条 (SD15~SD20・SD25~SD29・SD36~SD58)、南西~南東方向のもの1条 (SD14) である。断面の形状には逆台形・半円形を呈するものがあるが、ほとんど逆台形である。これらの溝は鎌倉時代以降の農耕に関連するもので、唐鋤溝・畝溝などが考えられる。また、溝の方向では、現在の土地区画の方向とほぼ同方向であることから現在まであまり変動がなかったことがうかがえる。

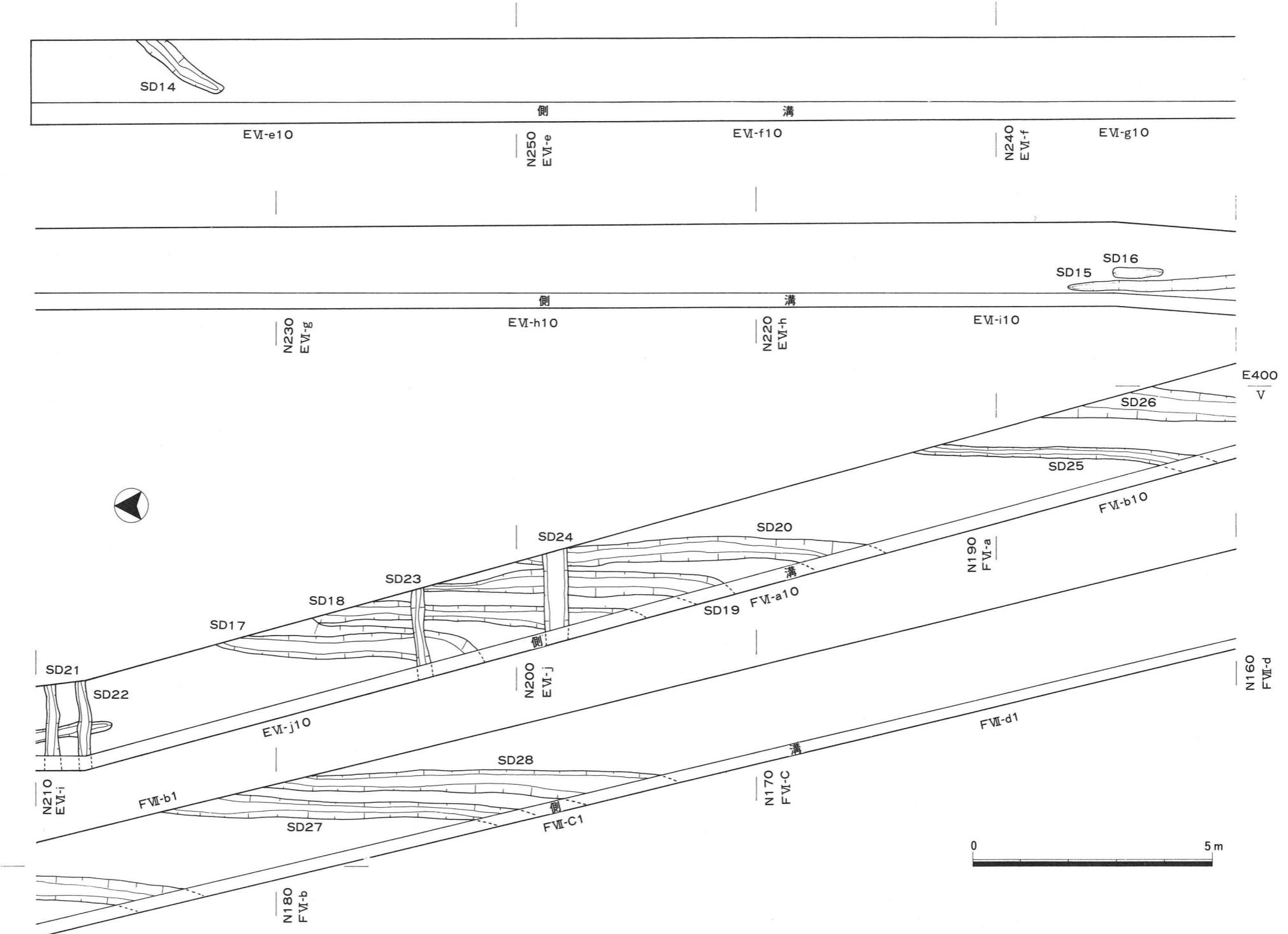
以下、個々の溝については第4表に一括して掲載した。

第4表 第2調査面溝 (SD) 一覧表

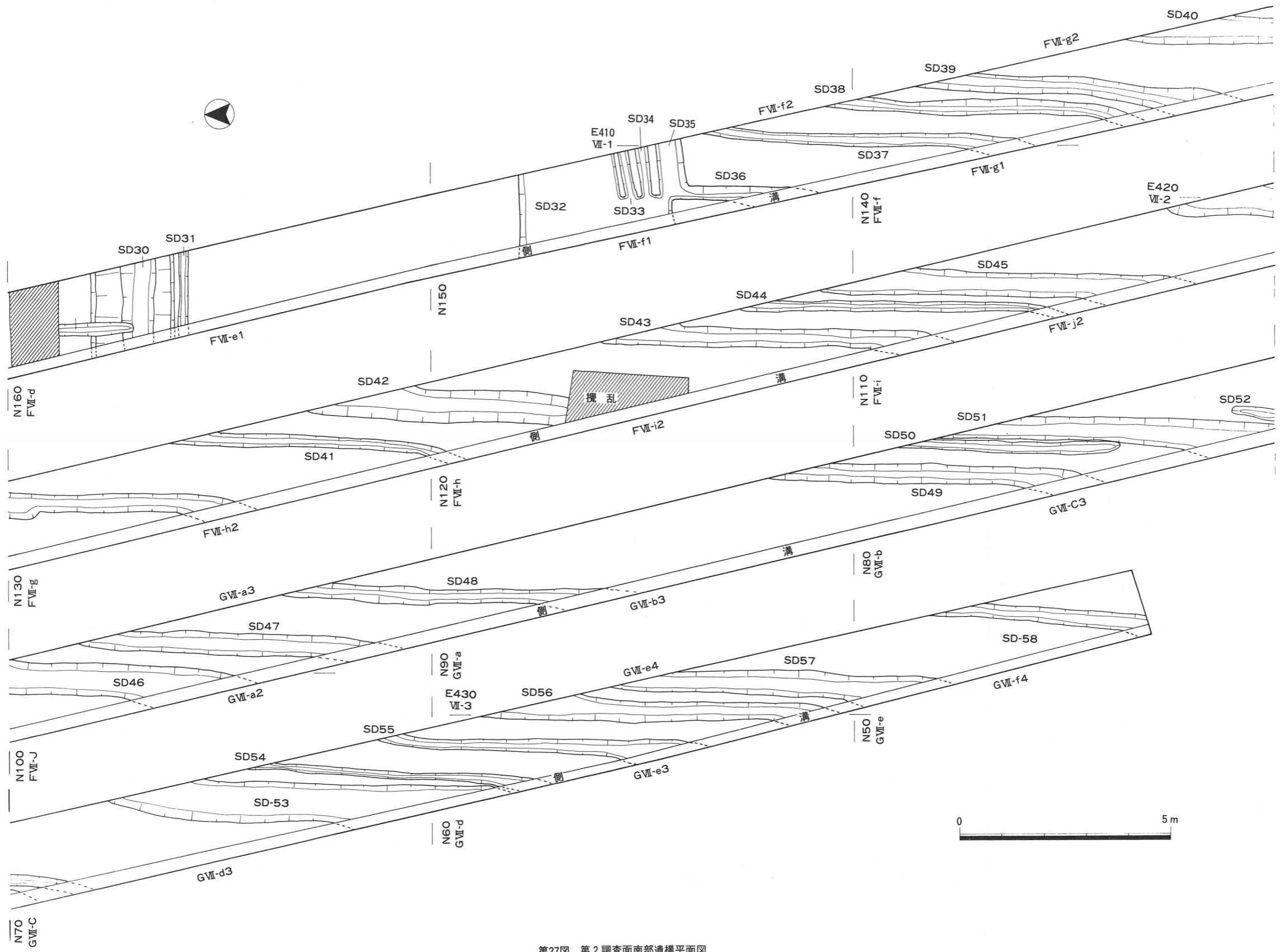
* 単位: cm

遺構番号	地区	方 向	幅	深さ	断面形	堆積土
SD14	E VI-e 10	南西~北東	32~52	6	半円形	灰青褐色粘質土
SD15	E VI-i 10 ~j 10	南~北	17~37	6	逆台形	褐灰色細砂混粘質土
SD16	E VI-i 10	南~北	24	5	逆台形	褐灰色細砂混粘質土
SD17	E VI-j 10	南~北	40~50	8~10	逆台形	褐灰色細砂混粘質土
SD18	E VI-j 10 ~F VI-a 10	南~北	30~38	11	逆台形	にぶい褐色砂混粘土
SD19	E VI-j 10 ~F VI-a 10	南~北	15~50	6~11	逆台形	明黄褐色砂混粘土
SD20	E VI-j 10 ~F VI-a 10	南~北	38~44	11~13	逆台形	にぶい褐色砂混粘土
SD21	E VI-j 10	東~西	25	9	逆台形	褐灰色粘土
SD22	E VI-j 10	東~西	25	8	逆台形	褐灰色粘土
SD23	E VI-j 10	東~西	26	7	逆台形	褐灰色粘土
SD24	F VI-a 10	東~西	53	13	逆台形	褐灰色粘土
SD25	F VI-a 10 ~b 10	南~北	20~29	7	逆台形	褐灰色粘土
SD26	F VII-b 10	南~北	51~68	10~12	逆台形	にぶい褐色砂混粘土
SD27	F VII-b 1 ~c 1	南~北	30~50	7~10	逆台形	にぶい褐色砂混粘土
SD28	F VII-b 1 ~c 1	南~北	35~52	18~21	逆台形	にぶい褐色砂混粘土
SD29	F VII-e 1	南~北	28	11	逆台形	明褐色粘質土
SD30	F VII-e 1	東~西	187	11	逆台形	明褐色粘質土
SD31	F VII-e 1	東~西	23	7	逆台形	明褐色粘質土
SD32	F VII-f 1	東~西	240	6	逆台形	明褐色粘質土
SD33	F VII-f 1	東~西	24	7	逆台形	明褐色粘質土
SD34	F VII-f 1	東~西	30	7	逆台形	明褐色粘質土

遺構番号	地区	方 向	幅	深 さ	断面形	推 積 土
S D 35	F VII-f 1	東一西	38	7	逆台形	明褐色粘質土
S D 36	F VII-f 1	南一北	34	5	逆台形	明褐色粘質土
S D 37	F VII-f 2 ～g 2	南一北	32	10	逆台形	明褐色粘質土
S D 38	F VII-f 2 ～g 2	南一北	34	10	逆台形	明褐色粘質土
S D 39	F VII-g 2	南一北	42	12	逆台形	茶褐色粘土
S D 40	F VII-g 2 ～h 2	南一北	42～66	13～16	逆台形	褐色粘土
S D 41	F VII-h 2	南一北	30	10	逆台形	褐色粘土
S D 42	F VII-h 2 ～i 2	南一北	80	18	逆台形	灰色砂混粘土
S D 43	F VII-i 2 ～j 2	南一北	48	17	逆台形	明褐色粘質土
S D 44	F VII-i 2 ～j 2	南一北	26	9	逆台形	明褐色粘質土
S D 45	F VII-i 2 ～j 2	南一北	60	11	逆台形	黃灰色粘質土
S D 46	F VII-j 2 G VII-a 2	南一北	80	6	逆台形	黃灰色粘質土
S D 47	G VII-a 3	南一北	58	6	逆台形	黒緑灰色砂混粘土
S D 48	G VII-a 3 ～b 3	南一北	40	8	逆台形	黒緑灰色砂混粘土
S D 49	G VII-b 3 ～c 3	南一北	48	8	逆台形	明褐色粘質土
S D 50	G VII-c 3	南一北	30	6	逆台形	明褐色粘質土
S D 51	G VII-c 3	南一北	55	10	逆台形	明褐色粘土
S D 52	G VII-c 3 ～d 3	南一北	28	6	逆台形	明褐色粘土
S D 53	G VII-d 3	南一北	100	16	逆台形	明褐色粘土
S D 54	G VII-d 3 ～e 3	南一北	20	6	逆台形	明褐色粘土
S D 55	G VII-d 3 ～e 3	南一北	24～40	8	逆台形	褐色砂混粘土
S D 56	G VII-e 4	南一北	40～54	9	逆台形	褐色砂混粘土
S D 57	G VII-e 4 ～f 4	南一北	56	7	逆台形	灰褐色砂混粘土
S D 58	G VII-f 4	南一北	48	7	逆台形	灰褐色砂混粘土



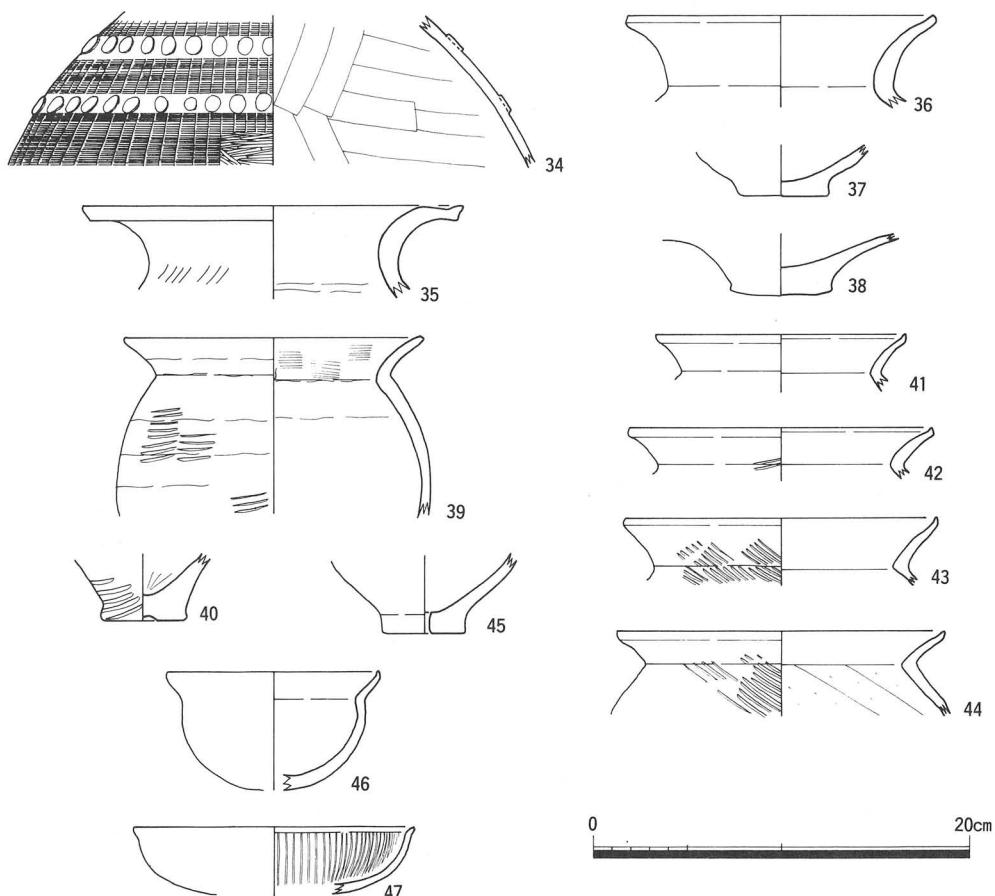
第26図 第2調査面北部遺構平面図



第27図 第2調査面南部構造平面図

III 遺構に伴わない遺物

第2層～第4層内から遺物が出土している。出土量はコンテナ箱にして約1/2 箱分を数える。第4層内から出土した遺物は弥生時代～古墳時代前期に至るものである。図示できたものは弥生時代中期（畿内第Ⅲ様式）に比定される壺（34）、古墳時代前期に比定される壺（35～38）・第V様式系甕（39・40）・庄内式甕（41～44）・有孔鉢（45）・鉢（46）である。第2層・第3層内から出土した遺物は摩耗した小片で、ほとんどが器種を見分けられないものであった。図示できたものは奈良時代に比定される杯（47）1点だけである（第28図）。



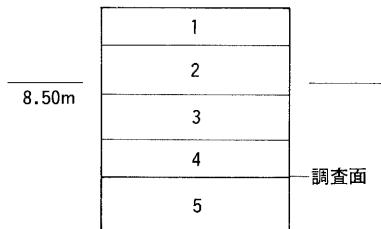
第28図 遺構に伴わない出土遺物実測図

第5節 第5調査区

第4調査区の屈曲部から東に設定した東西に長い調査区(58m×2m)である。調査面積は約116m²を測る。

I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる5層を摘出して基本層序とした。現地表面は8.9mを測る。



第29図 基本層序柱状図(S=1/40)

第1層耕土：層厚20cm。調査前までの耕作土である。

第2層黄褐色粘土：層厚20~25cm。耕土の床土である。土層内には古墳時代~近世に至る遺物がごく少量出土している。

第3層暗赤褐色粘質土：層厚20~25cm。酸化鉄が含まれ、古墳時代~近世に至る遺物もごく少量含まれている。

第4層灰色粘土：層厚15~20cm。

第5層青灰色粘土：層厚30cm以上。この上面を調査面とした。標高8.0mを測る。

II 検出遺構・出土遺物

第5層上面を調査面とした。その結果、鎌倉時代に比定される溝7条を検出した。以下、各遺構について概説する。

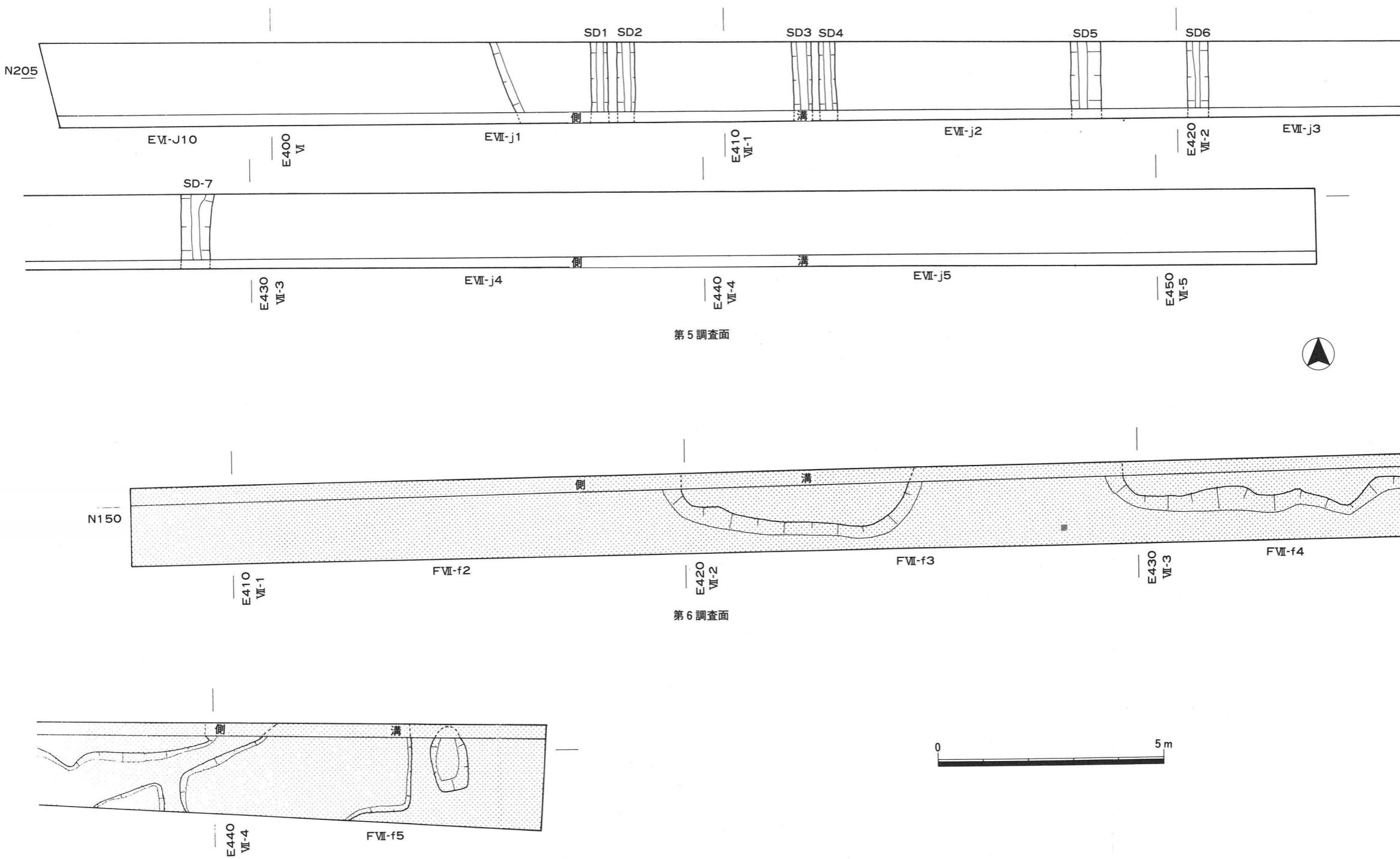
溝 (SD)

当調査区で7条(SD1~SD7)を検出した。方向はすべて南北方向を示すもので、これらの溝は農耕に関連する溝と考えられる。以下、各溝の法量等について第5表にまとめた。

第5表 溝 (SD) 一覧表

* 単位: cm

遺構番号	地区	方 向	幅	深さ	断面形	推 積 土
SD1	E VII-j 1	南-北	38	16	逆台形	暗赤褐色~灰色粘土
SD2	E VII-j 1	南-北	40	18	逆台形	暗赤褐色~灰色粘土
SD3	E VII-j 2	南-北	42	19	逆台形	暗赤褐色~灰色粘土
SD4	E VII-j 2	南-北	25	13	逆台形	暗赤褐色~灰色粘土
SD5	E VII-j 2	南-北	65	14	逆台形	暗赤褐色~灰色粘土
SD6	E VII-j 3	南-北	48	13	逆台形	暗赤褐色~灰色粘土
SD7	E VII-j 3	南-北	65~75	11	逆台形	灰色粘土



第30図 第5・第6調査面遺構平面図

第6節 第6調査区

第4調査区の中央部から東に設定した東西に長い調査区（39m×2m）で、第5調査区の南部約50mに位置する。調査面積は約78m²を測る。

I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる7層を抽出して基本層序とした。現地表面は9.1mを測る。

第1層耕土：層厚20cm。現在まで耕されていた土層である。

第2層黒褐色粘土：層厚20cm。

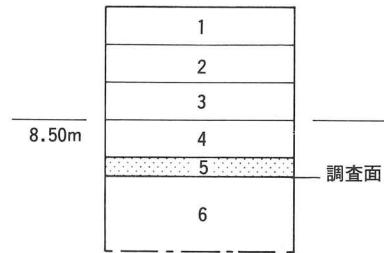
第3層オリーブ黄色細砂混粘質土：層厚15～20cm。

第4層明赤褐色粘質土：層厚10～20cm。

第5層褐灰色粘土：層厚20cm。古墳時代前期（庄内式期）の遺物を含む。

第6層暗青灰色シルト混粘土：層厚40cm以上。この

上面を調査面とした。標高は8.2mを測る。



第31図 基本層序柱状図(S=1/40)

II 検出遺構・出土遺物

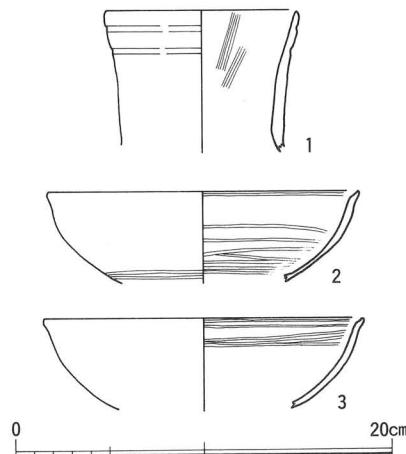
第6層上面を調査面とした。その結果、中世条里の坪境と思われる溝1条を検出した。

SD 1

当調査区全域で検出した。方向は当調査区と平行の東西方向を示す。溝幅は当調査区外にあり不明であるが、第4調査区で検出しているSD 31では、幅3m、深さ40cmを測る。断面は半円形を呈し、内部には明褐色粘質土が堆積している。遺物は、内部から鎌倉時代に比定される土師器・瓦器の椀等の小片がごく少量出土している。この溝の上面には現在の農業水路が重複している。

III 遺構に伴わない遺物

第2層～第4層内からコンテナ箱にして約1/4箱分が出土している。第4層内では弥生時代後期～古墳時代前期に比定される土器の小片がごく少量出土している。図示できたものは畿内第V様式の長頸壺（1）1点である。第2・第3層内では古墳時代～鎌倉時代に至る遺物が出土している。図示できたものは鎌倉時代に比定される瓦器の椀（2・3）である（第32図）。



第32図 遺構に伴わない出土遺物実測図

第7節 第7調査区

区画整理事業区域内の北東部にあたり、今回の調査区内で最も北部に設定した南北に長い調査区（90m × 2 m）である。調査面積は180m²を測る。

I 基本層序

当調査区では、調査した土層内で普遍的にみられる5層を摘出して基本層序とした。現地表面は8.6 mを測る。

第1層耕土：層厚20cm。調査前まで耕されていた土層で、北部の一部に盛土がみられる。

第2層暗茶灰色粗砂混粘質土：層厚10～15cm。耕

土の床土である。

第3層灰茶色粗砂混細砂：層厚10～20cm。上方には酸化鉄の斑点があり、やや色濃くなっている。

第4層淡灰茶色細砂：層厚20～30cm。一時的な氾濫によって堆積した土層である。

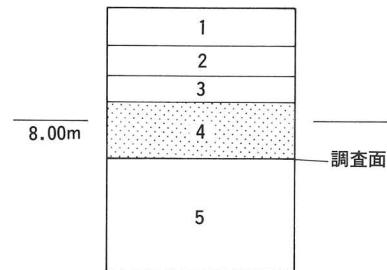
第5層灰青色粘質土：層厚60cm以上。この上面を調査面とした。標高は7.8 mを測る。

II 検出遺構・出土遺物

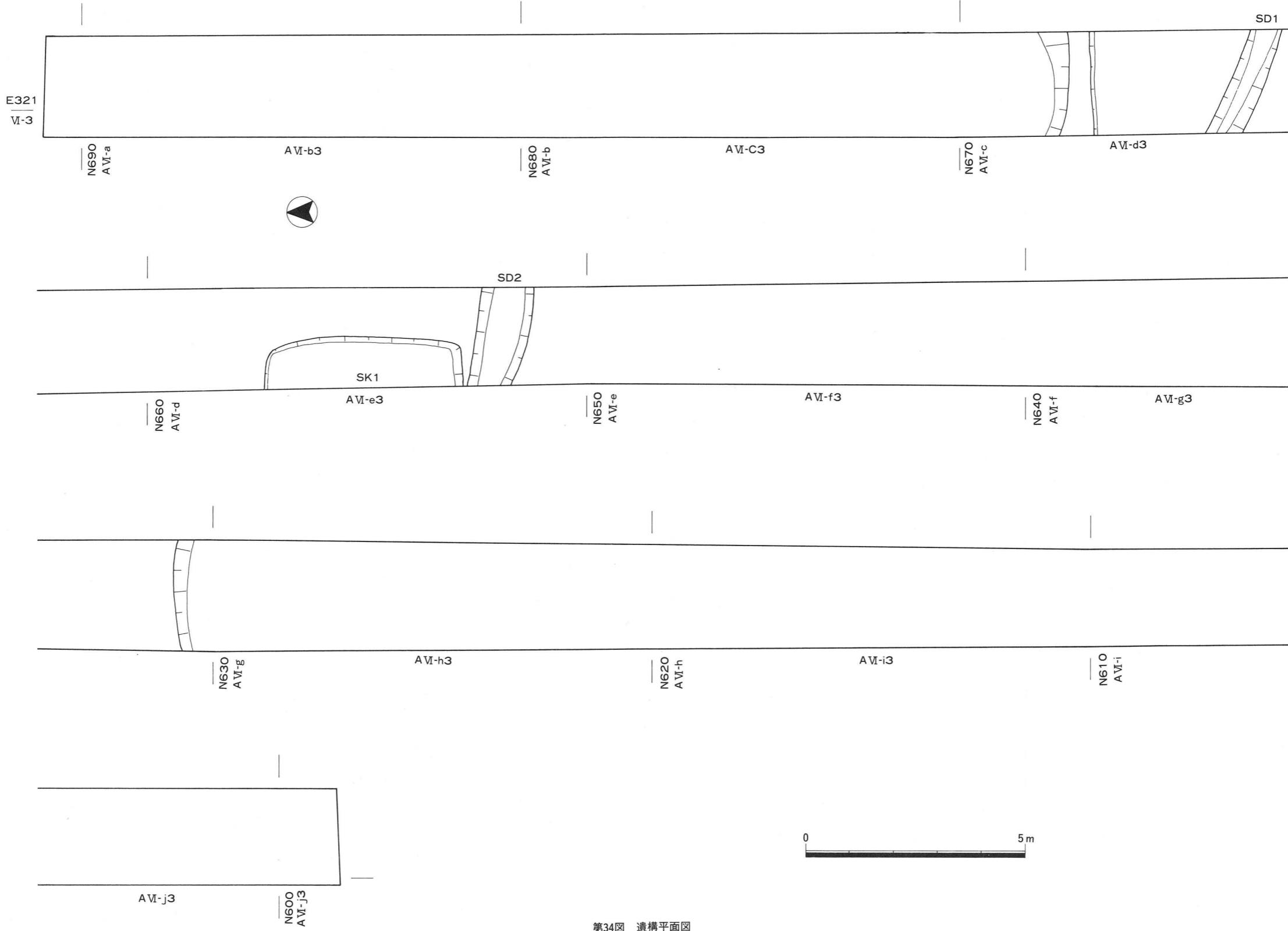
第5層上面を調査面とした。その結果、鎌倉時代に比定される水田を検出した。以下、検出した遺構について概説する。

水田

当調査区の全域で確認した。水田面には畦畔・土坑・溝・足跡がある。畦畔は、調査区の北部付近で東西方向に伸びるもの1条を検出した。上幅40～60cm、下幅80～110cm、高さ15cmを測る。断面は台形で、灰青色粘質土である。土坑は、畦畔の南部約10m付近で検出した。平面の形状は検出部で、方形を呈し、西部は調査区外に至る。規模は東西1.1 m、南北4.2 m、深さ30cmを測る。断面は逆台形を呈する。溝は2条（SD1・SD2）を検出した。SD1は畦畔とSK1の間で検出した。方向は東西方向を示す。規模は幅80cm、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈する。SD2はSK1の南部で検出した。方向は東西方向を示す。規模は検出部で、幅1.2 m、深さ8.5 cmを測る。断面は逆台形を呈する。土坑・溝内には水田上面に覆い被さっていた砂層（第4層）と同じ土層が堆積していた。



第33図 基本層序柱状図(S=1/40)



第34図 遺構平面図

第4章 出土遺物観察表

第1調査区

遺物番号 図版番号	器 出土 地点	法量 (cm)	口径 器高	形 態・調 整 等 の 特 微	色 調	胎 土	焼 成	備 考
1	壺 (弥生式土器) 包含層	口 径 16.4		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は垂下し、外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	1mm以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
2	同上 包含層	口 径 32.0		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は垂れ下がり、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡灰色 内 淡灰茶色	1mm以下の砂粒を含む。	良好	
3	甕 (弥生式土器) 包含層	口 径 15.4		上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶灰色	3mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を含む。	良好	
4	同上 包含層	口 径 29.0		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(1本)、内面ナデ・指頭痕。	暗茶褐色	3mm以下の雲母等の砂粒を含む。	良好	
5	杯蓋 (須恵器) 包含層	口 径 14.0 器 高 3.4		低く平らな天井部から屈曲し、下外方へ内湾して下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はみられない。 天井部外面約1/8回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	1.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	口クロ左方向。
6	同上 包含層	口 径 14.0 器 高 3.5		低く上面凹状の天井部から斜下方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は丸い。稜は痕跡がみられる。 天井部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	2.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	口クロ左方向。
7	杯身 (須恵器) 包含層	口 径 13.0 受部径 14.6 立ち上がり高 1.8		体部は浅い底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾し、端部は段を有し、内傾する面をもつ。底部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	1mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	内面に自然釉付着。 口クロ左方向。
8	同上 包含層	口 径 13.0 受部径 15.8 立ち上がり高 1.9		体部は上外方へ伸びる受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾し、端部は段を有し、内傾する面をもつ。底部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	1mm以下の粒を微量に含む。	良好	内面に自然釉付着。 口クロ左方向。
9	小皿 (土師器) 包含層	口 径 9.0 器 高 1.5		平坦な底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ナデ。	淡橙灰色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
10	同上 包含層	口 径 9.0 器 高 1.5		平らに近い底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部・体部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡橙灰色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
11	同上 包含層	口 径 9.6		丸みをもつと思われる底部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳褐色	0.5mm以下の微砂粒を少量含む。	良好	
12	同上 包含層	口 径 9.6		窪みのある底部から外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外側指頭痕。	乳褐色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器 出土 地點	法量 (cm)	口径 器高	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
13	椀 (瓦器) 包含層	口 径 14.4		体部は斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面・体部内面ヘラミガキ、外面指ナデ。	淡灰黒色	1.5 mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
14	同上 包含層	口 径 14.9		体部は斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指ナデ、内面ヘラミガキ。	黒灰色	1.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
15	羽釜 (土師器) 包含層	口 径 32.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部上位の锷と体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡橙灰色	3 mm以下の雲母等の砂粒を微量に含む。	良好	

第3調査区

遺物番号 図版番号	器 出土 地點	法量 (cm)	口径 器高	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
1	甕 (弥生式土器)	口 径 25.0		上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。頸部外面には4条の沈線が巡る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラナデ。	外 暗茶色 内 灰茶色	2 mm以下の母雲等の砂粒を少量含む。	良好	畿内第Ⅰ様式
一九	河川 1							
2	壺 (弥生式土器)	口 径 18.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する浅い凹面をもつ。体部中位以下は欠損。体部内面上位には接合痕2条がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面指ナデ。	淡灰褐色	1 mm以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	畿内第Ⅱ様式
一九	河川 1							
3	同上	口 径 19.4		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は垂れ下がり、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁内外面ヨコナデ、端面簾状文。	暗茶灰色	3 mm以下の石英・長石・雲母等の砂粒を含む。	良好	
一九	河川 1							
4	同上	口 径 37.0		口縁部は上外方に外反気味に伸び、端部は下方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、外面ヘラミガキ、端部ヨコナデ。	淡灰褐色	3 mm以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
一九	河川 1							
5	甕 (弥生式土器)	口 径 25.0		口縁部は直上して伸び、端部は外側に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。 端部内外面・口縁部内外面ヨコナデ、外面3段以上の簾状文。	淡茶褐色	4 mm以下の雲母・チャート・長石等の砂粒を少量含む。	良好	内面上位・外面上に煤付着。
一九	河川 1							
6	壺 (弥生式土器)	口 径 10.0 器 高 32.5 最大径 28.9		楕円形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、外に面をもつ。底部は突出しない平底。体部下位には焼成後の穿孔がある。 口縁部内外面ヨコナデ後ハケナデ(外6本・内7本)、体部外面上位ハケナデ(6本)下位ヘラミガキ、内面ハケナデ(10本)。	淡茶色	1 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。 体部外面下位に黒斑有。
一九	河川 1							
7	甕 (弥生式土器) 河川 1	口 径		上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。		3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
一九	河川 1							
8	同上	口 径 22.0		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	1 mm以下の石英等の砂粒を少量含む。	良好	
一九	河川 1							

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
9	壺 (弥生式土器) 河川 1	口 径	4.2	底部は突出する平底。口縁部・体部は欠損。 底部内外面ナデ。	暗灰色	3 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。
10	同上 河川 1	底 径	5.2	底部は突出する平底。口縁部・体部は欠損。 外面タタキ、内面ナデ。	淡茶灰色	1 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
11	同上 河川 1	底 部	6.0	底部は突出する平底。口縁部・体部は欠損。 内外面ナデ。	淡茶灰色	1 mm以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
12	同上 河川 1	口 径	11.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 内外面調整不明。	淡灰色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
13	同上 河川 1	口 径	12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。体部内面上位には1条の接合痕がみられる。 口縁部・頸部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)後ナデ(一部タタキ(6本)有り)、内面ナデ。	茶灰色	4 mm以下の砂粒を少量含む。	良	外面に煤付着。
14	甕 (弥生式土器) 河川 1	口 径	16.8	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	3 mm以下の長石・石英・雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
15	同上 河川 1	口 径	5.2	底部は突出する平底。口縁部・体部は欠損。 外面タタキ、内面ナデ。	淡茶灰色	長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
16	高杯 (弥生式土器) 河川 1	口 径	19.0	杯底部・脚部は欠損。杯底部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	4 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
17	器台 (弥生式土器) 河川 1	口 径	20.0	杯底部・脚部は欠損。杯底部から屈曲し、 上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 杯部外面ナデ、内面摩滅の為不明。	外灰黒色 内淡灰褐色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
18	同上 河川 1	底 径	14.8	受部は欠損。脚部は下外方へ下り、端部は外傾する面をもつ。脚部には四方に円孔がある。 内外面摩滅の為不明。	淡茶灰色	3 mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
19	同上 河川 1	口 径	12.0	杯部は欠損。脚部は外下方へ外反して下る。 端部は外傾する面をもつ。脚部中位には四方に円孔がある。 脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	暗茶灰色	1 mm以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
20	壺 (土師器) 河川 1	口 径	10.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。頸部内面には一条の接合痕がある。 口縁部外面ヨコナデ・指頭痕、内面ヘラミガキ。	赤褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
21	壺 (土師器) 河川 1		口径 15.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	4 mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
22	同上 河川 1		口径 16.4	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(8本)、体部外面ハケナデ(8本)、内面ナデ。	外 淡灰橙色 内 淡灰橙色～乳橙色	1 mm以下の長石・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。		
23	同上 河川 1		口径 17.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は外につまみ出し、外に小さな面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・指頭痕。	淡茶褐色	1 mm以下の石英・長石・雲母・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
24	甕 (土師器)		口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰茶色	0.5 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
25	同上 河川 1		口径 14.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
26	同上 河川 1		口径 15.6	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡褐色～淡茶色 内 淡褐色	0.5 mm以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
27	同上 河川 1		口径 16.6	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	1 mm以下の角閃石・雲母等の砂粒を含む。	良好	
28	同上 河川 1		口径 18.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)後ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.5 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
29	同上 河川 1		口径 13.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 赤褐色 内 乳褐色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
30	同上 河川 1		口径 13.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方へ長く拡張させ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶色	長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	吉備系の特徴をもつ。
31	同上 河川 1		口径 22.6	斜上方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良	
32	器台 (土師器) 河川 1	受部径	9.2	脚部は欠損。受部は外上方へ内湾気味に伸び、端部はつまみ上げる。 受部内外面ヘラミガキ。	淡灰褐色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
33	同上 河川 1	受部径	10.8	脚部は欠損。受部は外上方へ内湾して伸び、端部は鈍く尖る。 内外面摩滅の為不明。	淡茶灰色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	器台 (土師器) 河川1	底部径	11.8	受部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は丸い。 外面摩耗の為調整不明、内面ハケナデ。	淡灰茶色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
35	同上 河川1	底部径	20.4	受部・柱状部は欠損。裾部は外下方へ伸びた後屈曲し、外方へ外反して下る。端部は丸い。裾部には四方の円孔がある。 内外面摩耗の為調整不明。	茶褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良	
36	高杯 (土師器) 河川1	口径	14.0	杯底部・脚部は欠損。杯底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 杯部外面は摩耗の為調整不明、内面ハラミガキ。	淡茶褐色	0.5 mm以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
37	杯蓋 (須恵器) 河川1	口径 稜径	13.8 12.7	天井部は欠損。稜は鈍く尖る。稜から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 内外面回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
38	杯身 (須恵器) 河川1	底部径	9.8	口縁部は欠損。底部は平坦で、断面方形の高台が付く。 内外面回転ナデ。	灰白色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
39	高杯 (土師器) 河川1	口径	11.0	杯底部・脚部は欠損。杯底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面に稜があり、鈍く尖る。その下に1条(5本)の波状文がある。 内外面回転ナデ。	淡灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
40	円筒埴輪 (土師質) 河川1	タガ上幅 下幅 高さ 胴径	1.0 2.7 0.6 22.0	中位付近の破片である。外面にはタガ1帯がみられる。断面には接合部が残る。 外面ナデ、タガはヨコナデ、内面指ナデ・ハケナデ(11本)。	褐灰色	6mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
41	小皿 (土師器) 河川1	口径	9.8	底部の一部は欠損。底部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面付近に指押え。	乳褐色	精良。	良好	
42	同上 河川1	口径 器高	9.8 1.3	底部の一部は欠損。平坦な底部から上外方へ内湾気味に伸びた後屈曲し、外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指押え。	乳褐色	精良。	良好	
43	同上 河川1	口径 器高	9.6 1.3	やや平らな底部から外上方へ伸びた後屈曲し、外方へ短く伸びる。端部は上方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面指おさえ。	乳褐色	精良。	良好	
44	同上 河川1	口径 器高	10.0 1.3	底部の一部は欠損。平らな底部から外上方へ伸びた後屈曲し、外上方へ外反して伸びる。 端部は上方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面指押え。	乳灰色	精良。	良好	
45	同上 河川1	口径 器高	9.2 1.2	平らに近い底部から外上方へ外反気味に伸び、端部は上方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指押え。	乳灰色	精良。	良好	
46	同上 河川1	口径 器高	7.8 1.2	底部の一部は欠損。平らに近い底部から屈曲し、斜上方へ伸び、端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指押え。	暗褐色	精良。	良好	
47	同上 河川1	口径	8.8	底部の一部は欠損。底部から外上方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指押え。	淡灰褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
48	同上 河川1	口径 器高	8.0 1.6	やや丸い底部から外上方へ伸び、端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面指押え。	暗灰褐色	精良。	良好	

遺物番号 図版番号	器 出土 地点	種 法量 (cm)	口径 器高	形 態・調 整 等 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
49 二〇	小皿 (土師器) 河川 1	口 径 8.6 器 高 1.6		平らに近い底部から外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚する。 内外面は摩耗の為調査不明。	暗灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
50 二〇	同上 河川 1	口 径 8.8 器 高 1.5		平坦な底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡茶灰色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
51 二〇	同上 河川 1	口 径 8.6 器 高 1.1		平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面指押え、内面ヨコナデ。	赤褐色	0.5 mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
52 二〇	同上 河川 1	口 径 8.8 器 高 1.7		平らに近い底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部・体部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 淡灰色 内 淡橙灰色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 外面に黒班有。
53 二〇	同上 河川 1	口 径 9.8		底部の一部は欠損。丸みをもつと思われる底部から上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部外面指押え、内外面摩耗の為調整不明。	乳褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
54 二〇	同上 河川 1	口 径 9.0 器 高 1.4		丸みをもつ底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部外面指押え、内外面摩耗の為調整不明。	灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
55 二〇	同上 河川 1	口 径 9.6		底部の一部は欠損。丸みをもつ底部から上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ヨコナデ後指押え、内面ヨコナデ。	乳褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
56 二〇	同上 河川 1	口 径 11.2		底部の一部は欠損。平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面ヨコナデ。	灰褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
57 二〇	同上 河川 1	口 径 10.0		底部の一部は欠損。窪みをもつ底部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面指ナデ、内面ヨコナデ。	淡黄褐色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
58 二〇	同上 河川 1	口 径 11.6		体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	3 mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	
59 二〇	同上 河川 1	口 径 12.0		若干窪みをもつ底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡橙灰色	1 mm以下の砂粒を少量含む。	良	完形。
60 二〇	同上 河川 1	口 径 11.0		平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。
61 二〇	楕 (瓦器) 河川 1	口 径 10.6 器 高 2.9		楕形の体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ヨコナデ・指押え、内面ヨコナデ。	淡灰褐色	3 mm以下の砂粒を微量に含む。	良	
62 二〇	同上 河川 1	口 径 14.2		底部は欠損。体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部指押え後ヘラミガキ。内面ヘラミガキ。	暗灰色	精良。	良好	
63 二〇	同上 河川 1	口 径 13.8		底部は欠損。体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外反しながら鈍く尖る。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押え後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	暗灰色	精良。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
64	椀 (瓦器) 河川 1		口 径 14.8	底部は欠損。体部は外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は若干外方へつまみ丸い。 内外面ヘラミガキ。	淡黒灰色	2 mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
65	同上 河川 1		口 径 13.0	底部は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部・体部外面ナデ後ハケナデ、(11本) 内面ヘラミガキ。	黒灰色	精良。	良好	
66	同上 河川 1		口 径 13.8	底部は欠損。体部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	乳茶色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
67	同上 河川 1	口 径 13.0 器 高 4.1		半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部には断面逆台形の高台が付く。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、高台ヨコナデ、口縁部・体部内面ヘラミガキ、見込みは格子状暗文。	淡黒灰色	1.5 mm以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を微量に含む。	良好	
68	同上 河川 1		口 径 14.6	底部は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部外面指押え後ナデ、見込みは格子状暗文。	暗灰褐色～ 淡灰色	1 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
69	同上 河川 1		口 径 14.8	底部は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	灰黒色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
70	同上 河川 1		口 径 15.0	底部の一部は欠損。浅い半球形の体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。口縁部は器肉を減じて、端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	淡灰色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
71	同上 河川 1	口 径 16.8 器 高 4.9		底部の一部は欠損。半球形の体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は脹らみ丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ、見込みは平行暗文。	淡黒灰色	1.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
72	同上 河川 1		口 径 14.2	底部の一部は欠損。半球形の体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は脹らみ丸い。 外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	淡黒灰色	3 mm以下の長石・チャート等の砂粒を微量に含む。	良好	
73	同上 河川 1		口 径 13.6	底部は欠損。体部は斜上方へ伸びた後上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	暗灰色	0.5 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
74 二〇	同上 河川 1	口 径 12.6 器 高 3.1		浅い半球形の体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面指押え、内面ヘラミガキ。	暗灰色	精良。	良	完形。
75	同上 河川 1	口 径 13.0 器 高 3.7		半球形の体部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部には断面逆台形の高台が付く。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	淡黒灰色	3 mm以下の長石・チャート・雲母等の砂粒を微量に含む。	良好	
76	同上 河川 1		口 径 14.2	底部の一部は欠損。半球形の体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は脹らみ丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	淡黒灰色	4 mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77	椀 (瓦器) 河川 1	口 径 14.4 器 高 3.5		底部の一部は欠損。半球形の体部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	淡黒灰色	3 mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
78	同上 河川 1	口 径 14.6		底部は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部指押え後ナデ、内面ヘラミガキ。	暗灰色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
79	羽釜 (瓦質) 河川 1	口 径 17.0		体部から上内方へ内湾して伸びる口縁部に至り、端部は丸い。口縁部外面付近には上外方へ短く伸びる鍔が巡る。端部は面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ハケナデ(9本)。	淡灰色	2 mm以下の雲母・長石等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に黒班有。
80	同上 河川 1	口 径 18.7		体部から上内方へ内湾して伸びる口縁部に至り、端部は丸い。口縁部外面付近にはやや外上方へ短く伸びる鍔が巡る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡灰色	3 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。

第4調査区

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (土師器) 二二 SK 9	口 径 11.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	6 mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を多量含む。	良	
2	同上 二二 SK 9	口 径 14.4		体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶色	角閃石・長石・雲母・チャート・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
3	同上 二二 SK 9	口 径 19.6		口縁部は上外方へ大きく外反して伸び、端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
4	同上 二二 SK 9	口 径 22.8		口縁部は外方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる。端部はつまみ上げ外に面をもつ。端面には1帯7本の波状文と円形浮文、内面端部付近には1帯4本の波状文、外面部曲部には1帯11本の波状文と円形浮文が飾られている。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	5 mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
5	甕 (土師器) 二二 SK 9	口 径 12.0		上方へ内湾して伸びる体部から大きく屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面指ナデ後ハケナデ。	赤茶褐色	3 mm以下の長石・チャート・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
6	同上 二二 SK 9	口 径 13.0		上方へ内湾して伸びる体部から大きく屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面指ナデ後ハケナデ。	赤茶褐色	3 mm以下の石英・チャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
7	甕 (土師器) SK 9	口 径 13.0		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位以下は欠損。体部中位外面・口縁部外面には一条の接合痕がみられる。口縁部外面タタキ後ヨコナデ(3本)、内面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	外 褐色 内 灰褐色	微砂粒を少量含む。	良	
二二								
8	同上	口 径 14.4		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びた後屈曲し、斜上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ナデ。	淡茶色	7mm以下の角閃石・長石・チャート・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
二二	SK 9							
9	同上	口 径 16.0		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びた後屈曲し、斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する凹面をもつ。体部は欠損。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡茶色 内 淡茶灰色	4mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
二二	SK 9							
10	同上	口 径 19.0		上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。体部内外面には一条の接合痕がみられる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	淡茶灰色	2mm以下の雲母・角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
二二	SK 9							
11	同上	口 径 16.4		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	淡茶褐色	4.5mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。
二三	SK 9							
12	同上	口 径 15.0		上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ丸い。頸部外面には一条の接合痕がみられる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	淡橙褐色	3mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
	SK 9							
13	同上	口 径 16.6		上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	淡橙褐色	5mm以下の長石・石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
二三	SK 9							
14	同上	口 径 30.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ナデ。	外 茶褐色 内 灰褐色	5mm以下の角閃石・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
二三	SK 9							
15	同上	口 径 16.8		卵形の体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部には小さな平底がみられる。体部上位に穿孔有。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位・下位タタキ(4本)、中位ハケナデ(11本)・指頭痕、内面ヘラ削り。	赤褐色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
二三	SK 9							
16	鉢 (土師器) SK 9	口 径 18.6		底部は欠損。上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
17	高杯 (土師器) SK 9	底 径 17.0		杯部は欠損。脚部は外下方へ大きく開く、端部は丸い。脚部中位には四方の円孔がある。 脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ後ハケナデ。	赤褐色	精良。	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
18 二三	壺 (土師器) SD 8	口 径 14.8		体部から屈曲して上外方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。端面には一帯2条の波状文と円形浮文がある。口縁部外面には1帯12条の波状文と円形浮文、内面には一条の接合痕がみられる。口縁部内外面ヨコナデ。	赤褐色	0.5 mm以下の雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
19 二三	甕 (土師器) SD 8	口 径 16.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部・頸部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ナデ。	乳灰橙色	1 mm以下の赤褐色酸化粒・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面・体部外面上位に煤付着。
20 二三	同上 SD 8	口 径 16.6		口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
21 二三	同上 SD 8	口 径 18.6		上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上方へ長く拡張する。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位・内面ナデ、体部外面中位タタキ(3本)。	淡茶灰色	3 mm以下の角閃石・長石等の砂粒を含む。	良好	
22 二三	鉢 (土師器) SD 8	底 径 5.2		口縁部・体部は欠損。底部はやや突出した上げ底。 内外面ナデ。	淡灰色	1 mm以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
23 二三	壺 (土師器) SD 8	底 径 5.2		口縁部・体部は欠損。底部はやや突出した平底。 外面ヘラナデ、内面指頭痕。	淡茶灰色	3 mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に黒班有。
24 二三	器台 (土師器) SD 8	底 径 13.2		受部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は外につまみ出し、先端部は欠損。脚部には穿孔(径約3mm)が2段にあり、1~1.5cm間隔で開けられている。 脚部内外面ヨコナデ。	乳灰色	2 mm以下の砂粒を少量含む。	良	
25 二三	高杯 (土師器) SD 8	口 径 26.0		杯部は斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡茶色	1 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
26 二四	甕 (土師器) SD 10	口 径 14.0		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ(5本)後ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)後ヨコナデ。	淡茶褐色	1.5 mm以下の赤褐色酸化粒・雲母・角閃石・チャート・長石等の砂粒を微量に含む。	良好	
27 二四	同上 SD 10	口 径 12.4		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部下位は欠損。 口縁部・頸部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2 mm以下の雲母・長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面中位に煤付着。
28 二四	同上 SD 10	口 径 17.4		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	茶灰色	3 mm以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
29 二四	甕 (土師器) S D 10	口 径 19.0		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	1.5 mm以下の赤褐色酸化粒・角閃石・雲母・チャート・長石等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に煤付着。
30 二四	同上 S D 10	口 径 16.6		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2 mm以下の角閃石・長石・雲母・石英等の砂粒を含む。	良好	口縁部外面・体部外面中位に煤付着。
31 二四	同上 S D 10	口 径 14.0		内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
32 二四	同上 S D 10	口 径 20.0 最大径 21.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	茶褐色	4 mm以下の角閃石・雲母・チャート等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に煤付着。
33 二四	製塙土器 S D 10	底 径 4.7		体部は欠損。脚部は外下方へ外反して伸び、端部は丸い。 内外面ナデ。	赤茶褐色	2.5 mm以下の雲母・石英・長石・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
34 二四	壺 (弥生式土器) 包含層			口縁部・体部中位以下は欠損した体部片である。 体部外面に簾状文後2段の円形浮文が巡る。体部下位の一部にヘラミガキ、内面ヘラナデ後ナデ。	暗灰茶色	2 mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良	畿内第Ⅲ様式。
35 二四	壺 (土師器) 包含層	口 径 22.0		体部は欠損。口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げ、外に凹面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、外面に一部タタキが残る。内面には2条の接合痕がみられる。	外 暗灰褐色 内 淡黄茶色	0.5 mm以下の長石・石英・赤褐色酸化の細砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
36 二四	同上 包含層	口 径 16.2		体部は欠損。口縁部は外上方へ外反して伸び、端部はつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	3 mm以下の長石・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	外面に黒班有。
37 二四	同上 包含層	底 径 5.0		口縁部・体部は欠損。底部は突出する平底。外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡灰色 内 灰褐色	10mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
38 二四	同上 包含層	底 径 5.4		口縁部・体部は欠損。底部は突出する平底。内外面ナデ。	淡茶灰色	角閃石・長石の細砂粒を少量含む。	良好	
39 二四	甕 (土師器) 包含層	口 径 15.6		上内方へ内湾して伸びる体部より屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。口縁部外面に2条、内面1条、体部外面に3条、内面に1条の接合痕が残る。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(9本)体部外面タタキ(3本)後ナデ、内面ナデ。	淡茶色	2 mm以下の雲母・石英・長石等の砂粒を微量に含む。	良好	外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
40	甕 (土師器) 包含層	底径 4.2		口縁部・体部は欠損。底部は突出する小さな窪み底。 外面タタキ(3本)、内面ナデ。	赤褐色	5mm以下の長石・石英角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
41	同上 包含層	口径 13.0		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡灰橙色 内 淡茶橙色～淡茶色	2mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
42	同上 包含層	口径 16.0		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上につまみ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下の角閃石・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に黒班有。
43 二四	同上 包含層	口径 16.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面タタキ(6本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	外 暗褐色～淡茶褐色 内 淡茶褐色	1mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
44 二四	同上 包含層	口径 17.4		上内方に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	1mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面に煤付着。
45	有孔鉢 (土師器) 包含層	底径 3.8		口縁部・体部は欠損。底部は突出する平底で、中央に穿孔がある。 内外面ナデ。	淡茶褐色	2.5mm以下の角閃石・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
46	鉢 (土師器) 包含層	口径 11.2		半球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部の一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	赤茶色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
47	皿 (土師器) 包含層	口径 14.8		底部の一部は欠損。平らに近い底部から上内方に内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外方につまみ丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面放射状暗文。	淡茶褐色	2mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	

第6 調査区

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (土師器) 包含層	口径 10.0		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。口縁部外面上位には2条の沈線が巡る。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(10本)。	淡茶色	3mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
2	椀 (瓦器) 包含層	口径 16.4		体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出し丸い。底部は欠損。 外面指押え後ナデ、口縁部内面ヘラミガキ。	淡茶灰色	3mm以下の長石等の砂粒を微量に含む。	良好	内外面に黒班有。
3	同上 包含層	口径 16.8		体部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ出し丸い。底部は欠損。 外面指押え後ナデ、口縁部内面ヘラミガキ。	淡茶灰色	1mm以下の長石・チャート等の砂粒を微量に含む。	良好	

第5章　まとめ

今回の調査地は、区画整理事業区域の南東部（6箇所）と北東部（1箇所）の計7箇所（第1調査区～第7調査区）である。これらの調査区は楠根川の東側に位置する。楠根川の西側の既往調査では弥生時代後期～鎌倉時代に至る遺構・遺物が多数検出されている。特に古墳時代前期（庄内式期）に比定される土器が多量に出土しており、庄内式土器の良好な資料が得られている。さらに、この調査報告の作成（昭和63年度）までには当調査研究会が17回・大阪府教育委員会5回が実施しており、それらの調査から多くの遺構・遺物を新たに検出している。

以下、今回の調査の成果について各時代ごとに要約して述べる。

弥生時代中期

今回の調査では、第4調査区の第5層内から畿内第Ⅲ様式に比定される遺物が出土している。

古墳時代前期

区画整理事業区域内の南東部で実施した第4調査区で遺構・遺物を検出している。この時期の遺構としては昭和58年度第3次調査で方形周溝墓などの墓域に関連する遺構、昭和59年度第4次調査・昭和62年度第13次調査で住居に関連する遺構を検出している。今回の調査では、第4調査区の南部で居住に関連する遺構が検出しており、新たな居住域が南東部に広がることが明らかになった。

古墳時代前期に比定され土器は第4調査区の遺構から庄内式古相～新相に比定される土器が一括で出土している。この時期の土器は既往調査（昭和57年度第1次調査・昭和58年度第3次調査）でも庄内式古相～布留式古相に比定される土器が多量に出土しており、これらの土器によって当遺跡における変遷できるであろう。また、出土した土器の中には他地域の土器が含まれており、当遺跡と他地域との交流が盛んに行われていたことがうかがえる。

古墳時代中期

今回の調査では、この時期の遺構は検出されなかった。

鎌倉時代以降

この時期の遺構は全調査区で検出した。検出した遺構は、ほとんどが農耕に関連する東西・南北方向に伸びる溝である。その後の調査（昭和61年度第8次調査）では当遺跡範囲内の北西部でこの時期の居住区域が検出されている。

以上、今回の調査で得られた成果である。その後調査においても多数の遺構・遺物が検出しており、今後、当遺跡の変遷が明らかにされるであろう。

参考文献

- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡（第3次調査）」『昭和58年度事業報告』(財) 八尾市文化財調査研究会報告6 1985
- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」『昭和59年度事業報告』(財) 八尾文化財調査研究会報告7 1985
- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡発堀調査概要」－流域下水道等整備に伴う発堀調査－ (財) 八尾市文化財調査研究会報告8 1986
- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」『昭和60年度事業報告』(財) 八尾市文化財調査研究会報告9 1986
- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」－八尾都市計画事業小阪合土地区画整理事業に伴う発堀調査－<昭和57年度 第1次調査報告書> (財) 八尾市文化財調査研究会報告10 1987
- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」－八尾都市計画事業小阪合土地区画整理事業に伴う発堀調査－<昭和58年度 第2次・第3次調査報告書> (財) 八尾市文化財調査研究会報告11 1987
- (財) 八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」－八尾都市計画事業小阪合土地区画整理事業に伴う発堀調査－<昭和59年度 第4次調査報告書> (財) 八尾市文化財調査研究会報告15 1988
- 八尾市教育委員会「6 小阪合遺跡の調査」『八尾市内遺跡昭和59年度調査報告書』 八尾市文化財調査報告11 昭和59年度国庫補助事業 1985.3
- 八尾市教育委員会「4 小阪合遺跡の調査」『八尾市内遺跡昭和60年度調査報告書』 八尾市文化財調査報告12 昭和60年度国庫補助事業 1986.3
- 八尾市教育委員会「小阪合遺跡発堀調査概要」『八尾市内遺跡昭和62年度発堀調査報告書Ⅱ』 八尾市文化財調査報告18

圖 版

図版一 第1調査区

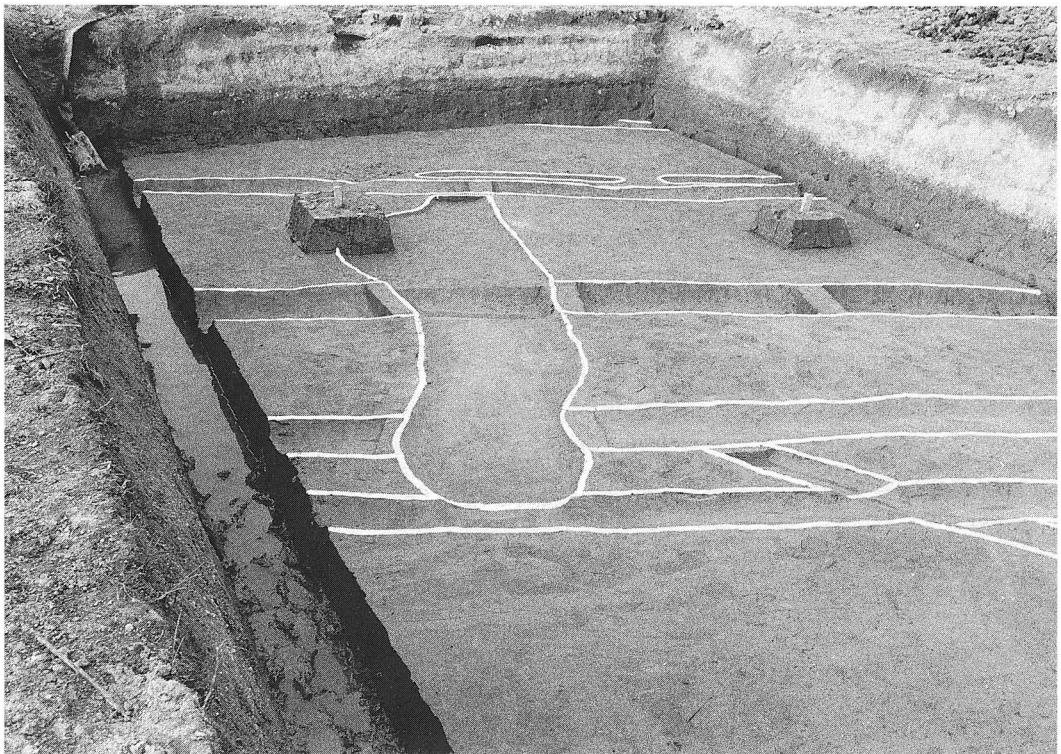


第1調査面全景(南から)

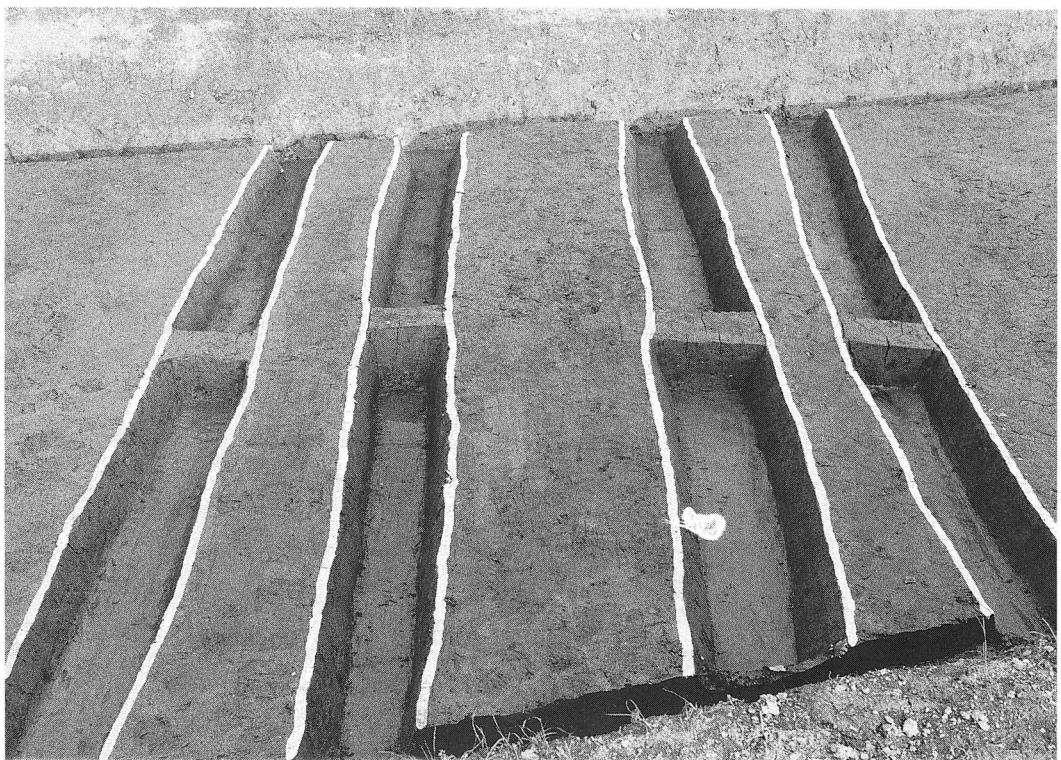


第1調査面北部(南から)

図版二 第1調査区



DV-d・e9区 SK1・SD1～SD7 (南から)



DV-f10区 SD21～SD24 (西から)

図版三 第1調査区



第2調査面全景（南から）



第2調査面北部（北から）

図版四 第1調査区(上)・第2調査区(下)

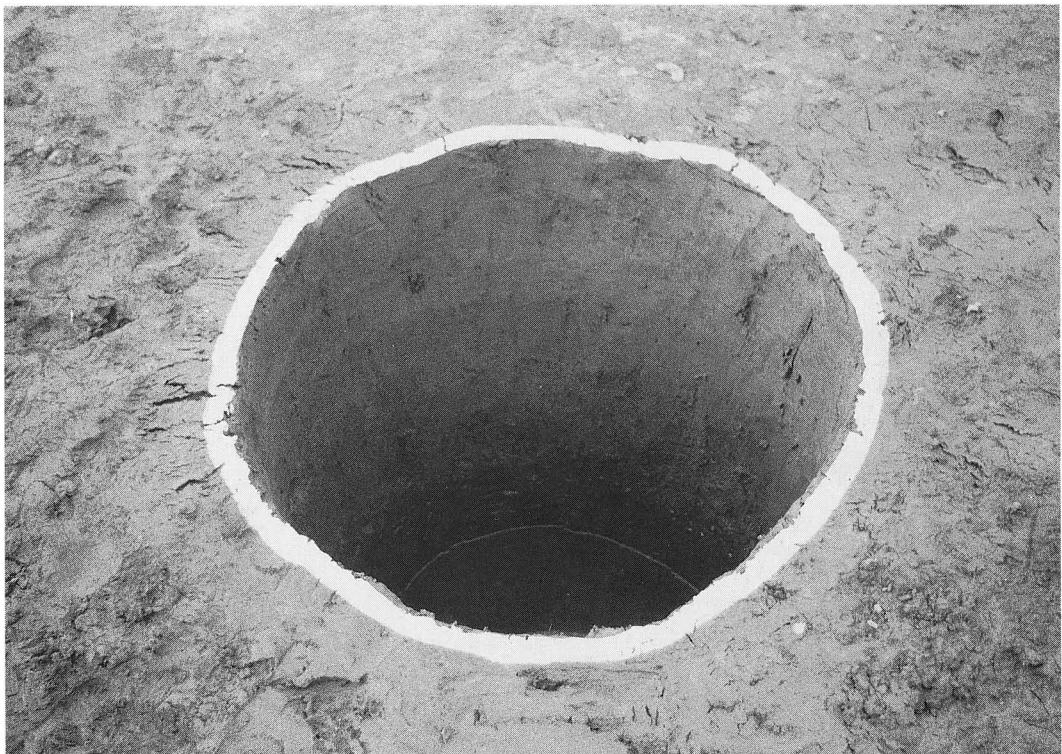


第2調査面南部（南から）

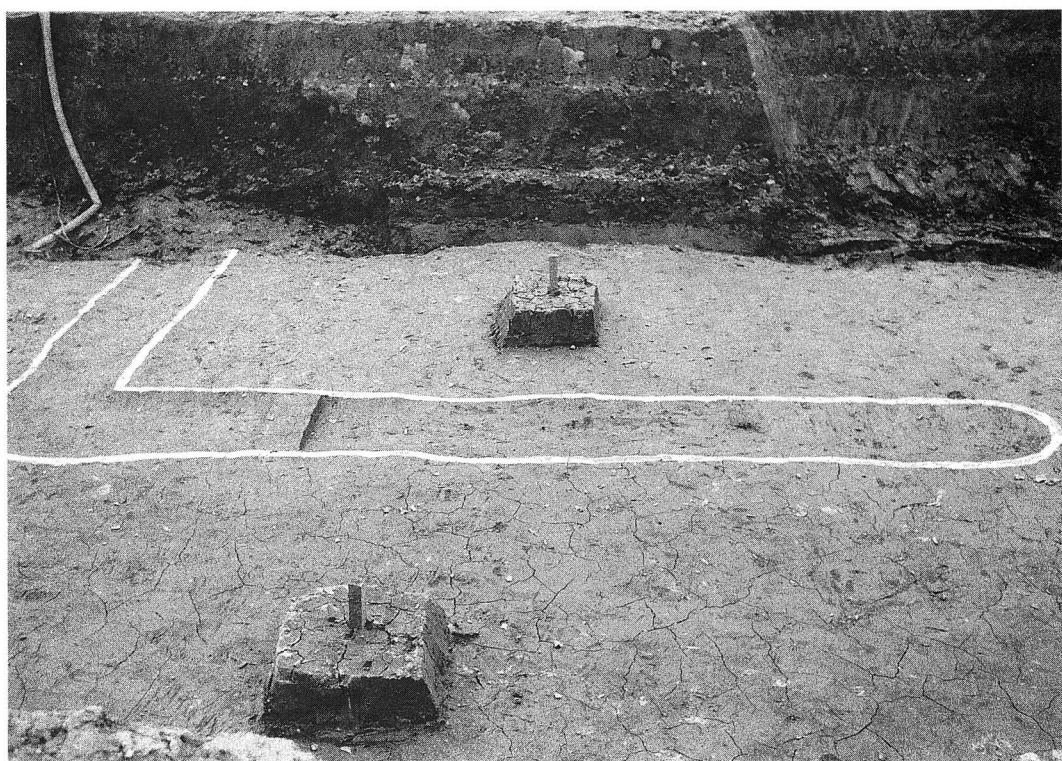


調査面全景（南から）

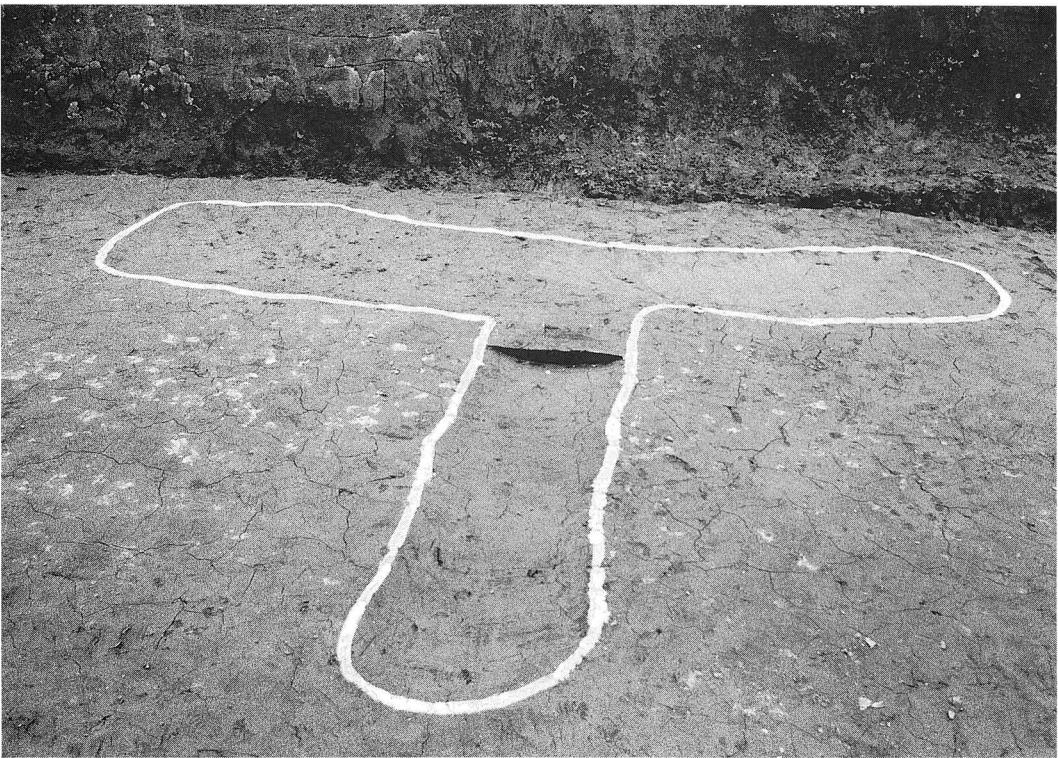
図版五 第2調査区



F VI-e5区SEI (南から)



E VI-e-f3区SDI (東から)



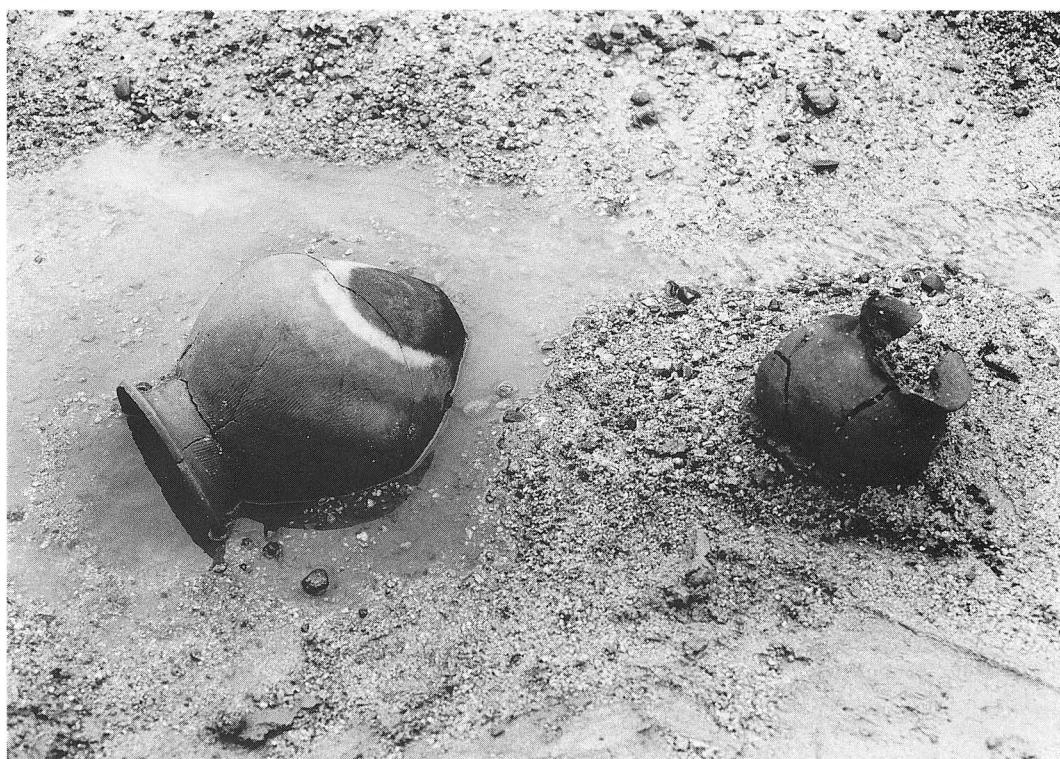
EVI-g4区SD2・SD3（東から）



FVI-d5区SD6・SD7（東から）



調査区全景（南から）



F VI-i6区河川 1 内検出弥生式土器(南から)

図版八

第3調査区(上)・第4調査区(下)



GVI-C8区河川1内検出曲物(南から)

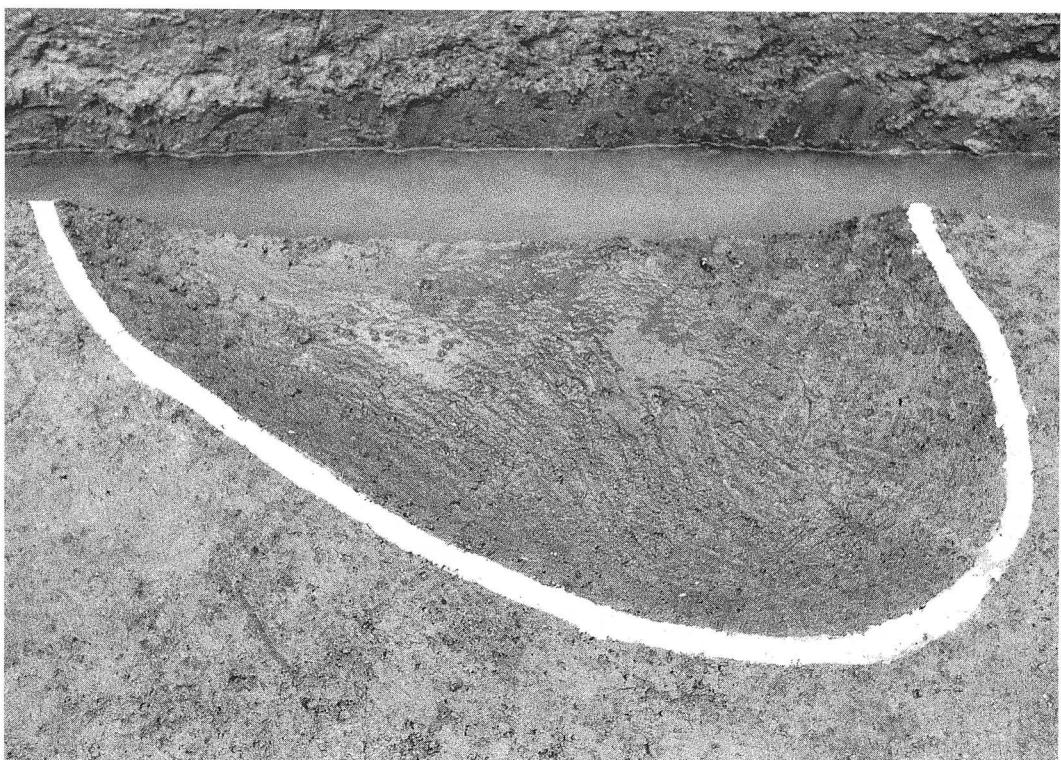


第1調査面北部(南から)

図版九 第4調査区

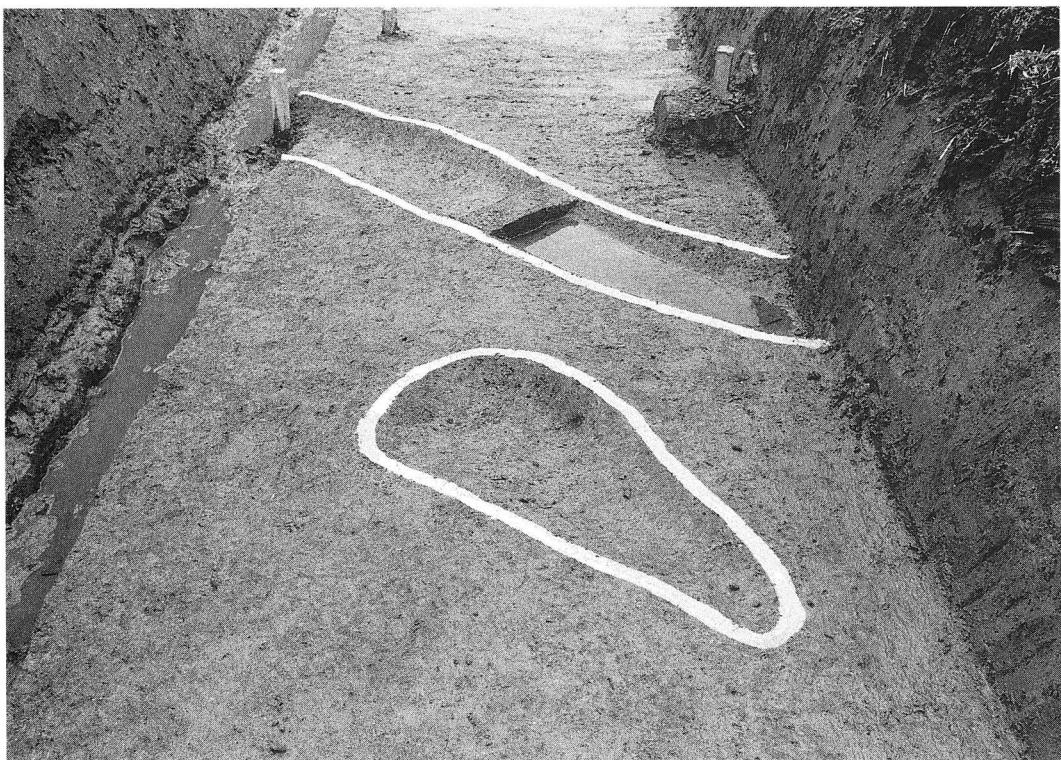


第1調査面南部(南から)

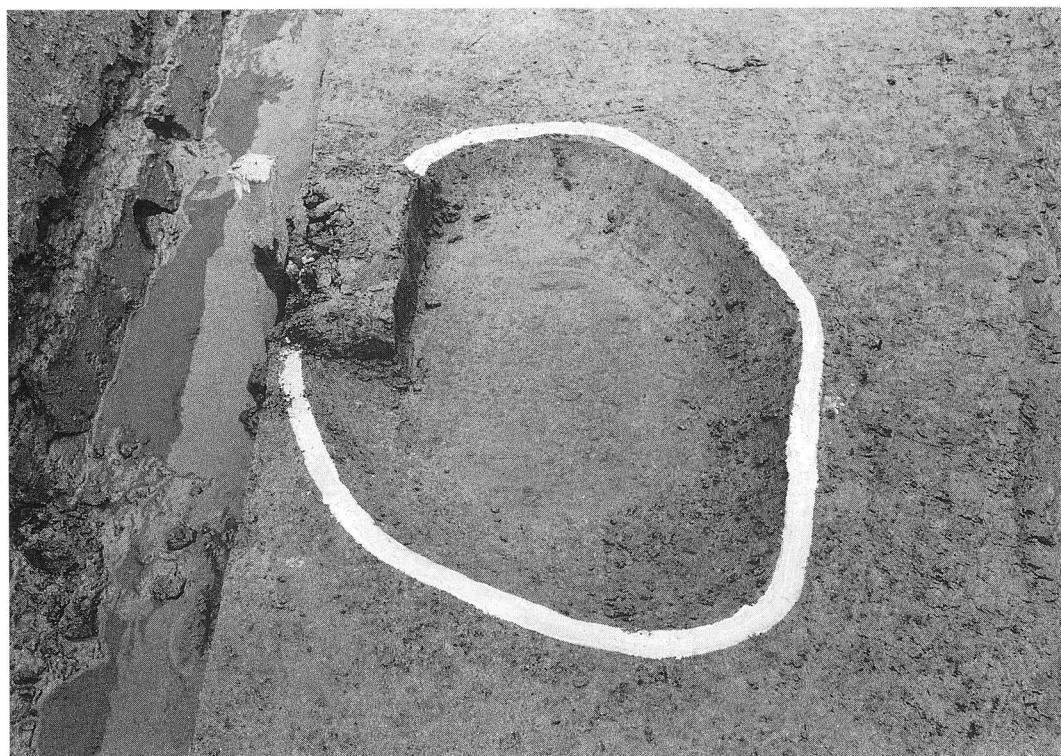


F VI-a1O区SK2 (東から)

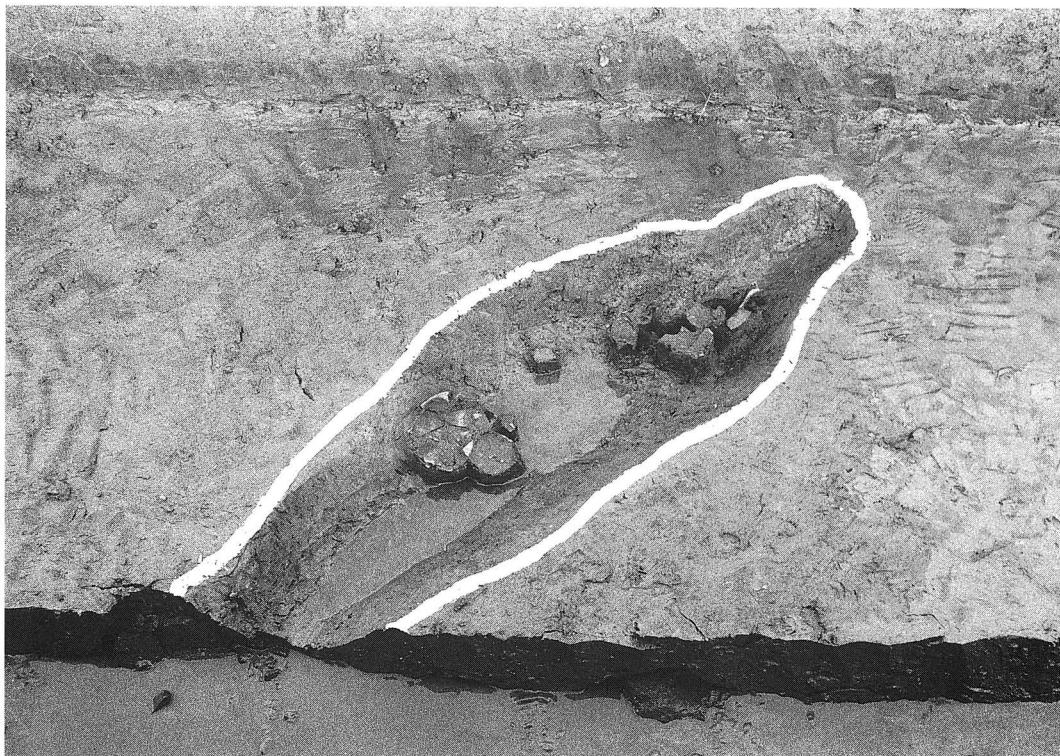
図版〇
第4調査区



F VI-d10区SK3-SD3 (南から)



F VII-C1区SK4 (南から)



G VII-e3区SK8 (西から)

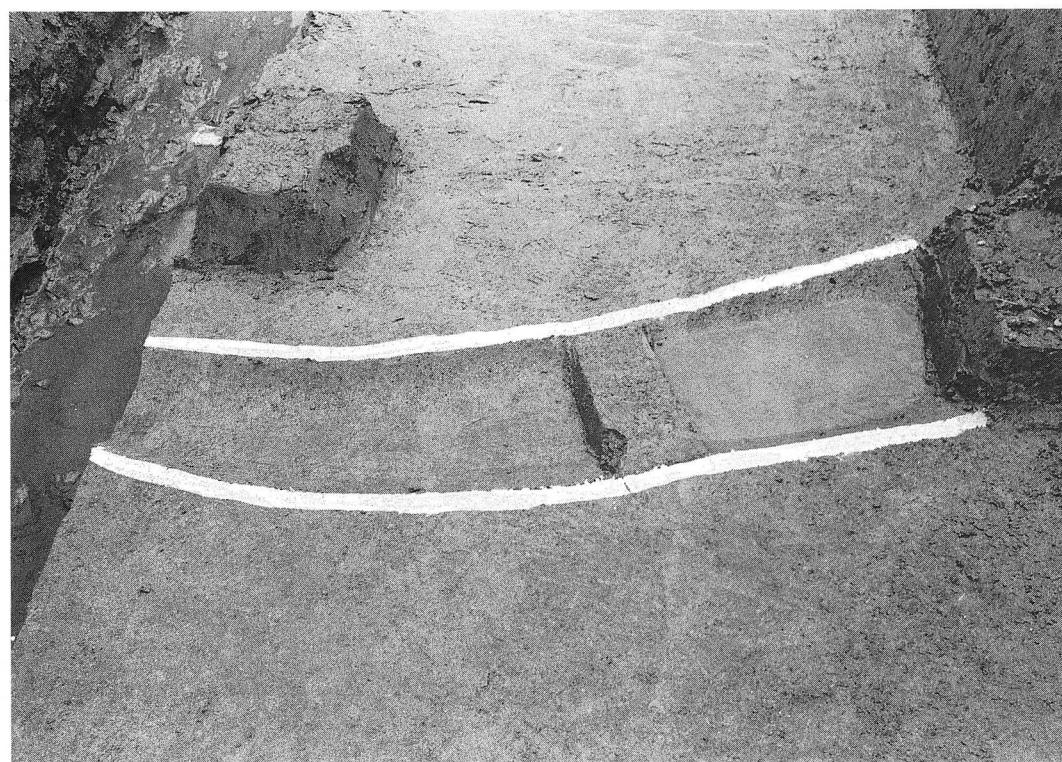


G VII-f4区SK9検出遺物 (東から)

図版一二 第4調査区

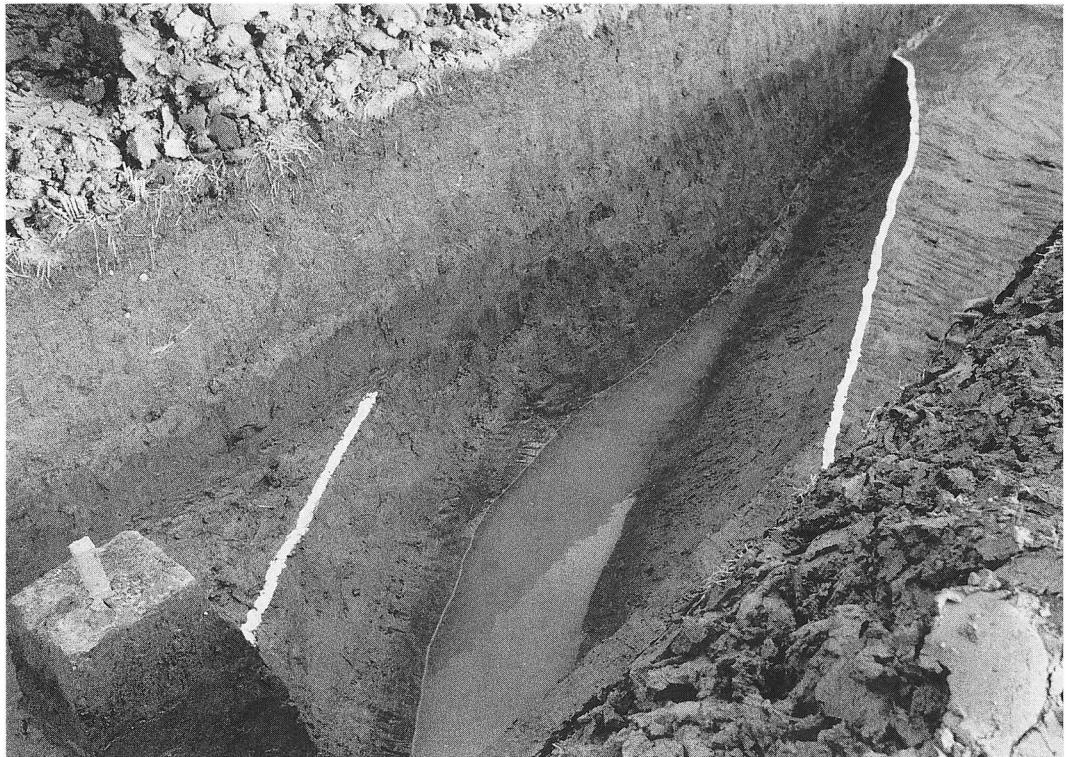


GVII-f4区SK9・SK10完掘(南から)



FVII-C1区SD4(南から)

図版一三 第4調査区

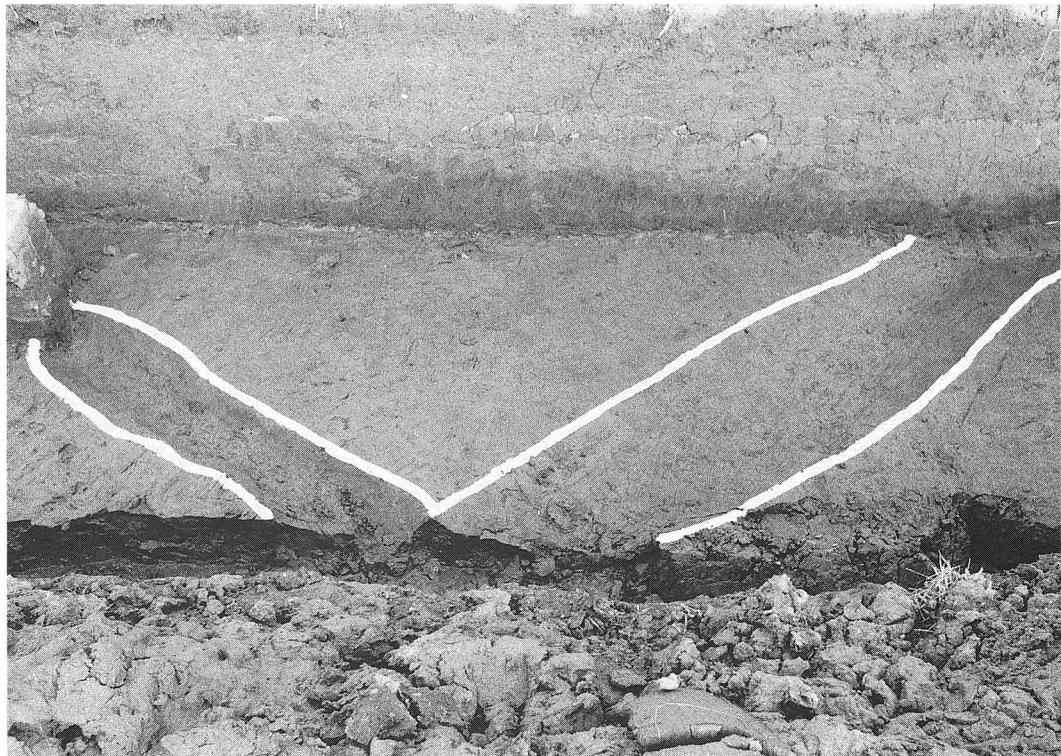


GVII-b3区SD8 (東から)



GVII-C3区SD10検出遺物 (西から)

図版一四 第4調査区

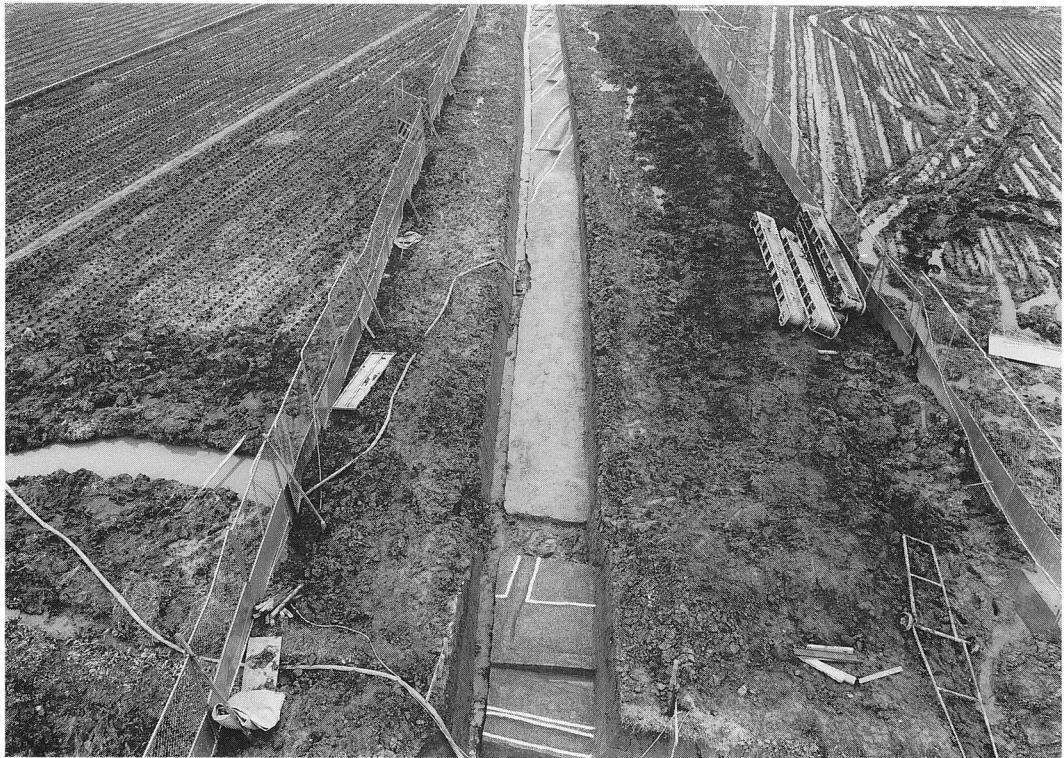


GVII-d3区SD11・SD12 (西から)

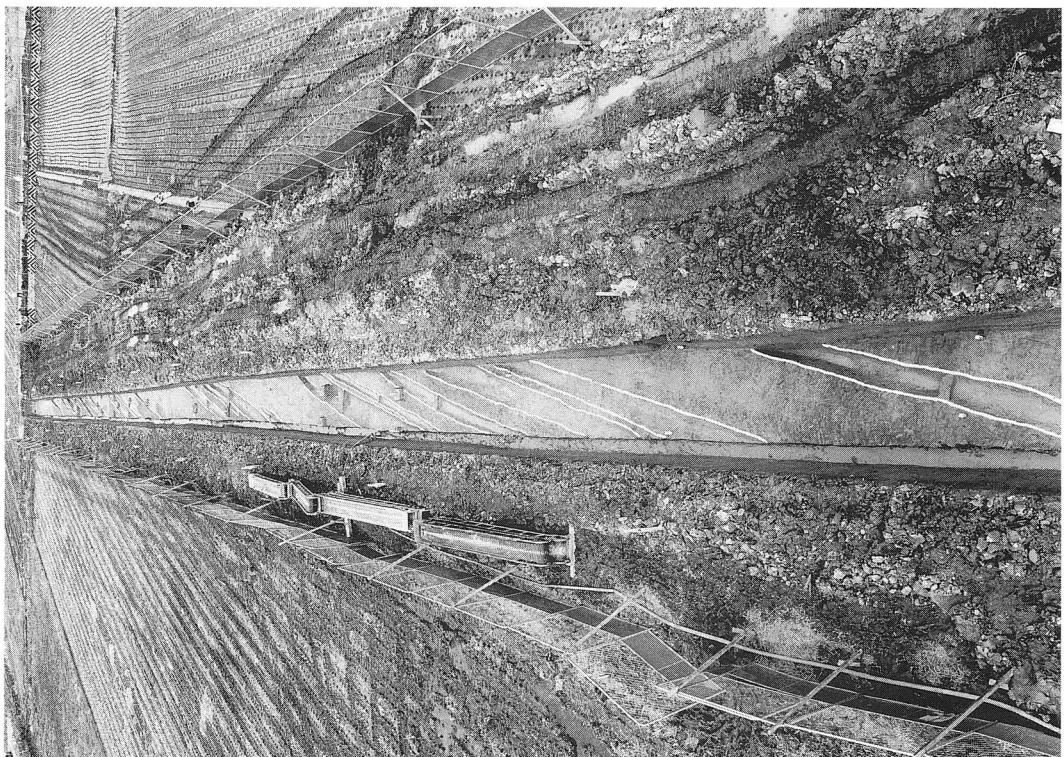


第2調査面北部(北から)

図版一五 第4調査区

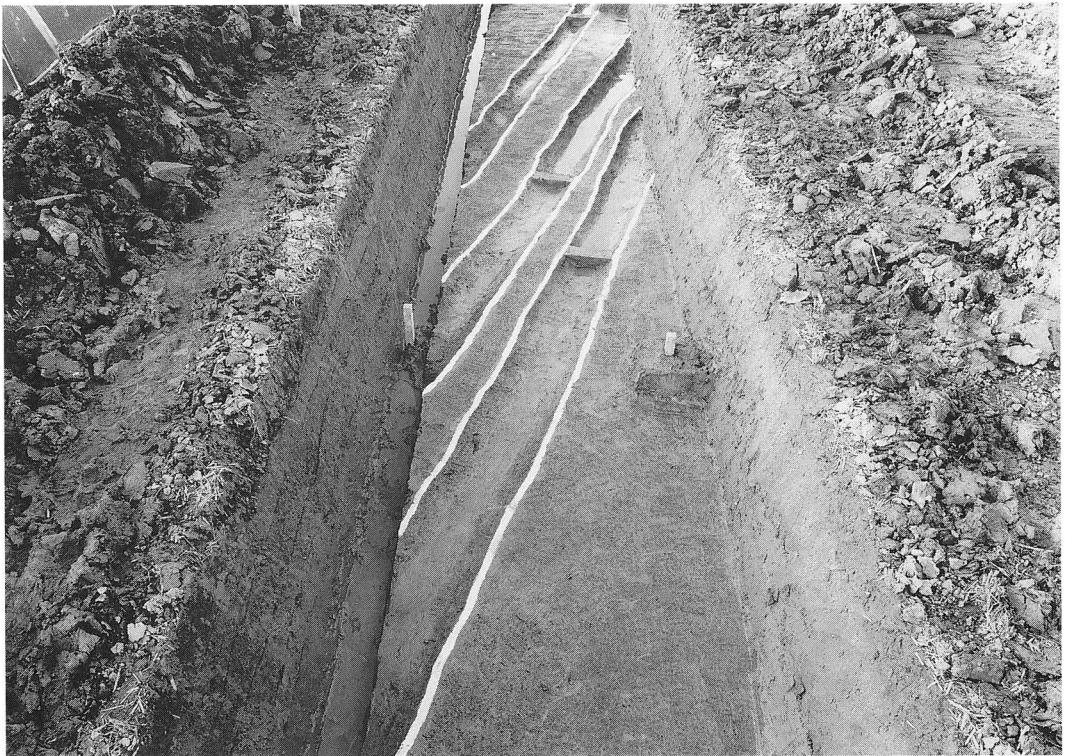


第2調査面中央部(南から)



第2調査面南部(南から)

図版一六 第4調査区(上)・第5調査区(下)



GVII-a・b2区SD46～SD48 (東から)

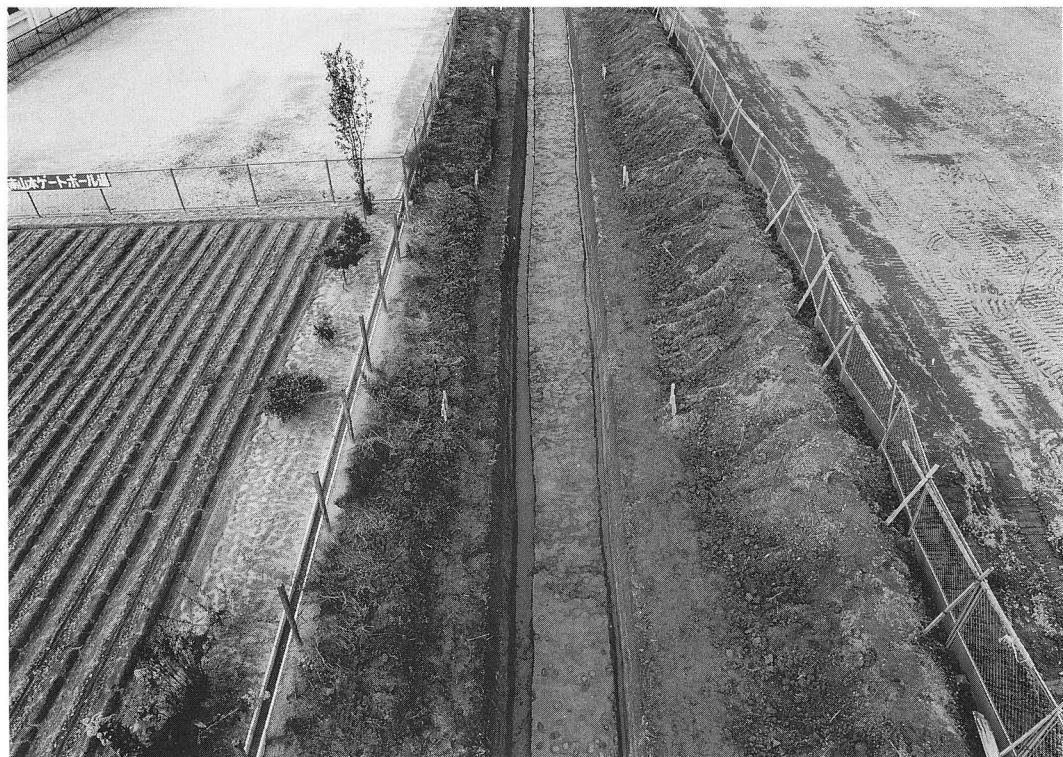


調査区全景 (西から)

図版一七 第6調査区(上)・第7調査区(下)



調査区全景(西から)



調査区全景(南から)

図版一八
第7調査区

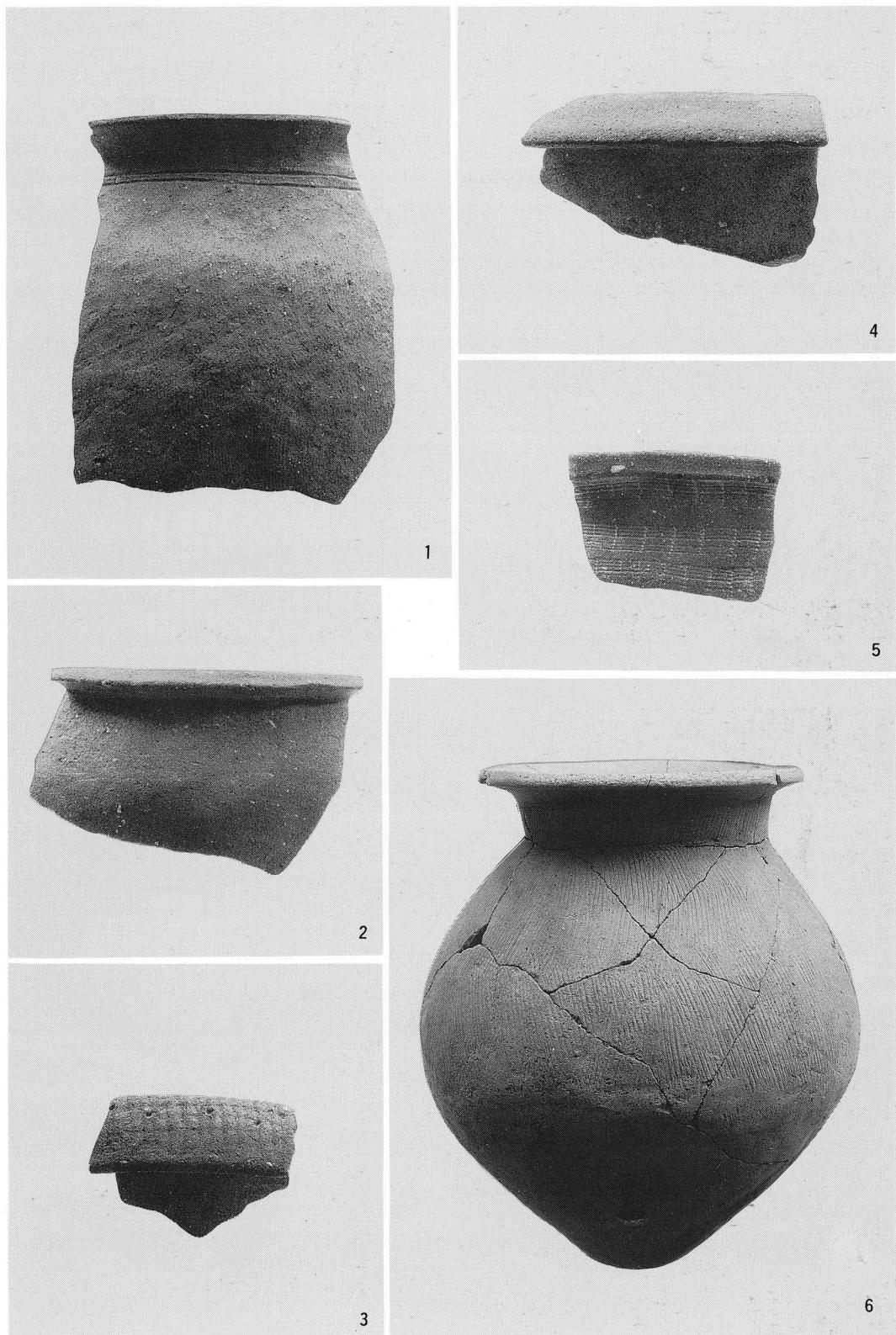


A VI-d3区畦畔(西から)

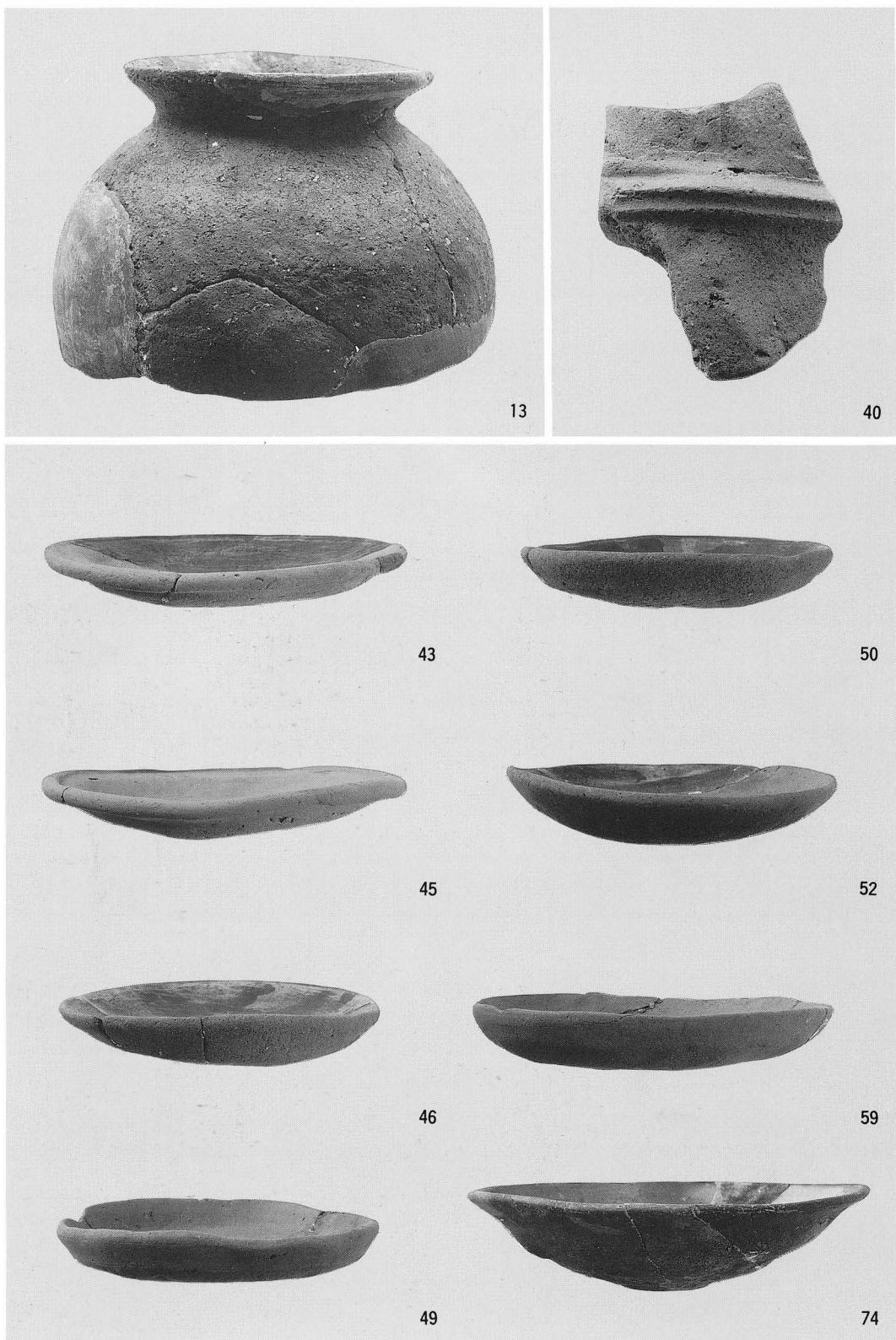


A VI-e3区SD2 (西から)

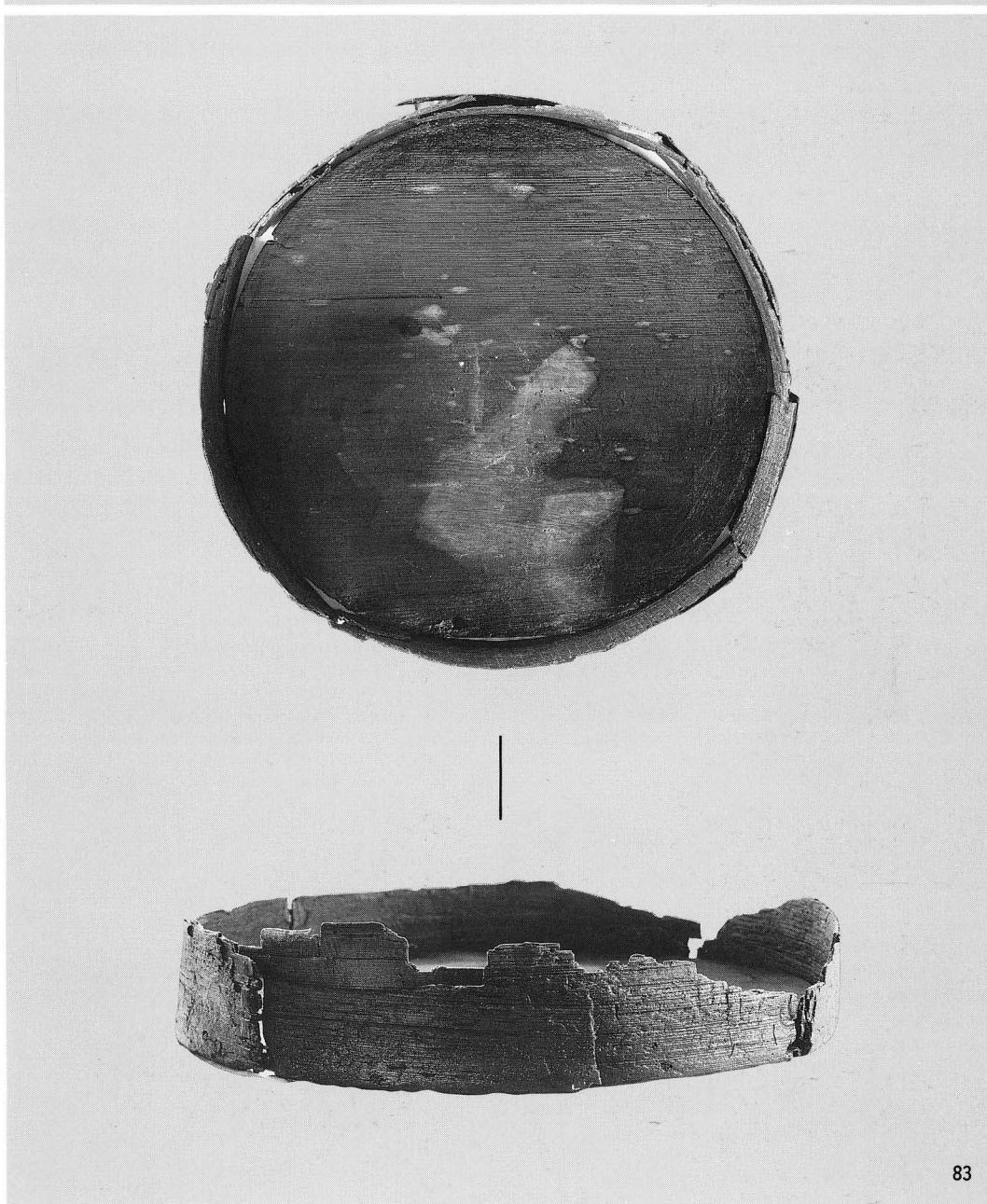
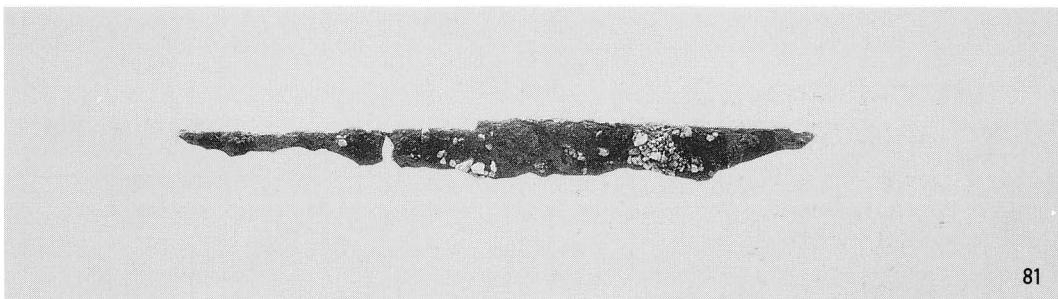
図版一九 出土遺物



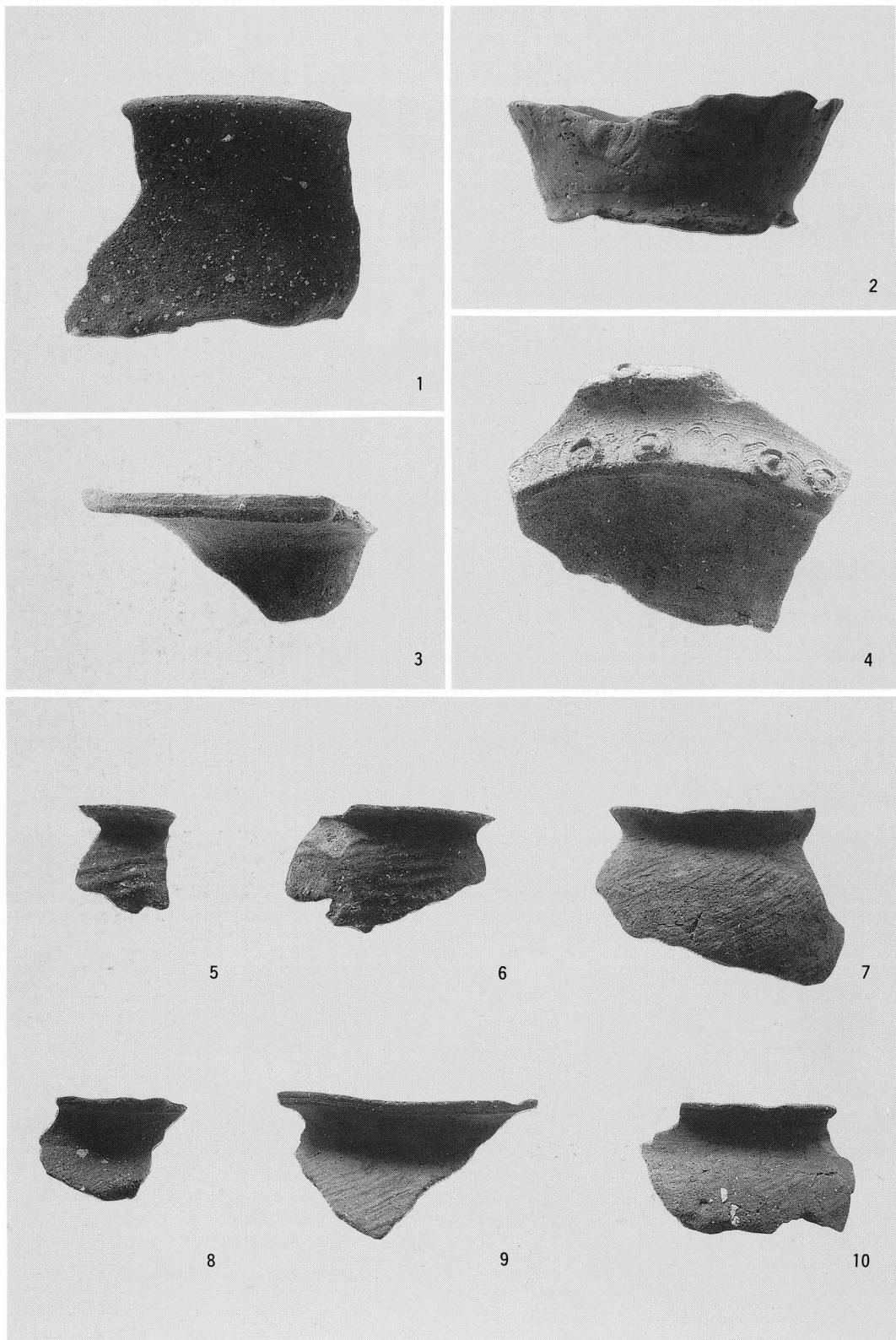
第3調査区 河川1



第3調査区 河川1

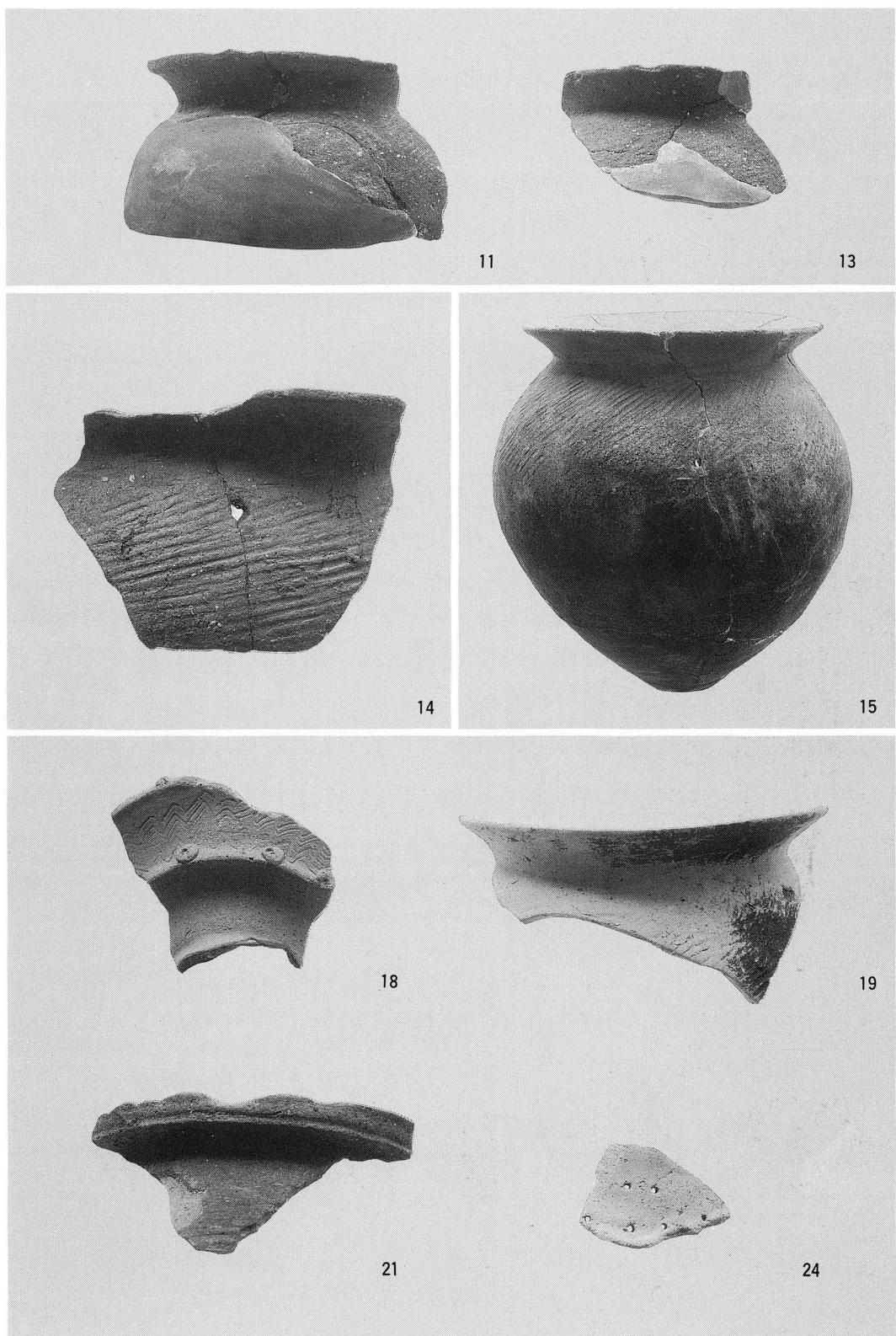


図版二三 出土遺物



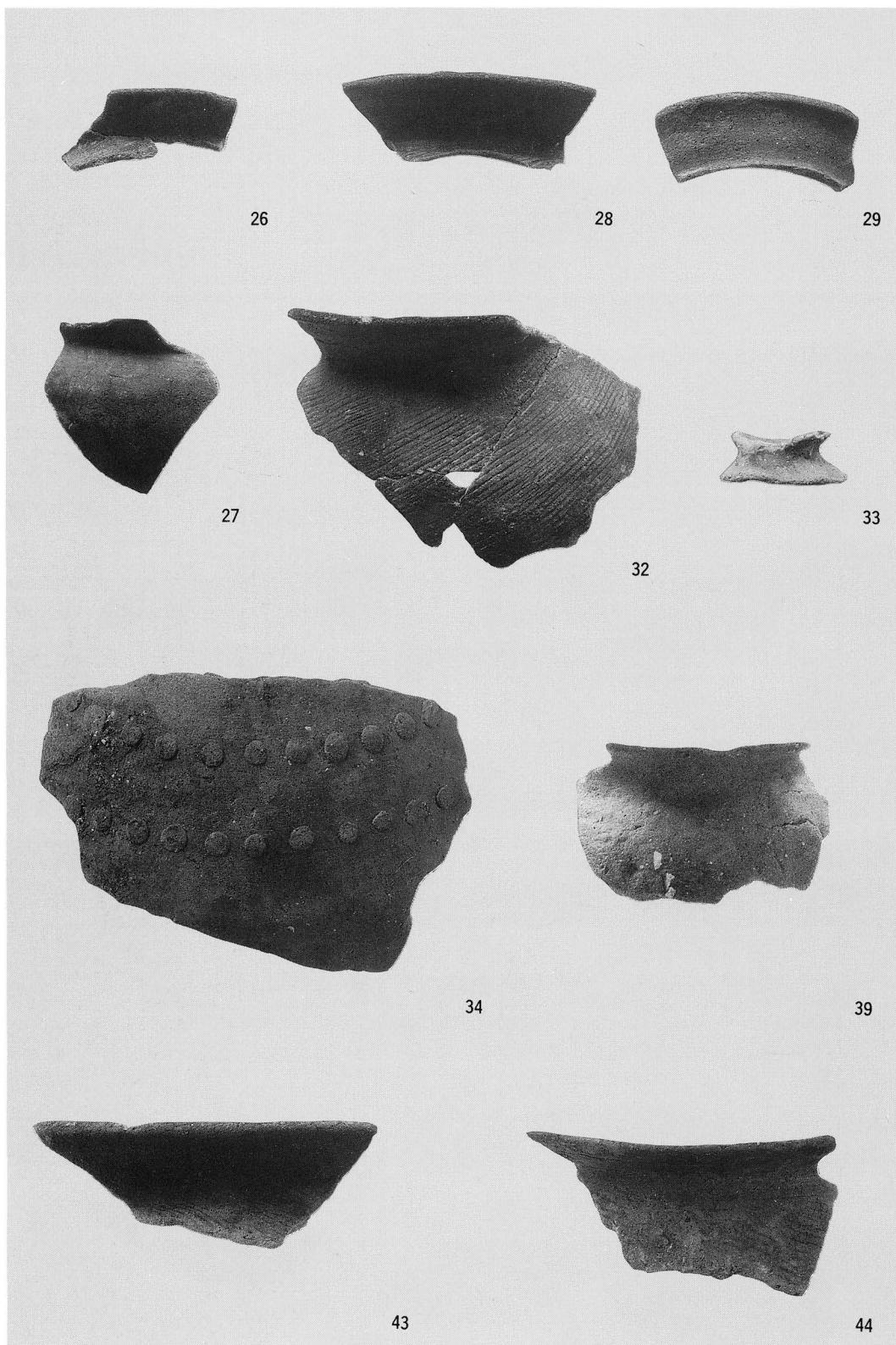
第4調査区 SK9

図版二三 出土遺物



第4調査区 SK9 11・13～15
SD8 18・19・21・24

図版二四
出土遺物



第4調査区 SD10 26~29·32·33
遺構に伴わない出土遺物 34·39·43·44

(財)八尾市文化財調査研究会報告 18
小阪合遺跡
—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—
〈昭和60年度第6次調査報告書〉

発行 平成元年3月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729)94-4700

印刷 近畿印刷センター
〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号
TEL (0729)72-5918

表紙 レザック66 <260 kg>
本文 書籍用紙 <70 kg>
図版 マットアート <135 kg>

111111

111

002